新潟県三条市

# 大原遺跡・道東遺跡

市道矢田中曽根新田線道路改良事業
に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

２０１５

三条市教育委員会

新潟県三条市　大原遺跡・道東遺跡

２０１５

三条市教育委員会

新潟県三条市

# 大原遺跡・道東遺跡

市道矢田中曽根新田線道路改良事業
に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

2015

三条市教育委員会

# 例　　言

1　本書は市道矢田中曽根新田線道路改良事業に伴って発掘調査した三条市安代 923-1 番地先から 990 番地先に所在する大原遺跡（遺跡台帳番号 298）および三条市安代 956 番から 963 番地先に所在する道東遺跡（遺跡台帳番号 395）の調査報告書である。

2　本発掘調査は三条市教育委員会（調査事務局：三条市市民部生涯学習課）が主体となって実施した。

3　発掘調査支援業務を株式会社吉田建設三条営業所（以下、「吉田建設」とする）に委託した。

4　確認調査、本発掘調査、整理・報告書作成に係る作業期間は以下の通りである。

| | | |
|---|---|---|
| 平成 26 年度 | 確認調査 | 平成 26 年 4 月 21 日～平成 26 年 5 月 2 日 |
| 平成 26 年度 | 本発掘調査 | 平成 26 年 7 月 28 日～平成 26 年 11 月 28 日 |
| 平成 26 年度 | 整理作業 | 平成 26 年 12 月 1 日～平成 27 年 1 月 20 日 |
| 平成 26 年度 | 報告書作成 | 平成 27 年 1 月 21 日～平成 27 年 3 月 20 日 |
| 平成 26 年度 | 報告書印刷 | 平成 27 年 2 月 12 日～平成 27 年 3 月 31 日 |

5　本遺跡の出土遺物、図面及び写真などの記録類は、三条市が保管、管理している。

6　遺物の注記記号は大原遺跡「14 大」、道東遺跡「14MH」として、その後に出土地点などを記入した。

7　本書で表記している座標は、世界測地系 2011 を使用した。また図表で示す方位はすべて「真北」となる。また標高については東京湾平均海水面（T.P）を使用している。

8　掲載遺物の番号は、本文及び観察表、図面図版、写真図版すべてで一致している。

9　第Ⅵ章以外の引用文献は著者及び発行年（西暦）を文中に［　］で示し、巻末に一括して掲載した。

10　科学分析については、株式会社古環境研究所に委託して実施し、その成果品の報告文を「第Ⅵ章　自然科学分析」に掲載した。

11　本書の執筆は、高野晶文（三条市）、中俣茂、瀧口泰孝（吉田建設）、松田隆二、杉山真二、金原正子（株式会社古環境研究所）があたり、編集は高野が担当した。執筆分担は以下の通りである。

第Ⅰ章・第Ⅱ章・第Ⅶ章　高野晶文、第Ⅲ章・第Ⅴ章　中俣茂、第Ⅳ章　瀧口泰孝、第Ⅵ章　松田隆二、杉山真二、金原正子

12　遺構・遺物の各種図版に関しては、Adobe 社 Illustrator を用いて作成し、Adobe 社 Indesign を用いて編集した。図版の縮尺はそれぞれに記した。遺物写真については遺物図版と同じ縮尺である。

13　古墳時代の遺物については、滝沢規朗氏（新潟県教育庁文化行政課）に、古代の遺物については、春日真実氏（公益財団法人　新潟県埋蔵文化財調査事業団）に、墨書土器については浅井勝利氏（新潟県立歴史博物館）にご教授いただいた。

14　発掘調査から本書の作成に至るまで、下記の方々から多くのご教示とご協力をいただいた。記して厚く御礼を申し上げる。（五十音順・敬称略）

浅井　勝利　　荒木　常能　　安藤　正美　　今井　秀樹　　伊藤　秀和　　岡村　　守　　小野本　敦
春日　真実　　加藤　　学　　加藤　元康　　金子　正典　　笹生　　衛　　鈴木　俊成　　高橋　保雄
滝沢　規朗　　立木　宏明　　長谷川二三夫　長谷川道子　　深澤　太郎　　藤野　一之　　松井　　寛
吉田　雅子　　六原　良雄　　渡辺　　央
新潟県教育庁文化行政課　　新潟県立歴史博物館　　公益財団法人　新潟県埋蔵文化財調査事業団

# 目　次


第Ⅰ章　序　　説……1
1　調査に至る経緯……1
2　調　査　経　過……1
A　過去の調査……1
B　確　認　調　査……2
C　本発掘調査……2
D　整　理　作　業……3
E　報告書作成作業……3
3　調査・整理体制……3

第Ⅱ章　遺跡の位置と環境……6
1　地理的環境……6
2　周辺の遺跡……6
A　古墳時代の遺跡……6
B　古代の遺跡……9
3　歴史的背景……9

第Ⅲ章　調査の概要……11
1　調査の方法……11
2　グリッドの設定……11
3　基本層序……11

第Ⅳ章　大原遺跡……14
1　遺　　構……14
A　遺構の概要……14
B　遺構の記述と表記方法……14
C　遺構各説……15
2　遺　　物……17
A　遺物の概要……17
B　遺物各説……17

第Ⅴ章　道東遺跡……20
1　遺　　構……20
A　遺構の概要……20

B　遺構の記述と表記方法……………………………20
C　遺　構　各　説……………………………20
2　遺　　物……………………………31
A　遺 物 の 概 要……………………………31
B　遺　物　各　説……………………………31

第VI章　自然科学分析……………………………37

1　放射性炭素年代測定……………………………37
A　は　じ　め　に……………………………37
B　試 料 と 方 法……………………………37
C　測　定　結　果……………………………37
D　所　　　見……………………………38
2　植物珪酸体分析……………………………39
A　は　じ　め　に……………………………39
B　試　　　料……………………………39
C　分　析　法……………………………39
D　分　析　結　果……………………………39
E　植物珪酸体分析から推定される植生と環境……………………………40
3　花　粉　分　析……………………………41
A　は　じ　め　に……………………………41
B　試　　　料……………………………41
C　方　　　法……………………………41
D　結　　　果……………………………42
E　花粉分析から推定される植生と環境……………………………43
4　珪　藻　分　析……………………………44
A　は　じ　め　に……………………………44
B　試　　　料……………………………44
C　方　　　法……………………………44
D　結　　　果……………………………44
E　珪酸分析から推定される堆積環境……………………………46

第VII章　ま　と　め……………………………51
1　遺物について……………………………51
A　古墳時代の遺物について……………………………51
B　古代の遺物について……………………………51
2　遺構について……………………………53

3　ま　と　め ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・54

《要　　約》 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・56
《引用・参考文献》・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・57
《遺 構 観 察 表》・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・59
《遺 物 観 察 表》・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・62

# 挿 図 目 次

第1図　本調査範囲と過去の調査・・・・・・・・・・ 4
第2図　大原遺跡・道東遺跡試掘トレンチ位置・・・ 5
第3図　地形概念図・・・・・・・・・・・・・・・・ 7
第4図　大原遺跡・道東遺跡と周辺の遺跡位置図・・ 8
第5図　大原遺跡・道東遺跡と周辺の遺跡・・・・・10
第6図　グリッド設定図・・・・・・・・・・・・・12
第7図　基本層序・・・・・・・・・・・・・・・・・13
第8図　遺構の平面形態と断面形態の分類・・・・・14
第9図　暦年較正結果・・・・・・・・・・・・・・・38
第10図　大原遺跡・道東遺跡における
植物珪酸体分析結果・・・・・・・・47
第11図　大原遺跡における花粉ダイアグラム・・・・47
第12図　道東遺跡における花粉ダイアグラム・・・・47
第13図　大原遺跡・道東遺跡の植物珪酸体
(プラントオパール)・・・・・・・・48
第14図　大原遺跡・道東遺跡の花粉・・・・・・・・49
第15図　大原遺跡・道東遺跡の珪藻・・・・・・・・50
第16図　大原遺跡出土墨書土器墨書比較図・・・・・52
第17図　道東遺跡出土土器の位置付け・・・・・・・55

# 表 目 次

第1表　基本層序確認表・・・・・・・・・・・・・12
第2表　測定資料及び処理・・・・・・・・・・・・37
第3表　測定結果・・・・・・・・・・・・・・・・・38
第4表　大原遺跡・道東遺跡における
植物珪酸体分析結果・・・・・・40
第5表　大原遺跡・道東遺跡における
花粉分析結果・・・・・・42
第6表　大原遺跡・道東遺跡における
珪藻分析結果・・・・・・45

# 図 版 目 次


［図面図版］

図版１　大原遺跡調査区全体図
図版２　大原遺跡遺構分割図（１）
図版３　大原遺跡遺構分割図（２）
図版４　大原遺跡遺構個別図（１）
図版５　大原遺跡遺構個別図（２）
図版６　道東遺跡調査区全体図
図版７　道東遺跡古墳時代遺構分割図（１）
図版８　道東遺跡古墳時代遺構分割図（２）
図版９　道東遺跡古墳時代遺構個別図（１）
図版10　道東遺跡古墳時代遺構個別図（２）
図版11　道東遺跡古墳時代遺構個別図（３）
図版12　道東遺跡古墳時代遺構個別図（４）
図版13　道東遺跡古墳時代遺構個別図（５）
図版14　道東遺跡古代遺構分割図（１）
図版15　道東遺跡古代遺構分割図（２）
図版16　道東遺跡古代遺構個別図（１）
図版17　道東遺跡古代遺構個別図（２）
図版18　道東遺跡古代遺構個別図（３）
図版19　大原遺跡出土遺物（１）
図版20　大原遺跡出土遺物（２）
図版21　大原遺跡出土遺物（３）
図版22　大原遺跡出土遺物（４）
図版23　道東遺跡出土遺物（１）
図版24　道東遺跡出土遺物（２）
図版25　道東遺跡出土遺物（３）
図版26　道東遺跡出土遺物（４）
図版27　道東遺跡出土遺物（５）
図版28　道東遺跡出土遺物（６）
図版29　道東遺跡出土遺物（７）

［写真図版］

図版30　遺跡遠景
図版31　調査区全景
図版32　大原遺跡調査区全景・基本層序
　・道東遺跡調査区全景
図版33　道東遺跡調査区全景・基本層序
図版34　大原遺跡１区土坑・溝
図版35　大原遺跡１区溝
図版36　大原遺跡１区溝・２区溝
　・１区ピット・性格不明遺構
図版37　大原遺跡１区性格不明遺構・積石痕跡
　・道東遺跡４区・３区土坑・４区土坑
図版38　道東遺跡４区土坑
図版39　道東遺跡４区溝・性格不明遺構
図版40　道東遺跡４区性格不明遺構
図版41　道東遺跡４区性格不明遺構・２区溝・４区溝
　・掘立柱建物
図版42　道東遺跡４区掘立柱建物
図版43　道東遺跡４区掘立柱建物
図版44　道東遺跡４区溝
図版45　大原遺跡出土墨書土器・遺跡航空写真
図版46　大原遺跡出土遺物（１）
図版47　大原遺跡出土遺物（２）
図版48　大原遺跡出土遺物（３）
図版49　大原遺跡出土遺物（４）
図版50　道東遺跡出土遺物（１）
図版51　道東遺跡出土遺物（２）
図版52　道東遺跡出土遺物（３）
図版53　道東遺跡出土遺物（４）
図版54　道東遺跡出土遺物（５）
図版55　道東遺跡出土遺物（６）
図版56　道東遺跡出土遺物（７）

# 第Ⅰ章　序　　説

## 1　調査に至る経緯

現在の三条市は、平成17年５月に三条市・栄町・下田村が合併して誕生した。その際に、旧栄町時代から町道として整備を進めていた矢田中曽根新田線（東西線）について新市建設計画登載事業の一つとして、引き続き整備されることとなった。矢田中曽根新田線は、県道大面保内線から県道長岡見附三条線、国道８号を経て西蒲原郡方面にアクセスする幹線道路である。道路予定地内で用地買収の済んだ地点から順に試掘確認調査を実施し、今までに新堀遺跡、北潟甲遺跡、戸口遺跡の調査を実施している。今回、用地買収をした範囲はＪＲ信越線の東側約460ｍの範囲である。用地内の西側は大原遺跡（遺跡番号298）が所在することから、取り扱いを協議した結果、確認調査を実施することとなった。

## 2　調　査　経　過

### A　過去の調査（第1図）

大原遺跡は平安時代の遺物が表採できる遺跡として安代遺跡とともに昭和56年刊の栄村誌に既に報告されている。その後、平成２年から開始した新潟県営大面地区圃場整備事業に先立ち周知の埋蔵文化財包蔵地を把握する目的で昭和63年９月26日～27日の２日間に表採調査を実施して道西遺跡を発見している。その後、平成３年５月21日～５月31日に大原遺跡、道西遺跡、安代遺跡について確認調査を実施して、遺跡が良好な状態で発見されている状況を確認し、協議の結果、削平されない水田部分を除く農業用水路および畑地について本発掘調査を実施することとした。本発掘調査は平成３年９月24日から12月２日までまず大原遺跡側から、道西遺跡、安代遺跡の順で調査を行った。調査面積はそれぞれ安代遺跡1,000㎡、道西遺跡畑地3,185㎡、大原遺跡600㎡であり、畑地を含み面的な調査を行った道西遺跡の調査面積が大きくなっている。調査の結果、８世紀前半から９世紀後半にいたる時期の遺構、遺物が発見されており、平安時代の集落の様相の一端が明らかとなっている。

市道矢田中曽根新田線建設関連では、新堀遺跡周辺について平成９年３月24～28日まで確認調査を実施し、古代から中世にかけての遺構・遺物が発見され、本調査を行うこととなった。調査対象面積は1606.8㎡である。遺構は調査区全体に分布するが、比較的東側の遺構密度が濃かった。特徴的な遺構として、９枚の古銭が出土した土坑があり、墓の可能性を指摘した。遺物は古墳時代の土師器、平安時代の須恵器の無台杯、有台杯、杯蓋、長頸壺、甕、また土師器の甕、鉢、椀、蓋などが出土した。本調査では、古墳時代後期から古代、中世にかけての遺構・遺物が検出でき、遺構の分布が東側に偏りを見せることから、栄町役場建設に伴う調査で検出された集落の続きである可能性が指摘できる。

北潟甲遺跡周辺については平成２年から始まった大面地区圃場整備事業の対象となっていたが、昭和63年度に実施した分布調査の対象外であり、新潟県教育庁文化行政課と協議の結果、平成12年10月16日～10月31日に確認調査を実施した。弥生時代から古墳時代にかけての遺物が発見された範囲について平成14年

8月26日～12月17日に842.2㎡について本調査を実施した。

戸口遺跡は昭和57年、新潟県営福多地区圃場整備事業に伴う分布調査において、須恵器、中世陶磁器が発見され埋蔵文化財包蔵地として登録された。その後、矢田中曽根新田線の岩潟から戸口にかけての範囲について遺跡が隣接し未周知の遺跡が存在する可能性があり、事前協議資料を作成するための試掘調査を平成11年6月22日～6月24日にかけて実施した。調査の結果開発予定地内に遺跡は存在しないこととされた。その後、平成17年10月、三条市土木課から新堀から戸口間の道路法線の一部を変更したいとの計画変更に伴い埋蔵文化財について照会があった。計画では戸口遺跡内を縦断することから平成17年11月28日に戸口集落の南側部分について確認調査を実施し、遺跡が良好な状況で残存している状況を確認した。平成18年9月20日～11月30日に920㎡について第1次調査を実施し、平成19年3月1日～3月17日にかけて工事関係で未了であった109㎡について第2次調査を実施した。

## B 確 認 調 査（第2図）

市道矢田中曽根新田線のJR信越線から東側460mについて買収が終了したことから確認調査を、平成26年4月21日～5月2日まで実施した。合計35か所のトレンチについて調査を行った結果、周知の埋蔵文化財包蔵地である大原遺跡の範囲から良好な状態で遺跡が残存している状況と市道安代2号線を挟んで東西約160mの範囲に部分的に古代と古墳時代の2面をもつ遺跡が発見された。その後、周知化を行い小字名から道東遺跡として大原遺跡とともに平成26年度に本発掘調査を実施することとした。

## C 本 発 掘 調 査

**調査期間：平成26年7月28日～11月28日**

**調査面積：大原遺跡1483.8㎡**

**道東遺跡上層673.3㎡**

**道東遺跡下層1999.7㎡**

平成26年7月7日より仮設設備の設置を開始した。14日から道東遺跡の開渠部分の調査と開渠の設置を行った。19日から大原遺跡の開渠の設置を行った。17日から道東遺跡1区の表土掘削を開始した。28日から道東遺跡1区に作業員を投入して本格的な調査を開始した。29日から道東遺跡2区の調査を開始し、道東遺跡3区開渠の設置と表土掘削を開始した。8月28日から大原遺跡の表土掘削を開始した。9月4日にラジコンヘリコプター、高所作業車による道東遺跡1・2・3区の空中写真撮影を行った。9月6日から道東遺跡4区の表土掘削を開始した。19日から大原遺跡の遺構掘削を開始した。また、同日市道安代2号線の切り回しをして道東遺跡4区の市道下部分の調査に着手した。26日から道東遺跡4区の遺構掘削を開始した。10月10日に大面小学校6年生37名が大原遺跡を見学した。18日に遺跡めぐり参加者14名が遺跡を見学した。19日に現地説明会を実施し117名の見学者が訪れた。21日に保内小学校6年生26名、大面小学校6年生36名、22日に栄北小学校6年生18名が遺跡を見学した。11月1日にラジコンヘリコプター、高所作業車による大原遺跡および道東遺跡4区の市道安代2号線部分の空中写真撮影を行った。翌4日から大原遺跡の重機による最終確認と基本層序の作成を開始した。10日までに大原遺跡の調査を全て終了し、三条市建設部建設課に現地を引渡した。19日市道安代2号線の復旧を完了した。11月21日ラジコンヘリコプター、高所作業車による道東遺跡4区の空中写真撮影を行った。21日より道東遺跡4区の人力によるサブトレンチ掘削と重機による最終確認を開始した。28日に全ての調査を終了した。12月11日に道東遺跡およ

び作業ヤード等の残りの全ての土地について三条市建設部建設課に現地を引渡した。

### D　整　理　作　業

**調査期間：平成26年12月１日～平成27年１月20日**

現場発掘調査終了後、12月１日より整理作業を開始した。遺物の水洗い、注記、現場写真整理、遺構実測図整理、遺物実測、遺構実測図トレース、遺物実測図トレース、遺構カード作成、デジタルカメラ写真整理などを実施した。

### E　報告書作成作業

**調査期間：平成27年１月21日～平成27年３月20日**

平成27年１月21日からは、報告書の作成に着手した。遺構・遺物図版作成、写真図版作成、報告書執筆、報告書編集、遺物収納などの作業を実施した。

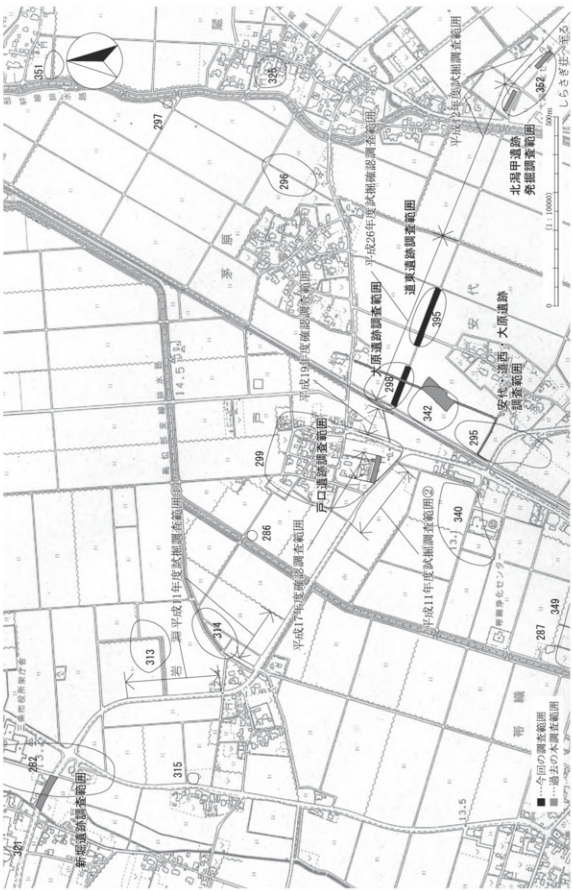
## 3　調査・整理体制

平成26年度　試掘確認調査

調査主体　　三条市教育委員会　教育長　長谷川　正二
調査指導　　新潟県教育庁文化行政課
調査事務局　三条市市民部生涯学習課
管　　理　長谷川　健康（生涯学習課長）
管理補佐　金子　成郎　（生涯学習課課長補佐）
指　　導　田村　浩司　（生涯学習課文化財係長）
調査担当　高野　晶文　（生涯学習課主任）
調査員　　宮田　志保　（生涯学習課Ⅰ類期限付任用職員）
調査作業員　兼古　礼子　（生涯学習課Ⅳ類期限付任用職員）
確認調査発掘作業委託　小柳建設株式会社

平成26年度　現場発掘調査・整理作業・報告書作成作業

調査主体　　三条市教育委員会　教育長　長谷川　正二
調査指導　　新潟県教育庁文化行政課
調査事務局　三条市市民部生涯学習課
管　　理　長谷川　健康（生涯学習課長）
管理補佐　金子　成郎　（生涯学習課課長補佐）
指　　導　田村　浩司　（生涯学習課文化財係長）
調査担当　高野　晶文　（生涯学習課主任）
調査作業員　兼古　礼子　（生涯学習課Ⅳ類期限付任用職員）
発掘調査支援業務委託　株式会社吉田建設三条営業所
発掘調査技術員　　中俣　茂
　　澁口　泰孝




第１図　本調査範囲と過去の調査

第２図　大原遺跡・道東遺跡試掘トレンチ位置

# 第Ⅱ章　遺跡の位置と環境

## 1　地理的環境（第3図）

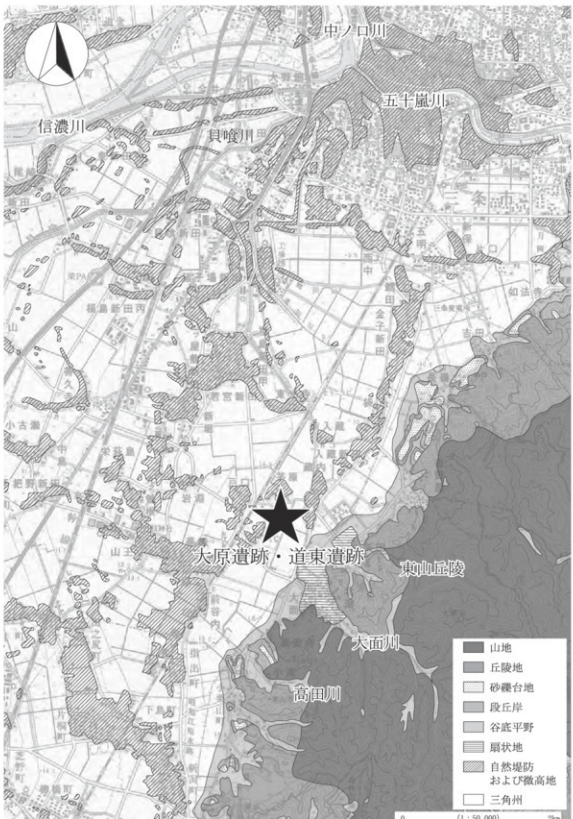
大原遺跡、道東遺跡の所在する三条市は新潟県のほぼ中央部に位置し、信濃川右岸の新潟平野東南部に立地する。下田地区に源流を持つ五十嵐川は、市内を貫流し新潟県を代表する大河である信濃川に注いでいる。五十嵐川と見附市から市内西側を流れる刈谷田川までの地区を嵐南地区と呼び、三条市内の三条地区の南側と栄地区、見附市の北東部が相当する。嵐南地区には東山丘陵から大面川や高田川といった小河川が北西方向に向かって流れ、信濃川に合流している。こうした小河川の旧河道によって自然堤防と後背湿地が形成され、沖積地の進出が進む縄文晩期以降の遺跡は周囲より一段高くなった自然堤防上の微高地に営まれていることが多い。現在の嵐南地区の集落についても東部の東山丘陵沿いに展開する集落と沖積低地の自然堤防上に帯状に展開する集落からなっている。

大原遺跡は三条市安代923-1番地先～990番地先に所在し、今回の調査区は東経138° 55′ 57″、北緯37° 34′ 41″に位置している。道東遺跡は三条市安代956番～963番地先に所在し、今回の調査区は東経138° 56′ 4″、北緯37° 34′ 39″に位置している。大原遺跡、道東遺跡からの眺望は、東側に東山丘陵の大龍山とその背後に守門岳をわずかに望み、広大な平野が開けた西北側には弥彦山と角田山が並び、東側の丘陵とは対照的な景観となっている。

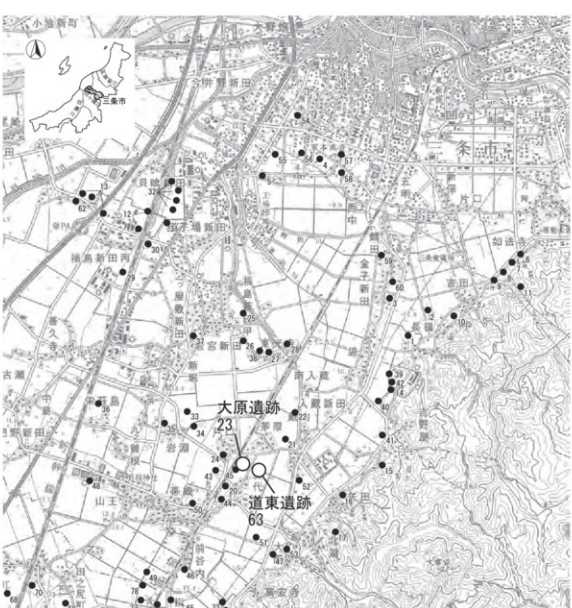
## 2　周辺の遺跡（第4図・第5図）

### A　古墳時代の遺跡

古墳時代の周辺の遺跡は、見附市の北側から嵐南地区の東山丘陵に沿う沖積地の自然堤防上に展開している。安代・道西・大原遺跡は時期が古代中心の遺跡であるが、安代・道西遺跡からは若干の古式土師器が出土しており、その立地から道東遺跡との相関性が伺われる［大橋1992］。新堀遺跡は中世が主体となる遺跡であるが市道矢田中曽根新田線建設にともなう発掘調査で古式土師器が若干出土している［武田2006］。この他、新堀遺跡では三条市栄体育館建設に伴う発掘調査でも古墳時代と考えられる土師器片が１点出土しているが量は少ないため古墳時代の遺跡の中心は南側にあったと考えられる［北村・高野2013］。石塚遺跡からは詳細は不明であるが、確認調査に際して遺跡の一部から古式土師器が発見されており古墳時代にも活動があったことが想定される［大橋1991］。乙号Ａ遺跡は前谷地から見附市北部の貴舟休場遺跡、前田遺跡に続く自然堤防上に立地していると考えられる古墳時代前期の遺跡である［大橋1994］。貴舟休場遺跡は古墳時代前期を中心に古墳時代後期の遺物も出土しており道東遺跡との関連を考慮する必要がある［安藤2004・2005］。前田遺跡は中期後半以降、古墳時代後期前半を中心とした時期の遺跡である［安藤2004］。貴舟休場遺跡、前田遺跡の西側、東山丘陵の舌状台地上に山崎遺跡があり、土坑墓は土器が出土していないため詳細な時期は確定できないが、鉄鏃の年代観から６世紀末から７世紀前半の遺構であると想定されている［金子1990・1991］。大面荘の北側の旧三条市域に目を移すと東山丘陵の丘陵先端部に立地する長嶺の狐崎遺跡からは古墳時代前期の竪穴建物が３棟発見されている［金子1981］。同じく長嶺地内


中ノ口川
五十嵐川
信濃川
貝喰川
大原遺跡・道東遺跡
東山丘陵
大面川
高田川
山地
丘陵地
砂礫台地
段丘崖
谷底平野
扇状地
自然堤防
および微高地
三角州
0
(1：50,000)
2km

第３図　地形概念図




（国土地理院 1/50,000（一条）2008 一部改変して作成）

| No. | 遺跡名 | 時代 | No. | 遺跡名 | 時代 | No. | 遺跡名 | 時代 | No. | 遺跡名 | 時代 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 掘崎 | 弥生～古墳 | 23 | 大原 | 平安時代 | 45 | 道向 | 平安時代 | 64 | 堂ノ前 | 古墳時代 |
| 2 | 堀 | 弥～古～鎌・室・安 | 24 | 宮ノ下 | 平安時代 | 46 | 三ツ A | 古墳～近世 | 65 | 御前 | 古墳時代 |
| 3 | 中新開敷 | 平安時代 | 25 | 宮田 | 平安時代 | 47 | 前敷 | 平安～中世 | 66 | 天沢池 | 平安・鎌倉 |
| 4 | 出光園 | 弥生～平安 | 26 | 東光寺開発B | 平～中世 | 48 | 三ツ二ノ三号 | 平安時代 | 67 | 天ヶ堀 | 平安時代 |
| 5 | 下新田 | 弥生～平安 | 27 | 東光寺開発F | 平安時代 | 49 | 山王 | 平安時代 | 68 | 九反 | 平安時代 |
| 6 | 新造寺 | 縄・平・中世 | 28 | 東光寺東 | 平安時代 | 50 | 前畑甲号 | 弥生・平安 | 69 | 斤頭 | 古代 |
| 7 | 横鳥A | 縄・弥・平～中世 | 29 | 一ツ屋敷前田A | 平安時代 | 51 | 八角田 | 平安～中世～近世 | 70 | 八ツ | 古代～中世 |
| 8 | 横鳥B | 弥生～平安 | 30 | 一ツ屋敷前田B | 平安時代 | 52 | 北前甲 | 新生・古墳 | 71 | 山崎A | 新生時代 |
| 9 | 出合前 | 縄・新～弥 | 31 | 一ツ屋敷前田C | 平安時代 | 53 | 九反町東 | 平安時代 | 72 | 山崎A遺跡 | 古墳時代 |
| 10 | 新川A遺跡 | 弥生～平安 | 32 | 堤下前前 | 平安～中世 | 54 | 月 | 平安時代 | 73 | 新町神場 | 古墳～平安 |
| 11 | 鉄塔谷 | 弥生時代 | 33 | 前田A | 平安時代 | 55 | 荒住地 | 平安時代 | 74 | 八幡 | 平安時代 |
| 12 | 長田 | 縄文～平安 | 34 | 前田B | 平安時代 | 56 | 千町野 | 平安～中世 | 75 | 鶴田 | 弥生時代 |
| 13 | 千ノ木 | 平安時代 | 35 | 前田C | 平安時代 | 57 | 九反町 | 平安時代 | 76 | 石原 | 古代～近世 |
| 14 | 白山 | 平安時代 | 36 | 前島下村 | 平安時代 | 58 | 新中 | 平安・中世 | 77 | 十二ノ木沼 | 平・鎌・室・安 |
| 15 | 衣服門前 | 平安時代 | 37 | 新堀村下 | 平安時代 | 59 | 前屋敷 | 平安・中世 | 78 | 十二ノ木北 | 平・鎌・室・安 |
| 16 | 矢田 | 平安時代 | 38 | 東光寺開発E | 平安時代 | 60 | 東下 | 平安時代 | 79 | 千下田B | 平安・中世 |
| 17 | 元島 | 平安時代 | 39 | 自然堤防山A | 平安時代 | 61 | 十ノ原 | 縄・弥・古墳～古代 | 80 | 川原端 | 平安時代 |
| 18 | 権現 | 弥生・平安 | 40 | 自然堤防山B | 平安時代 | 62 | 村下 | 平安・中世 | 81 | 小堀山西B | 古墳・平・室 |
| 19 | 東付 | 平安時代 | 41 | 上原 | 縄文～平安 | 63 | 道東 | 古墳・平安 | 82 | 二本木 | 古墳・平安 |
| 20 | 宮代 | 平安時代 | 42 | 清水前 | 平安時代 | | | | | | |
| 21 | 石塚 | 平安時代 | 43 | 舞台 | 平安時代 | | | | | | |
| 22 | 横内 | 平安時代 | 44 | 広谷前 | 平安時代 | | | | | | |

第４図　大原遺跡・道東遺跡と周辺の遺跡位置図

の館遺跡は奈良時代の遺構が中心であるが、一部弥生時代から古墳時代の遺物が確認されている[中島1981a]。また、民間工事現場からの遺物の採集のため詳細は不明であるが古式土師器が出土している[伊藤2005]。

### B　古代の遺跡

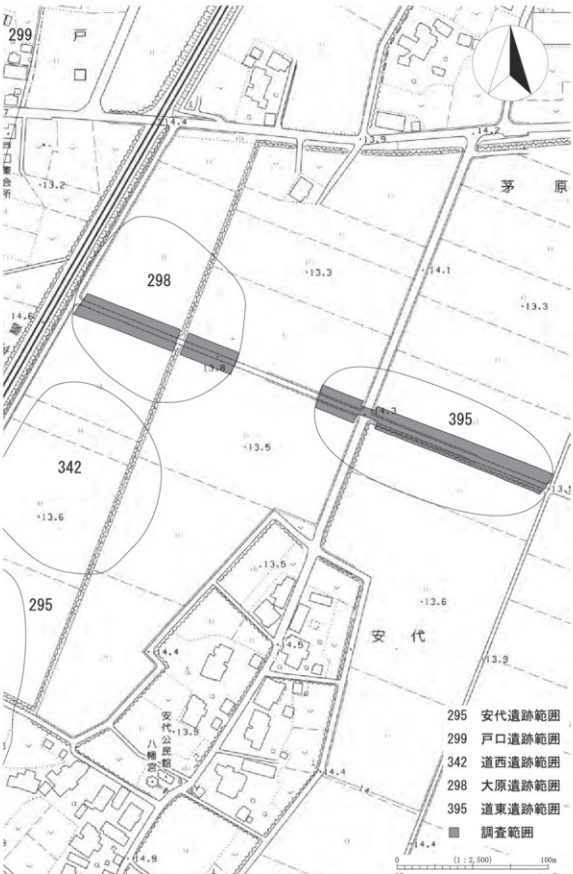
北潟甲遺跡は弥生時代中期、後期の土器とともに飛鳥時代の７世紀代の遺物が出土している[武田2004a]。７世紀代の遺跡は周囲にあまり無いため、資料がまとまって出土している点は特記される[春日2007]。奈良時代の遺跡では、館遺跡から単独か複数軒かは判然としていないが竪穴住居が検出されている[中島1981a]。平安時代の遺跡では、東山丘陵と信濃川、刈谷田川の中間地帯に立地する遺跡として、1998年に岩潟Ａ遺跡が調査されており、10棟の掘立柱建物跡が検出されている[大橋・武田2002]。新堀遺跡は中世が主体となる遺跡であるが、栄庁舎建設[武田2005]、また、栄体育館建設に際しても調査が行われている[北村・高野2013]。中世の活動で壊されている部分もあるが、古代および古墳時代の遺物が一定量出土している。東光寺寺畑遺跡では、遺物包含層から古代の遺物が発見されているほか、ピット、井戸、溝跡が発見されている[家田ほか1984]。東山丘陵沿いには吉野屋白山Ａ・Ｂ遺跡があり、吉野屋白山Ｂ遺跡では橋脚を伴う溝跡から墨書土器や大量の須恵器と土師器が出土した[大橋1996]。大面町浦遺跡は9世紀を中心とする集落跡が発見されている[武田2006a]。江派遺跡では調査範囲が狭く全体の概要は窺えないが、平安時代のピットと須恵器や土師器などの遺物が発見されている[大橋・武田1995]。三条地区の南側では、半軒屋敷遺跡からは9世紀代と推定される須恵器が出土している。確認調査により、遺跡の範囲と包含層の確認が行われている[中島1981b]。

沖積地の信濃川、刈谷田川に近い地点では、1972年に半ノ木遺跡が調査されており、8～10世紀にかけての遺物が出土した。中でも9世紀頃の京都系と考えられる緑釉陶器や、竪穴住居の可能性がある掘り込みが報告されている[関ほか1973]。最近では上道下西遺跡の調査で中世の水田の下から古代の水田が35枚発見されている[鈴木ほか2012]。また、村下遺跡からは9世紀前葉～10世紀初頭を中心とする時期の古代の集落と畑作溝が発見されている[高野2012]。

今回の調査区周辺の東山丘陵に近い沖積地の遺跡として、道西・安代・大原遺跡からは８世紀前半～９世紀後半を中心とした集落跡が発見されている[大橋1992]。石塚遺跡からは９世紀を中心とする集落跡が発見されている[大橋1991]。戸口遺跡は大原遺跡の西側に展開する遺跡であり、中世を主体とする遺跡であるが古代の土師器や須恵器も一定量発見されている[三条市歴史民俗産業資料館2007]。

## 3　歴史的背景

『三条市史』によれば、大面荘の文献記録による初見は『吾妻鏡』の文治二（1186）年三月十二日の条で「鳥羽十一面堂領大面荘」の名があり、皇室の寄進地系荘園を御願寺領化したものであると考えられている。ところが、文治四（1188）年の『後白河法皇院宣』では大面荘が八条院領となっており、大面荘地頭の中原親能が年貢未納について弁明をするなど複雑な支配体系の様相を呈している。中世文書や慶長十五（1610）年の新発田藩史料給知方庁役米帳（通称、大面荘ほと役帳）によれば、大原遺跡、道東遺跡の周囲では新堀村、東光寺村、千原（茅原）村、岩潟村、帯織村、北方（北潟）村、谷田（矢田）村、藏内村などの記載があるが、それが古代まで遡りうるかどうかについては慎重な検討が必要である。いずれにしても大原遺跡、道東遺跡は大面荘の範囲内であり、沖積地に広がる古代大面荘の村であると考えられる。




第５図　大原遺跡・道東遺跡と周辺の遺跡

# 第Ⅲ章　調 査 の 概 要

## 1　調 査 の 方 法

発掘調査は試掘調査の結果をもとに、大原遺跡・道東遺跡上層・道東遺跡下層と調査を行った。まず、大原遺跡は調査範囲を東西に分断する水路を境に西側を１区、東側を２区と設定した（図版１）。また、道東遺跡は試掘調査により上層の遺構が確認できた農道西側を３区、農道東側を１区、調査区東端部を２区と設定し、道東遺跡下層全てを４区と設定した（図版６）。遺構の検出写真は調査区ごとにまとめて撮影し、その後個別の遺構の調査を行なった。遺構は半截して写真撮影、断面を測量した後、完掘して写真撮影、平面図を作成した。遺構の検出写真・断面写真・完掘写真は35㎜カラーリバーサルフィルムとデジタルカメラにて記録し、各調査区毎の完掘写真は前述の２種類に加え、中判カラー・モノクロフィルムにて記録した。調査の進捗にあわせて全景写真をラジコンヘリにより上空から撮影した。

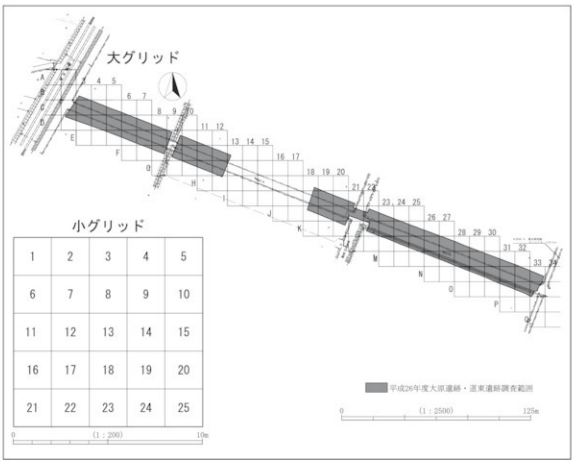
## 2　グリッドの設定（第６図）

調査区の現況はおよそ東西に延びる農道と田圃であったため、グリッドは真北方向を基準に設定した（世界測地系2011）。基点は任意に調査区の北西に定めA１（世界測地系でX＝175240.000、Y=38180.000）とした。

調査では、大小２種類のグリッドを使用した。大グリッドは10m間隔で、横軸では算用数字を使用し西から東に「１・２・３・４…」列とし、北から南に「A・B・C・D…」列とした。小グリッドは大グリッドを２ｍ方眼で細分し25区分した。小グリッド北西隅を１、北東隅を５、南西隅を21、南東隅を25になるように算用数字順とした（第６図参照）。文中では大グリッドを呼称する場合は「１A・２B・３C…」のように表記し、小グリッドを表記する場合は「１A－１・２B－５・３C－21…」と表記した。

## 3　基 本 層 序（第７図）（第１表）

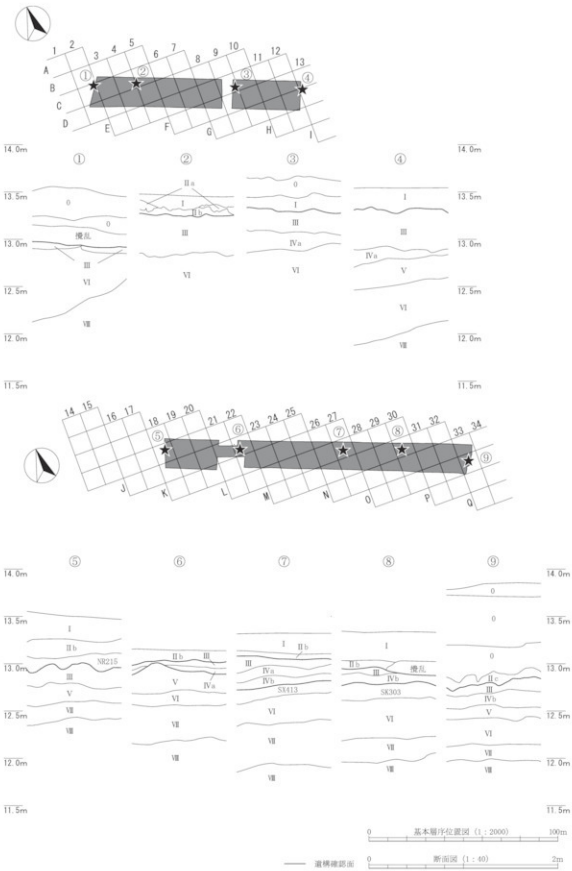
基本層状は東西に長い調査区の９地点で記録した。０層は農道建設の際の盛土として一括させていただいた。Ⅰ層は現状の表土であり、耕作土・田面である。Ⅱ層は圃場整備前の旧耕作土である。色調・土質によって細分できた。Ⅲ層の上面が奈良平安時代の遺構確認面であり、遺物包含層は確認できなかった。これまでの圃場整備によって削平または攪乱されてしまっている可能性があり、また、この層が試掘確認調査時におけるⅣ層となる。Ⅳ層が奈良平安時代と古墳時代との間層である。主に砂質シルトで構成され、大原遺跡東側から東、④地点から⑤地点で確認できた。その下層のⅤ層上面が古墳時代の遺構確認面である。これより下層は概ね、Ⅵ層シルト、Ⅶ層砂質シルト、Ⅷ層砂質シルトの堆積である。その中で色調・土質などによって細分できた。別表により確認されたい。




第６図　グリッド設定図

| 層位 | 土色 | | 土質 | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| 0 | ― | ― | ― | 盛土 |
| Ⅰ | ― | ― | ― | 耕作土 |
| Ⅱa | N4/0 | 灰色 | 粘土 | 粘性強しまり強　酸化鉄微量含む |
| Ⅱb | 2.5GY6/1 | オリーブ灰色 | シルト | 粘性強しまり強　酸化鉄微量含む |
| Ⅱc | N2/0 | 黒色 | 粘土 | 粘性強しまり強　酸化鉄微量含む |
| Ⅲ | 2.5GY8/1 | 灰白色 | シルト | 粘性強しまり中　酸化鉄微量含む |
| Ⅳa | 2.5GY5/1 | オリーブ灰色 | シルト | 粘性強しまり中　酸化鉄微量含む |
| Ⅳb | 7.5Y6/1 | 灰色 | 砂質シルト | 粘性中しまり中　酸化鉄微量含む |
| Ⅴ | 7.5Y5/2 | 灰オリーブ色 | 砂質シルト | 粘性中しまり中 |
| Ⅵ | 2.5GY6/1 | オリーブ灰色 | シルト | 粘性強しまり中　植物遺体含む |
| Ⅶ | 5PB5/1 | 青灰色 | 砂質シルト | 粘性中しまり中　植物遺体含む |
| Ⅷ | 5GY6/1 | オリーブ灰色 | 砂質シルト | 粘性中しまり中　植物遺体含む |

第１表　基本層序確認表



14.0m
13.5m
13.0m
12.5m
12.0m
11.5m
0
0
攪乱
Ⅲ
Ⅵ
Ⅷ
Ⅱa
Ⅰ
Ⅱb
Ⅲ
Ⅵ
0
Ⅰ
Ⅲ
Ⅳa
Ⅵ
Ⅰ
Ⅲ
Ⅳa
Ⅴ
Ⅵ
Ⅷ
Ⅰ
Ⅱb
NR215
Ⅲ
Ⅴ
Ⅶ
Ⅷ
Ⅱb
Ⅲ
Ⅴ
Ⅳa
Ⅵ
Ⅶ
Ⅷ
Ⅰ
Ⅱb
Ⅲ
Ⅳa
Ⅳb
SX413
Ⅵ
Ⅶ
Ⅷ
Ⅰ
Ⅱb
Ⅲ
攪乱
Ⅳb
SK303
Ⅵ
Ⅶ
Ⅷ
0
0
0
Ⅱc
Ⅲ
Ⅳb
Ⅴ
Ⅵ
Ⅶ
Ⅷ
基本層序位置図（1：2000）
100m
遺構確認面
断面図（1：40）
2m


第７図　基本層序

# 第Ⅳ章　大　原　遺　跡

## 1　遺　　構

### A　遺構の概要

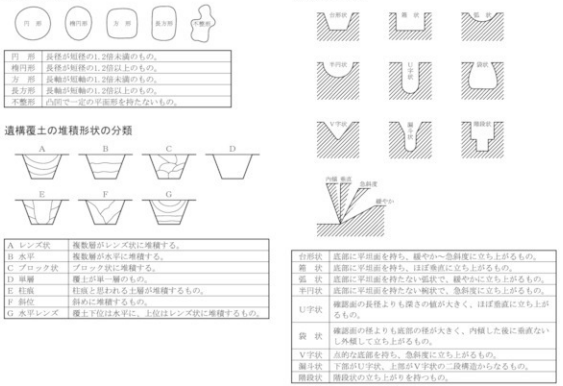
検出した遺構は、溝跡９条、土坑３基、ピット３基、性格不明遺構1基である。それらの殆どが１区の西側に集中しており、東側ではP008、２区ではSD101を検出したのみである。

近世以降の攪乱を調査区全域に受けていたとはいえ、調査面積に比して遺構数は極端に少ない。検出遺構の大半が溝跡であり、住居跡、柱穴と判断し得るピット、井戸跡といった居住域を想定できる遺構はなかった。

### B　遺構の記述と表記方法（第８図）

遺構の説明は、本文・観察表・図面図版、写真図版を用いた。

遺構名は遺構の種別ごとに略号を用い、遺構番号は調査区の設定の順に１区001～、２区101～と割り振り検出順に通し番号を付けた。遺構の略号はSD：溝、SK：土坑、P：ピット、SX：性格不明遺構とした。本文では、遺構の検出時点での遺構の形状、計測値を記述している。遺構観察表では、遺構の種別ご




（荒川ほか2004を一部改変）

第８図　遺構の平面形態と断面形態の分類

とに観察項目を設けて記載し、遺構の平面形および断面形については、青田遺跡の遺構分類等［荒川ほか2004］に準拠し統一させた。また、土層断面図の色調は、『新版標準土色帳』［農林水産省農林水産技術会議事務局・財団法人日本色彩研究所2001］に準拠した。

## C　遺　構　各　説

### 1）古　代　の　遺　構

#### a　土　　坑

**SK006**（図版２・５・34）

１区Ｄ６－２・３に位置する。調査区の開渠際で検出した。平面形は遺存状況から円形または楕円形を想定できる。断面形は弧状を呈する。遺構の残存値は長径1.60m、短径0.55m、深さ0.10mを測る。埋土は２層でレンズ状に堆積する。

**SK014**（図版２・５・34）

１区Ｃ３－３・４に位置し、SD002に隣接する。平面形は楕円形で断面形は弧状を呈する。遺構の規模は長径1.07m、短径0.89m、深さ0.07mを測る。埋土は２層でレンズ状に堆積する。

**SK015**（図版２・５・34）

１区Ｃ４－12に位置する。平面形は円形で断面形は弧状を呈する。遺構の規模は直径0.76m、短径0.71m、深さ0.09mを測る。埋土は単層である。

#### b　溝

**SD001**（図版２・４・34・35）

１区Ｄ４－23・24から調査区北西隅へ斜行する溝である。断面形は弧状を呈する。遺構の規模は最大幅1.63m、深さ0.17mを測る。SD002と並行しＣ３－７でSD010が分岐する。埋土は２層でレンズ状に堆積する。

**SD002**（図版２・４・34・35）

SD001の北側に並行する溝でＣ４－23・Ｄ４－２・３でSD004から分岐し、調査区北西隅へ伸びる。SD004との明確な切り合い関係は認められなかった。断面形は弧状を呈する。遺構の規模は最大幅2.35m、深さ0.33mを測る。主軸方向はＮ－46°－WでSD003と交差する。埋土は２層でレンズ状に堆積する。

**SD003**（図版２・４・35）

１区西端部Ｃ２・Ｂ３・Ｃ３に位置する。断面形は弧状を呈する。北東へ向かうにつれ幅広に開削された溝である。遺構の規模は最大幅2.92m、深さ0.25mを測る。主軸方向はＥ－30°－Ｎである。北端でSD001とSD002によって切られる。またSX007を切る。当調査区内では最も多く土器が出土した。現地調査時に遺構埋土最上層まで突き抜けず途中で面的に広がりを持つ噴砂の痕跡が認められた。埋土は８層に分層でき、レンズ状に堆積する。

**SD004**（図版２・４・35）

１区、Ｄ４-13から北へ向かって開削された溝で、途中Ｃ４-23・Ｄ４-２・３でSD002が分岐しそのまま調査区外へ延伸する。断面形は弧状を呈する。遺構の規模は最大幅2.42m、深さ0.13mを測る。主軸方向

はN－12°－Wを向く。埋土は6層でレンズ状に堆積する。

SD005（図版2・4・35）

1区C5・D5・E5に位置する。断面形は弧状を呈する。遺構の規模は最大幅4.87m、深さ0.22mと幅広である。主軸方向はほぼ真北に近い。調査区南端では西へ傾斜する地形の落ち際に位置する。

SD009（図版2・4・36）

1区D6・E5・E6に位置する。断面形は弧状を呈する。遺構の規模は最大幅1.88m、深さ0.13mを測る。軸方向はN－35°－Eと他の溝とは大きく異なる。

SD010（図版2・4・36）

SD001から分岐し南西方向にSD003と並走する溝で、C2-19で西へ屈曲する。断面形は弧状を呈する。遺構の規模は最大幅1.26m、深さ0.11mを測る。

SD011（図版2・4・36）

1区C2・D2に位置する溝である。他の溝とは軸方向が大きく異なり調査区西南隅へ向かって弧を描くように延伸する。断面形は弧状を呈する。遺構の規模は最大幅1.05m、深さ0.13mを測る。本調査に先立ってD2-5グリッドに設定した試掘トレンチT－1から本溝の延長部が確認されている。

SD101（図版3・4・36）

2区E9・F9・F10・G10に位置する。断面形態は弧状を呈する。遺構の規模は最大幅2.72m、深さ0.24mを測る。1区東側にまで延伸しないため、現農業用水路付近で屈曲するか、収束したものと考える。

### c ピット

本調査区で検出したピットは3基で、全て柱穴とは判じがたいものであった。

P008（図版2・5・36）

E7-5・10に位置する。平面形は円形で断面形は台形状を呈する。遺構の規模は長径0.38m、短径0.35m、深さ0.26mを測る。埋土は2層で水平に堆積する。

P012（図版2・5・21・36）

C3-14・15に位置する。平面形は円形で断面形は台形状を呈する。遺構の残存値は長径0.59m、短径0.35m、深さ0.05mを測る。埋土は単層である。埋納されたと考えられる須恵器の杯身（図版21－79）が出土した。

P013（図版2・5・36）

C3-14に位置しP012と隣接する。平面形は円形で断面形は弧状を呈する。遺構の規模は直径0.46m、深さ0.05mを測る。埋土は単層である。

### d 性格不明遺構

SX007（図版2・5・36・37）

調査区南西部で検出した落ち込みである。断面観察からSD001・002・003・010に切られていることが看取できた。断面形は弧状を呈し、残存値は長径15.53m、短径9.42m、深さ0.52mと大きく、自然の窪地状地形であった可能性が高い。埋土は4層で、レンズ状に堆積する。8世紀後半の土師器と須恵器が大量に出土した。

### e　地震噴砂痕（図版37）

１区Ｄ５-15・20・Ｄ６-16・22・２区Ｆ９－20、Ｆ10－16・17・Ｆ10－13に位置する。地震による液状化現象の表れである噴砂痕である。いずれも蛇行した状態で検出した。１区で確認した噴砂痕はSD009に切られる。また、噴砂痕は上述のようにSD003の断面観察時においても確認された。

## ２　遺　　物

### Ａ　遺物の概要

今回の大原遺跡の調査では確認調査時の物を含めて、コンテナで20箱分の土器が出土した。大半が遺構からの出土であるが、調査区の大部分が攪乱を受けていた為、攪乱内出土の土器も多かった。所属時期は奈良・平安時代と思われる。土器は種別ごとに大別し、遺構ごとに記述することとした。

土器の編年区分などについて、須恵器、土師器を春日真実氏に実見していただいた。同時に須恵器の胎土分析についても春日氏の分類基準により分類した。

### Ｂ　遺　物　各　説

#### 1)古代の遺物

**遺構出土の土器**

SD001（図版19・46－１・２）

１は須恵器の有台杯である。器壁は薄く内外面にロクロ成形の痕跡が明瞭である。胎土はＢ群である。２は土師器の小甕である。内面はハケとカキメ、外面はハケ、ケズリが施される。

SD002（図版19・46－３～５）

３・４は須恵器の無台杯で底部は回転ヘラ切りで、胎土は３がＣ１群である。５は須恵器の有台杯の底部である。焼成が不良のため軟質で灰白色を呈す。

SD003（図版19・46－６～22・20・47－28～30）

６は須恵器の杯蓋である。口縁端部は若干内湾して垂下する。胎土はＣ１群である。７・８は須恵器の無台杯である。７は比較的底部からの立ち上がりが直線的である。胎土はともにＣ１群で、還元焼成が不完全である。９～13は須恵器の有台杯である。９は高台が外側にふんばり外端接地する。転用硯であり底部外面高台の内側に墨痕が広く残り、摩耗により表面は滑らかである。10は底部外面、高台の内側に「大」の墨書がみられる。11は焼成不良のため、外面が浅黄橙色を呈する。12は底部からの立ち上がりがやや外反し、高台は内端接地する。13は底部から丸く立ち上がる。14は杯の底部が欠損する。立ち上がりは直線的で器壁が薄く身深い。15は須恵器の甕の口縁部である。口縁部で外反し端部に面を持つ。16は須恵器の横瓶の胴部小口部分である。上部に一部自然釉がかかる。17は器形不明の土師器である。底部からの立ち上がりは底部から屈曲し、口縁端部が外反する。時期が若干遡る可能性がある。18は土師器の甕の底部と思われる。19～27は土師器の小甕である。19は内外面ともにハケが施される。20は胴部が張り、21は口縁端部が面取りされ、上方につまみ上げられる。22・23・24はロクロ成形で内面にカキメが施され

る。25・26は口縁端部が面取りされ、25は外面にハケが施される。27は他のものに比べて器壁が薄い。28・29は土師器の甕である。ロクロ成形でともに内面にカキメが施される。28の口縁端部は面を持ち、29の口縁端部はつまみあげの様相である。30は土師器の鍋である。内外面にハケが施される。

SD004（図版20・47－31～40）

31～34は須恵器の無台杯である。31は転用硯で内面に広く墨痕が残り、表面は摩耗して滑らかである。32は底部外面に「×」の線刻がみられる。33にも底部外面に「×」の線刻がみられ、回転ヘラ切りの切り離し痕が明瞭である。34は底部外面に「大」と予想できる線刻がみられる。35は底部からの立ち上がりは直線的で口縁が外反する。36は底部から丸く立ち上がり直線的に外傾する。焼成不良のため軟質で胎土は灰白色を呈する。37は底部からの立ち上がりが直線的である。38はやや内湾しながら立ち上がるが口縁部で薄くなり端部で外反する。39は須恵器の壺の肩部である。ロクロ成形で２条の沈線が廻り、上面に自然釉がかかる。40は円柱形の支脚である。ユビで成形され、指頭圧痕が残る。頭部は二次焼成を受ける。

SD005（図版20・47－41）

41は須恵器の壺の底部と思われる。高台の端部などが欠損している。胎土はＡ群である。

SD009（図版20・47－42）

42は須恵器の有台杯である。高台は高く、内端接地する。胎土はＢ群である。

SD010（図版20・47－43～45）

43は須恵器の無台杯である。器壁は薄く、底部からの立ち上がりは直線的に外傾する。44は土師器の小甕である。内面にカキメが施される。45は土師器の甕である。ロクロ成形で外面にカキメが施される。

SD101（図版20・47－46～49）

46～48は須恵器の杯蓋である。46は比較的小型のもので、ロクロ成形の痕跡が明瞭である。胎土はＣ１群である。47・48は直径16cmを超えるもので、口縁端部は下方に屈曲し、47は内傾し垂下する。胎土は47・48ともにＢ群である。49は須恵器の有台杯である。底部からの立ち上がりは高台脇から直線的に外傾する。胎土はＢ群である。

SX007（図版20・47－50～53・21・48－54～76）

50～53は須恵器の杯蓋である。50～52は摘み部が遺存する。50は還元焔焼成不足の為にぶい橙色を呈する。摘み部は扁平なボタン状で上面に草花文を想定させる記号を記した墨書が施される。胎土はＣ１群である。51の摘みは扁平で左右対称ではないが擬宝珠状を呈する。胎土はＣ１群である。52は転用硯である。摘み部は扁平なボタン状で、天井部内面は摩耗し滑らかで、墨痕が広く残る。胎土はＣ２群である。53は口縁部から天井部の一部である。口縁端部は下方に屈曲するが断面形が逆台形を呈しており先が細くなる。胎土はＣ１群である。54～62は須恵器の無台杯である。54は器壁が薄い。底部から緩やかに立ち上がった後、直線的に外傾する。55は底部から丸く立ち上がった後、口縁部がやや外反する。56は口縁から底部まで残る。底部外面に墨書が有り、「口」及び「廿」と予想されるが詳細は不明である。また、底部外面には等間隔に棒状の圧痕がみられる。これは成形後、等間隔に置かれた棒状の台の上に乗せて乾燥させた為と考えられる。胎土はＣ１群である。57は重ね焼き痕跡が明確で、口縁端部の色が他部と異なる。胎土はＣ１群である。58・61は焼成不良のため軟質で胎土は灰白色を呈す。58は無台杯であるが、底部に墨痕が残り、転用硯としての使用が認められる。胎土は58がＡ群である。59は底部外面に広く墨痕が残る。胎土はＣ１群である。60は底部が厚く、立ち上がりは直線的に外傾し器壁は薄い。胎土はＡ群である。62は立ち上がりが直線的である。胎土はＣ１群である。63～66は須恵器の有台杯である。63はロクロ

成形が明瞭で、口縁部は直線的に外傾する。胎土はＣ１群である。64の高台は内湾しつつ外端接地し、65の高台は低く外反する。胎土は64がＣ１群である。66は須恵器の有台杯の口縁部片である。ロクロ成形の痕跡が明瞭で、器壁は薄く直線的な立ち上がりである。胎土はＢ群である。67は須恵器の壺の口縁から頸部片である。口縁端部が面を持ち垂下する。胎土はＢ群である。68は須恵器の甕である。頸部は小さくすぼまり、胴部は球形に膨らむものである。口縁端部は外側につまみ出される。胎土はＣ１群である。69は土師器の杯である。ロクロ成形である。71～76は土師器の甕である。72は胴部が張るもので摩耗が激しい。73は胴部の内外面にハケが施される。71・74・75・76は摩耗が激しく調整は不明である。75の口縁端部は面取りされる。70は土師器の高杯の杯底部から脚部である。杯部内面はミガキが施される。

**SK015**（図版21・48－77）

77は須恵器の無台杯である。器壁は薄く、立ち上がりは直線的で外傾する。胎土はＢ群である。

**P008**（図版21・48－78）

78は須恵器の無台杯の底部片である。1層から出土した。胎土はＢ群である。

**P012**（図版21・48－79）

79は須恵器の無台杯である。Ｐ012に埋納されたものでほぼ完形で出土した。胎土はＣ１群である。

### 遺構外出土の土器（図版22・49－80～103）

80は須恵器の蓋である。身深く、摘みは大きく肩部にかけて自然釉がかかる。81～93は須恵器の無台杯である。81・85はロクロ成形の痕跡が明瞭で、口縁部と口縁端部の色が異なり重ね焼き痕跡が残る。胎土は、81はＢ群、85はＣ１群である。82・84は、底部からの立ち上がりは緩く口縁が外反する。84はタール状の付着物が確認できる。胎土は、82・84ともにＣ２群である。83は底部から丸く立ち上がる。胎土はＡ群である。86は底部からの立ち上がりが直線的で外傾する。ロクロ成形の痕跡が明瞭で器壁は薄い。底部外面に墨書があり「桑」の異体字であるとされる。胎土はＢ群である。87は底部から丸く立ち上がり口縁部で外反する。胎土はＣ１群である。88は口縁端部の色が異なり、重ね焼き痕跡が明確である。胎土はＣ１群である。89はロクロ成形の痕跡が明瞭で、立ち上がりは直線的で身深い。胎土はＣ１群である。90はロクロ成形の痕跡が明瞭で底部から直線的な立ち上がりである。胎土はＢ群である。91は底部片である。胎土はＢ群である。92・93は底部片である。底部からの緩やかな立ち上がりが若干確認できる。胎土は92がＢ群、93はＣ１群である。94～97は須恵器の有台杯である。94は口縁部がやや内湾し、高台は外端接地する。95は高台が外側にふんばり、底部外面高台の内側に漆の付着がみられる。96は、大型で高台が外端接地する。97は底部から丸く立ち上がる。胎土はいずれもＣ１群である。98は須恵器の壺の底部で高台が外端接地する。胎土はＢ群である。99・100は須恵器の甕の口縁部片である。99の口縁端部は外側につまみ出され、100の口縁端部は外側下方につまみ出される。胎土は、99がＢ群、100がＣ２群である。101・102は須恵器の大甕の口縁部から肩部片である。102の口縁端部は欠損している。頸部と肩部に対をなして色調が異なる箇所が複数みられる。これは肩部の該当箇所に杯等を置いて焼成したために生じた斑と考えられる。胎土は101がＣ１群である。103は土師器の甕の口縁部片である。胎土に砂粒を多く含む。時期は８Ｃ末のものに比定する。

### 試掘確認調査（図版22・49－104・105）

104・105は須恵器の無台杯である。ともに底部から緩やかに内湾しながら立ち上がる。

# 第Ⅴ章　道　東　遺　跡

## 1　遺　　構

### A　遺構の概要

#### 1）古墳時代の遺構

古墳時代の遺構を検出した地点は４区１から２にかけてのM29～31、N29～31の地点、4区２のL27・M27の地点、４区３および４区４である。層位的には古代の層下に１～２層の間層があり、間層の下層が古墳時代の検出面となっているが、M29～31、N29～31の地点では、前述の間層が薄いもしくは存在しておらず若干検出面の標高が高くなっている。

#### 2）古代の遺構

古代の遺構を検出した地点は上層１区、上層２区、３区、および４区１・２の地点である。旧耕作土層の直下で検出され、耕作土からの踏み込みなどで検出が困難となった。主な遺構に大型の掘立柱建物と整然と並んだ溝群が検出されている。また、下層４区１では上層２区と同様な溝群が検出され配置などから同遺構としてとらえた。そのため、個別の報告では上層と下層の２つに分けて記述させていただく。

### B　遺構の記述と表記方法

遺構の説明と呼称は、前述の大原遺跡の報告に準ずるが、掘立柱建物：SBおよび井戸：SEを追加する。遺構番号は調査区の設定の順に１区001～、２区101～、３区201～、４区１と４区２は301～、４区３と４区４は401～と割り振り、検出順に通し番号を付けた。調査の過程において遺構番号の欠番が生じている。

### C　遺　構　各　説

#### 1）古墳時代の遺構

##### a　土　　坑

SK201（図版７・９・37）

３区Ｊ21－21・22・Ｊ21－１・２に位置する。平面形は楕円形で断面形は弧状を呈する。遺構の規模は長径1.91m・短径1.76m・深さ0.17mを測る。埋土は単層である。

SK206（図版７・９）

３区Ｊ20－３に位置する。平面形は楕円形で断面形は階段状を呈する。遺構の規模は長径1.20m・短径0.69m・深さ0.23mを測る。埋土は２層でレンズ状に堆積する。

SK207（図版７・９）

３区Ⅰ20－22・Ｊ20－２に位置する。平面形は楕円形で断面形は弧状を呈する。遺構の規模は長径1.30ｍ・短径0.43ｍ・深さ0.07ｍを測る。埋土は単層である。

SK210（図版７・９）

３区Ⅰ20－23・24に位置する。平面形は楕円形で断面形は階段状を呈する。遺構の規模は長径1.32ｍ・短径0.66ｍ・深さ0.25ｍを測る。埋土は２層でレンズ状に堆積する。

SK303（図版８・９）

４区M30－７・８・11～15・17～20・23・24に位置する。平面形は不整形と推定され、断面形は台形状を呈する。遺構の残存値は長径6.78ｍ・短径3.27ｍ・深さ0.17ｍを測る。埋土は単層である。

SK334（図版８・９）

４区M27－11～14・18～20に位置する。攪乱や調査区外のため一部のみ検出された。平面形・断面形共に不明である。遺構の残存値は長径6.67ｍ・短径0.76ｍ・深さ0.18ｍを測る。埋土は単層である。

SK401（図版７・９）

４区Ｊ22－11・12・16に位置する。攪乱や調査区外のため南西部のみ検出された。平面形は円形、断面形は弧状を呈する。遺構の残存値は長径1.61ｍ・短径1.06ｍ・深さ0.26ｍを測る。埋土は単層である。

SK402（図版７・９・37・38）

４区K24－25・K25－21・22・Ｌ24－５・Ｌ25－１・２・７に位置する。攪乱のため西側部分のみ検出された。平面形は楕円形と推定され、断面形は弧状を呈する。遺構の残存値は長径4.25ｍ・短径3.80ｍ・深さ0.32ｍを測る。埋土は２層で、レンズ状に堆積すると思われる。

SK405（図版８・10）

４区K21－23・24に位置する。調査区外に入るため北側部分のみ検出された。平面形は不明で断面形は弧状を呈する。遺構の残存値は長径1.49ｍ・短径0.57ｍ・深さ0.15ｍを測る。埋土は単層である。

SK407（図版７・10）

４区K24－22・23・Ｌ24－２～４に位置する。パイプラインによる攪乱のため北側部分のみ検出された。平面形は楕円形で断面形は弧状を呈すると推定される。遺構の残存値は長径5.61ｍ・短径1.21ｍ・深さ0.20ｍを測る。埋土は３層で、水平に堆積する。

SK408（図版８・10）

４区Ｌ24－14・15に位置する。攪乱や調査区外のため一部のみ検出された。平面形は不明で断面形は階段状を呈する。遺構の残存値は長径2.15ｍ・短径0.57ｍ・深さ0.19ｍを測る。埋土は２層で水平に堆積する。

SK409（図版８・10）

４区Ｌ24－15・20・Ｌ25－11・16に位置する。SK408と同じく、攪乱や調査区外のため一部のみ検出された。平面形は不明で断面形は階段状を呈する。遺構の残存値は長径2.21ｍ・短径0.54ｍ・深さ0.25ｍを測る。埋土は５層でレンズ状に堆積する。

SK412（図版８・10）

４区K25－６・７・11～13・17・18に位置する。攪乱や調査区外のため一部のみ検出された。平面形は楕円形と推定され、断面形は弧状を呈する。遺構の残存値は長径4.55ｍ・短径2.07ｍ・深さ0.14ｍを測る。埋土は単層である。

SK414（図版８・10）

４区K25－13～15・18～20・23・24に位置する。SK412・SD403・SX410を切る。平面形は楕円形で断面形は弧状を呈する。遺構の規模は長径4.03m・短径3.23m・深さ0.19mを測る。埋土は２層でレンズ状に堆積する。

SK418（図版８・10）

４区L26－２・６～８・12・13に位置する。SD417に接し、SD416を切り、SX410に切られる。平面形は不整形で断面形は弧状を呈する。遺構の残存値は長径3.09m・短径2.64m・深さ0.20mを測る。埋土は単層である。

SK419（図版８・10）

４区L26－18・19・23～25に位置する。SX413の下より検出され攪乱により北半分のみ残る。平面形は不整形で断面形は弧状を呈する。遺構の残存値は長径2.73m・短径0.89m・深さ0.19mを測る。埋土は２層でレンズ状に堆積する。

SK420（図版７・11・38）

４区K23－13・14・18・19・24に位置する。攪乱により北半分のみ検出された。平面形は楕円形と推定され、断面形は弧状を呈する。遺構の残存値は長径3.33m・短径2.11m・深さ0.34mを測る。埋土は４層でレンズ状に堆積する。

SK421（図版７・11）

４区K23－１・２に位置する。平面形は楕円形で断面形は弧状を呈する。遺構の規模は長径1.71m・短径1.08m・深さ0.15mを測る。埋土は単層である。

SK422（図版８・11）

４区L26－21・M26－１・２に位置する。攪乱や調査区外のため一部のみ検出された。平面形は不明で断面形は弧状を呈する。遺構の残存値は長径2.28m・短径0.62m・深さ0.11mを測る。埋土は単層である。

SK423（図版８・11）

４区M26－９・10に位置する。調査区外にかかるため北半分のみ検出された。平面形は楕円形と推定され、断面形は弧状を呈する。遺構の残存値は長径1.34m・短径0.86m・深さ0.15mを測る。埋土は単層である。

SK425（図版８・11）

４区L27－１・２・６・７に位置する。SX410に切られ、調査区外にかかるため南半分のみ検出された。平面形は楕円形と推定され断面形は弧状を呈する。遺構の残存値は長径3.84m・短径1.85m・深さ0.10mを測る。埋土は単層である。

SK426（図版８・11・38）

４区、M26－２・３・８に位置する。攪乱や調査区外のため一部のみ検出された。平面形は不明で断面形は弧状を呈する。遺構の残存値は長径2.58m・短径0.63m・深さ0.22mを測る。埋土は単層である。

### b　溝

SD333（図版８・11）

４区M30に位置する。遺構の北端は調査区外へのびる。SX302・SK303の下から検出された。遺構の残存

値は、長さ4.52m以上・最大幅0.31m・深さ0.26mを測る。埋土は3層で水平に堆積し、断面形は階段状を呈する。溝の主軸は北からE－39°－N、N－20°－E、N－13°－Wと湾曲する。

SD403（図版8・11・39）

4区K24・K25に位置する。ほぼ東西軸にのびSK402を切る。遺構の規模は長さ9.44m・最大幅1.06m・深さ0.14mを測る。埋土は単層で断面形は弧状を呈する。溝の主軸はE－3°－N傾く。

SD411（図版8・12）

4区L25に位置する。幅広で南北にのびる事は確認出来たが、攪乱や調査区外のため一部のみが検出された。遺構の残存値は、長さ4.07m以上・最大幅4.85m・深さ0.29mを測る。埋土は2層でレンズ状に堆積し、断面形は弧状を呈する。溝の主軸はN－19°－E傾く。

SD415（図版8・12・39）

4区K26・L26に位置する。南北にのび遺構北端は調査区外へのびる。切り合い関係はSX424を切り、SD416・SX413に切られる。遺構の残存値は、長さ9.66m以上・最大幅1.12m・深さ0.19mを測る。埋土は単層で断面形は弧状を呈する。溝の主軸は北からN－7°－E、N－25°－W、N－7°－E、N－19°－Wと湾曲する。

SD416（図版8・12・39）

4区L26に位置する。SX424を廻るように検出された。遺構の北端は調査区外へのび、南端はSK418に切られる。遺構の残存値は、長さ6.50m以上・最大幅1.03m・深さ0.17mを測る。埋土は単層で断面形は弧状を呈する。溝の軸は北半部でN－35°－E傾き、南半部で屈折しE－6°－N傾く。

SD417（図版8・12・39）

4区L26に位置する。SK418に接し、SX413に切られる。遺構の西端は攪乱により確認できなかった。遺構の残存値は、長さ5.14m以上・最大幅2.05m・深さ0.14mである。埋土は2層でレンズ状に堆積し、断面形は弧状を呈する。溝の主軸はE－5°－S傾く。

### c　ピ　ッ　ト

P202（図版7・12）

3区J21－1に位置する。平面形は円形で断面形は弧状を呈する。遺構の規模は長径0.44m・短径0.41m・深さ0.29mを測る。埋土は単層である。

P203（図版7・12）

3区K20－5に位置する。P204に切られる。平面形は楕円形と推定され、断面形は弧状を呈する。遺構の残存値は長径0.36m・短径0.28m・深さ0.08mを測る。埋土は単層である。

P204（図版7・12）

3区J20－25・K20－5に位置する。P203を切る。平面形は円形で断面形は弧状を呈する。遺構の規模は長径0.52m・短径0.51m・深さ0.13mを測る。埋土は単層である。

P205（図版7・12）

3区J20－11に位置する。平面形は楕円形で断面形は弧状を呈する。遺構の規模は長径0.42m・短径0.30m・深さ0.09mを測る。埋土は単層である。

P208（図版7・12）

3区J20－5・10に位置する。平面形は楕円形で断面形は弧状を呈する。遺構の規模は長径0.58m・短

径0.56m・深さ0.12mを測る。埋土は単層である。

P209（図版7・12）

3区J20－5に位置する。平面形は楕円形で断面形は弧状を呈する。遺構の規模は長径0.50m・短径0.34m・深さ0.10mを測る。埋土は単層である。

P404（図版7・12）

4区J21－25に位置する。平面形は円形で断面形は弧状を呈する。遺構の規模は長径0.81m・短径0.73m・深さ0.11mを測る。埋土は単層である。

P406（図版7・12）

4区J21－8・9・13・14に位置する。平面形は円形で断面形は弧状を呈する。遺構の規模は長径0.92m・短径0.91m・深さ0.11mを測る。埋土は単層である。

### d　性格不明遺構

性格不明遺構は土坑状の物と溝状の物の2種に区分される。以下に個別に述べる。

#### 土坑状遺構

SX002（図版7・12・39・40）

4区K23に位置する。SX016を切る。平面形は円形に近く、断面形は弧状を呈する。遺構の残存値は、長径4.59m・短径4.42m・深さ0.39mである。埋土は3層で水平に堆積する。

SX016（図版7・12）

4区J23・J24・K23・K24に位置する。SX022と並列し、SX002に切られる。平面形は円形と推定され、断面形は弧状を呈する。遺構の残存値は、長径4.92m・短径2.82m・深さ0.45mである。埋土は2層でレンズ状に堆積する。

SX022（図版7・12）

4区J23に位置する。SX016と並列する。攪乱と調査区外のため一部のみ検出される。遺構の残存値は、長径2.37m・短径2.02m・深さ0.86mである。平面形は円形と推定され、断面形は階段状を呈する。埋土は3層で水平に堆積する。

SX424（図版8・12）

4区K26・L26に位置する。遺構の北端は調査区外へのびる。切り合い関係はSX410・SD415に切られる。遺構の残存値は、長径3.69m・短径3.50m・深さ0.09mである。平面形は楕円形と推定され、断面形は弧状を呈すると推定される。埋土は単層である。

#### 溝状遺構

SX301（図版8・13・40）

4区M30・M31・N30・N31に位置する。遺構の北端は調査区外へ、南端は攪乱部へのびる。SK303を切る。遺構の残存値は、長さ6.67m以上・最大幅6.67m・深さ0.32mを測る。埋土は2層で水平に堆積し、断面形は弧状を呈する。溝の主軸はE－27°－N傾く。

SX302（図版8・13）

4区M29・M30に位置する。遺構の北端は調査区外へ、南端は攪乱部へのびる。SK303に切られる。遺

構の規模は残存および推定で、長さ5.91m以上・最大幅4.74m・深さ0.14mを測る。埋土は2層で水平に堆積し、断面形は弧状である。溝の主軸はN－38°－E傾く。

SX410（図版8・13・40）

4区K25・K26・L25・L26に位置する。遺構の北端は調査区外へ、南端は攪乱部へのびる。切り合い関係はSK414に切られ、SK418・SX424を切る。遺構の残存値は、長さ6.22m以上・最大幅8.34m・深さ0.23mを測る。埋土は単層で、断面形は弧状を呈する。溝の主軸はN－34°－E傾く。

SX413（図版8・13・41）

4区L26・L27・M26・M27に位置する。遺構の北端は調査区外へ、南端は攪乱部へのびる。切り合い関係はSD415・SD417・SK425を切り、遺構下にSK419が位置する。遺構の残存値は、長さ10.60m以上・最大幅9.93m・深さ0.17mを測る。埋土は単層で断面形は弧状を呈する。溝の主軸はN－37°－E傾く。

### 2）古代の遺構

#### a　掘立柱建物

SB336（図版15・16・33・41・42・43）

4区M27・L28・M28に位置する。規模は検出上で4間（11.20m）、3間（7.98m）となり、床面積は現状48.25㎡の側柱建物である。主軸は南北方向を向き、N－14°－Wとなっている。柱間は長軸方向で2.34～2.36m、短軸方向で2.34～2.65mである。現状パイプラインの攪乱で検出出来なかったが、P313とP328の間とP326とP329の間にはそれぞれ柱穴が存在したと考えられる。また、建物を構成する柱穴に柱根は残っていなかった。柱穴の平面形は円形もしくは楕円形であり、断面形は漏斗状もしくは階段状を呈する。柱穴の規模は長径0.55m～1.18m・深さ0.45m～0.97mで、埋土は3層～5層に分層できる。周辺のSD312・SD316はSB336の外周を廻った形で位置しており、建物に関連する溝と考えられる。

#### b　土　　坑

SK012（図版14・17）

1区K23－20に位置する。平面形は楕円形で断面形は台形状を呈する。遺構の規模は長径1.20m・短径1.06m・深さ0.12mを測る。埋土は単層である。

SK018（図版14・17）

1区K24－11・16に位置する。平面形は楕円形で断面形は弧状を呈する。遺構の規模は長径1.63m・短径1.17m・深さ0.10mを測る。埋土は単層である。

SK026（図版14・17）

1区K23－14・15・19・20に位置する。平面形は楕円形で断面形は弧状を呈する。遺構の規模は長径1.62m・短径 0.78m・深さ0.15mを測る。埋土は2層でレンズ状に堆積する。

SK077（図版14・17）

1区K24－2・3・8に位置する。平面形は楕円形で断面形は弧状を呈する。遺構の規模は長径1.14m・短径0.68m・深さ0.11mを測る。埋土は2層でレンズ状に堆積する。

SK216（図版14・17）

3区I18－4・5に位置する。平面形は楕円形で断面形は弧状を呈する。遺構の規模は長径1.21m・短

径0.74m・深さ0.25mを測る。埋土は単層である。

### c　溝

**SD005**（図版14・17）

1区K23に位置する。遺構の西端はSK026に切られる。遺構の規模は長さ3.77m以上・最大幅1.51m・深さ0.10mを測る。埋土は単層で、断面形は弧状を呈する。溝の主軸はE－25°－S傾く。

**SD101**（図版15・17・41）

2区M31・N31に位置する。遺構の北端は調査区外へのびる。遺構の規模は長さ5.77m以上・最大幅0.68m・深さ0.18mを測る。埋土は2層でレンズ状に堆積し、断面形は弧状を呈する。溝の主軸はN－11°－W傾く。

**SD102上層**（図版15・17）

2区M31・N31・N32に位置する。遺構の北端は調査区外へのびる。遺構の規模は長さ6.53m以上・最大幅0.65m・深さ0.06mを測る。埋土は単層で、断面形は弧状を呈する。溝の主軸はN－34°－W傾く。

**SD102下層**（図版15・17）

4区N32・O32に位置する。遺構の南部は攪乱により一部削平される。遺構の規模は長さ10.65m・最大幅0.36m・深さ0.18を測る。埋土は2層でレンズ状に堆積し、断面形は弧状を呈する。溝の主軸はN－10°－W傾く。

**SD103上層**（図版15・17・41）

2区N32・O32に位置する。遺構の両端は調査区外へのびる。遺構の規模は長さ13.51m以上・最大幅0.62m・深さ0.15mを測る。埋土は2層でレンズ状に堆積し、断面形は弧状を呈する。溝の主軸はN－10°－W傾く。

**SD103下層**（図版15・17・41）

4区N32・O32に位置する。遺構の南部は攪乱により一部削平される。遺構の規模は長さ9.67m・最大幅0.45m・深さ0.18mを測る。埋土は2層でレンズ状に堆積し、断面形は半円状を呈する。溝の主軸はN－10°－W傾く。

**SD104上層**（図版15・17）

2区M31・N31に位置する。遺構の北端は調査区外へのびる。遺構の規模は長さ5.05m以上・最大幅0.63m・深さ0.32mを測る。埋土は2層でレンズ状に堆積し、断面形は弧状を呈する。溝の主軸はN－9°－W傾く。

**SD104下層**（図版15・17・41）

4区M31・N31・O31に位置する。遺構の北端は調査区外へのびる。遺構の規模は長さ13.59m以上・最大幅0.49m・深さ0.23mを測る。埋土は2層でレンズ状に堆積し、断面形はU字状を呈する。溝の主軸はN－10°－W傾く。

**SD105上層**（図版15・17・41）

2区、N32・O32に位置する。遺構の両端は調査区外へのびる。遺構の規模は長さ13.00m以上・最大0.55m・深さ0.25mを測る。埋土は2層でレンズ状に堆積し、断面形は弧状を呈する。溝の主軸はN－6°－W傾く。

**SD105下層**（図版15・17・41）

４区N32・O32に位置する。遺構の北端は調査区外へのび、南端は攪乱により削平される。遺構の規模は長さ9.01m以上・最大幅0.50m・深さ0.22mを測る。埋土は２層でレンズ状に堆積し、断面形は台形状を呈する。溝の主軸はN－10°－W傾く。

**SD107上層**（図版15・17・41）

２区N33・O33に位置する。遺構の北端は調査区外へのび、南端は攪乱により削平される。遺構の規模は長さ9.70m以上・最大幅0.82m・深さ0.20mを測る。埋土は単層で、断面形は弧状を呈する。溝の主軸は北部でN－13°－W、中央部で湾曲し南部ではN－22°－E傾く。

**SD107下層**（図版15・17・41）

４区N33・O33に位置する。遺構の北端は調査区外へのびる。遺構の規模は長さ9.85m以上・最大幅0.52m・深さ0.27mを測る。埋土は２層でレンズ状に堆積し、断面形は半円状を呈する。溝の主軸はN－5°－W傾く。

**SD109上層**（図版15・17・41）

２区N32・O32・N33・O33に位置する。遺構の北端は調査区外へのび、南端は攪乱により削平される。遺構の規模は長さ9.89m以上・最大幅0.54m・深さ0.17mを測る。埋土は２層でレンズ状に堆積し、断面形は階段状を呈する。溝の主軸は北部でN－13°－W、中央部で湾曲し南部ではN－1°－W傾く。

**SD109下層**（図版15・17・41）

４区N32・O32・N33・O33に位置する。遺構の北端は調査区外へのびる。遺構の規模は長さ10.37m以上・最大幅0.48m・深さ0.33mを測る。埋土は２層でレンズ状に堆積し、断面形は半円状を呈する。溝の主軸はN－8°－W傾く。

**SD115**（図版15・17・41）

２区N32・O32に位置する。SD103とSD105に切られる。遺構の規模は長さ2.18m以上・最大幅0.35m・深さ0.12mを測る。埋土は２層でレンズ状に堆積し、断面形は弧状を呈する。溝の主軸はE－20°－S傾く。

**SD212**（図版14・17）

３区Ⅰ18・Ⅰ19に位置する。遺構の北端は調査区外へのびる。遺構の規模は長さ5.74m以上・最大幅1.63m・深さ0.35mを測る。埋土は単層で、断面形は弧状を呈する。溝の主軸はE－20°－N傾く。

**SD305**（図版15・17）

４区M31・N31・N32に位置する。遺構の北端は調査区外へのびる。遺構の規模は長さ3.65m以上・最大幅0.72m・深さ0.20mを測る。埋土は２層で水平に堆積し、断面形は弧状を呈する。溝の主軸は北部でN－41°－W傾き、屈折して南部でN－4°－E傾く。

**SD306**（図版15・17）

４区M31に位置する。遺構の規模は長さ1.73m・最大幅0.42m・深さ0.20mを測る。埋土は２層でレンズ状に堆積し、断面形は台形状を呈する。溝の主軸はE－18°－N傾く。

**SD308**（図版15・17）

４区N30に位置する。遺構の規模は長さ1.06m以上・最大幅0.50m・深さ0.21mを測る。埋土は３層でレンズ状に堆積し、断面形は半円形を呈する。溝の主軸はN－13°－W傾く。

SD309（図版15・17）

4区M29・M30に位置する。遺構の北端は調査区外へのびる。遺構の規模は長さ3.71m以上・最大幅0.54m・深さ0.35mを測る。埋土は4層でレンズ状に堆積し、断面形は漏斗状を呈する。溝の主軸はN－21°－W傾く。

SD312（図版15・18・44）

4区L28・M28・N28・N29に位置する。遺構の両端は調査区外へのびる。遺構の規模は長さ15.0m以上・最大幅2.93m・深さ0.71mを測る。埋土は5層で水平に堆積し、断面形は弧状を呈する。溝の主軸は北部でN－3°－W、屈折して中央部でN－15°－W、さらに屈折N－20°－E傾く。

SD314（図版15・18・44）

4区L28に位置する。遺構の北端は調査区外へのびる。遺構の規模は長さ1.54m以上・最大幅0.35m・深さ0.18mを測る。埋土は2層でレンズ状に堆積し、断面形は半円状を呈する。溝の主軸はN－39°－E傾く。

SD316（図版15・18・44）

4区L27・L28・M27・M28に位置する。遺構の規模は長さ9.54m・最大幅0.53m・深さ0.20m測る。埋土は2層でレンズ状に堆積し、断面形は弧状を呈する。溝の主軸はE－19°－N傾く。

SD317（図版15・18）

4区L28に位置する。遺構の北端は調査区外へのびる。遺構の規模は長さ3.43m以上・最大幅0.31m・深さ0.12mを測る。埋土は2層で水平に堆積し、断面形は弧状を呈する。溝の主軸はN－17°－W傾く。

SD318（図版15・18・44）

4区L28に位置する。遺構の北端は調査区外へのびる。遺構の規模は長さ5.30m以上・最大幅0.63m・深さ0.13mを測る。埋土は2層で水平に堆積し、断面形は弧状を呈する。溝の主軸はN－14°－W傾く。

SD319（図版15・18・44）

4区L27に位置する。遺構の北端は調査区外へのびる。遺構の規模は長さ1.85m以上・最大幅0.23m・深さ0.13mを測る。埋土は2層でレンズ状に堆積し、断面形は半円状を呈する。溝の主軸はN－8°－W傾く。

SD320（図版15・18・44）

4区L27に位置する。遺構の北端は調査区外へのびる。遺構の規模は長さ4.78m以上・最大幅0.34m・深さ0.15m測る。埋土は単層で断面形は弧状を呈する。溝の主軸はN－17°－W傾く。

SD321（図版15・18）

4区N29に位置する。遺構の北端は攪乱に削平され、南端は調査区外へのびる。遺構の規模は長さ0.44m以上・最大幅0.67m・深さ0.06mを測る。埋土は単層で断面形は弧状を呈する。溝の主軸はN－20°－E傾く。

SD322（図版15・18）

4区N33に位置する。遺構の北端は調査区外へのびる。遺構の規模は長さ3.01m以上・最大幅0.52m・深さ0.13mを測る。埋土は2層で水平に堆積し、断面形は階段状を呈する。溝の主軸はE－12°－N傾く。

SD327（図版15・18）

4区L27に位置する。遺構の北端は調査区外へのびる。遺構の規模は長さ1.56m以上・最大幅0.25m・

深さ0.14mを測る。埋土は単層で断面形は弧状を呈する。溝の主軸はN－11°－Wに延く。

SD330（図版15・18）

4区L27に位置する。遺構の北端は調査区外へのびる。遺構の規模は長さ1.01m以上・最大幅0.15m・深さ0.08mを測る。埋土は単層で断面形は弧状を呈する。溝の主軸はN－19°－Wに延く。

### d 井　　戸

SE310（図版15・18）

4区M29－10・M30－6に位置する。平面形は楕円形と推定され、断面形は台形状を呈する。遺構の残存値は長径0.55m・短径0.54m・深さ0.95mを測る。埋土は3層で水平に堆積する。遺物の出土は認められず、断面形状や深さから井戸跡と設定した。

### e ピ　ッ　ト

P001（図版14・18）

1区K23－6・7・11・12に位置する。平面形は円形で断面形は箱状を呈する。遺構の規模は長径0.79m・短径0.70m・深さ0.26mを測る。埋土は3層で水平に堆積する。遺物は土師質の土器片が出土しているが詳細は不明である。

P023

1区K24－21に位置する。平面形は円形で断面形は弧状を呈する。遺構の規模は長径0.78m・短径0.75m・深さ0.09mを測る。埋土は2層でレンズ状に堆積する。

P031

1区K24－22・L24－2に位置する。平面形は円形と推定され、断面形は弧状を呈する。遺構の残存値は長径0.96m・短径0.87m・深さ0.07mを測る。埋土は単層である。

P047

1区K24－14・15・19・20に位置する。平面形は円形で断面形は台形状と推定できる。遺構の規模は長径0.67m・短径0.66m・深さ0.18mを測る。埋土は2層でレンズ状に堆積する。

P054

1区K24－24に位置する。平面形は楕円形で断面形は台形状を呈する。遺構の規模は長径0.69m・短径0.65m・深さ0.11mを測る。埋土は2層でレンズ状に堆積する。

P055

1区K25－12に位置する。平面形は楕円形で断面形は弧状を呈する。遺構の規模は長径0.77m・短径0.60m・深さ0.10mを測る。埋土は2層でレンズ状に堆積する。

P062

1区K24－20・K25－16に位置する。平面形は円形で断面形は弧状を呈する。遺構の規模は長径0.88m・短径0.77m・深さ0.08mを測る。埋土は2層でレンズ状に堆積する。

P063

1区K24－20・25に位置する。平面形は楕円形で断面形は弧状を呈する。遺構の規模は長径0.92m・短径0.77m・深さ0.09mを測る。埋土は2層でレンズ状に堆積する。

P067

1区L24－4に位置する。平面形は楕円形で断面形は台形状を呈する。遺構の規模は長径0.99m・短径0.84m・深さ0.09mを測る。埋土は2層でレンズ状に堆積する。

P070（図版14・18）

1区L25－1・6・L24－10に位置する。平面形は円形で断面形は箱状を呈する。遺構の規模は長径0.72m・短径0.72m・深さ0.18mを測る。埋土は2層でレンズ状に堆積する。

P071（図版14・18）

1区L25－1・2に位置する。平面形は円形で断面形は台形状を呈する。遺構の規模は長径0.94m・短径0.86m・深さ0.26mを測る。埋土は3層でレンズ状に堆積する。

P072

1区L25－6に位置する。平面形は円形で断面形は台形状を呈する。遺構の規模は長径0.96m・短径0.85m・深さ0.12mを測る。埋土は2層でレンズ状に堆積する。

P074

1区K25－22に位置する。平面形は楕円形で断面形は階段状を呈する。遺構の規模は長径0.89m・短径0.60m・深さ0.09mを測る。埋土は2層でレンズ状に堆積する。

P075

1区K25－21・22に位置する。平面形は円形で断面形は箱状を呈する。遺構の規模は長径0.31m・短径0.30m・深さ0.14mを測る。埋土は2層でレンズ状に堆積する。

P078

1区K24－1に位置する。平面形は円形で断面形は弧状を呈する。遺構の規模は長径0.62m・短径0.52m・深さ0.09mを測る。埋土は2層でレンズ状に堆積する。

P106

2区O32－10に位置する。平面形は円形で断面形は箱状を呈する。遺構の規模は長径　0.39m・短径0.35m・深さ　0.18mを測る。埋土は2層でレンズ状に堆積する。

P108

2区N32－11に位置する。平面形は楕円形で断面形は弧状を呈する。遺構の規模は長径0.52m・短径0.39m・深さ0.09mを測る。埋土は単層である。

P110

2区O32－5に位置する。平面形は円形で断面形はV字状を呈する。遺構の規模は長径0.43m・短径0.42m・深さ0.17mを測る。埋土は単層である。

P112

2区N33－21・O33－1に位置する。平面形は楕円形で断面形は弧状を呈する。遺構の規模は長径0.48m・短径0.36m・深さ0.09mを測る。埋土は単層である。

P116

2区N32－19・24に位置する。平面形は楕円形で断面形は弧状を呈する。遺構の規模は長径0.54m・短径0.43m・深さ0.12mを測る。埋土は単層である。

P211（図版14・18）

3区I20－19・20に位置する。平面形は円形と推定され、断面形は箱状を呈する。遺構の残存値は長径

0.43m・短径0.23m・深さ0.20mを測る。埋土は単層である。

P213（図版14・18）

3区Ⅰ19－8・13に位置する。平面形は不整径で断面形はV字状を呈する。遺構の規模は長径0.49m・短径0.46m・深さ0.30mを測る。埋土は2層で水平に堆積する。

P214（図版14・18）

3区Ⅰ18－15・Ⅰ19－11に位置する。平面形は楕円形と推定され、断面形は半円状を呈する。遺構の残存値は長径0.76m・短径0.51m・深さ0.34mを測る。埋土は2層で水平に堆積する。

f　自　然　流　路

NR215（図版14・18）

3区Ⅰ18・Ⅰ19に位置する。遺構の両端は調査区外へのびる。遺構の規模は長さ10.71m以上・最大幅4.60m・深さ0.17mを測る。埋土は単層で断面形は弧状を呈する。主軸はE－12°－NからE－51°－Nと屈折する。遺物の出土は確認できなかった。この流路下よりSD212・P213・P214が検出された。

## 2　遺　　物

### A　遺物の概要

遺物は古墳時代・古代の土器がコンテナで74箱出土している。内訳は古墳時代49箱、古代12箱である。1点のみ近世の唐津焼が出土している。古墳時代の遺物の多くが性格不明遺構から出土しており、遺物と遺構との関係性を読み取ることは困難な状況となっている。遺物の時期は滝沢規朗氏に実見いただき、おおよそ古墳中期、漆町編年で12群から13群であった[田嶋1986]。また、古代の遺物は多く溝から出土しており、遺物の時期を春日氏に実見いただき、おおよそ8世紀後半～9世紀の間と確認できた。須恵器の産地については小泊と新津丘陵が多くをしめ、数点信濃川左岸がみられるという組成になっている。

### B　遺　物　各　説

#### 1）古墳時代の遺物

**遺構出土の土器**

SK201（図版23・50－1・2）

1は大型の甕形土器である。内外面のほとんどは摩滅しており調整は頸部付近にユビナデの痕跡と底部付近にハケ調整の痕跡が残るのみである。口縁部は若干外傾し真っ直ぐに伸びる。2は鉢形土器である。調整は内外面ともに摩滅し詳細は不明である。

SK210（図版23・50－3）

3は高杯形土器の杯部である。杯部は内湾して立ち上がり、端部で若干外反する。内外面の調整は摩滅し詳細は不明である。

SK303（図版23・50－4～6）

4は甕形土器の口縁部である。口縁部は外反し端部は丸くおさめる。5・6は高杯形土器の杯部であ

る。５は段を持ち口縁部で外反する。６も段を持ち、口縁部は外傾する。

SK334（図版23・50－７）

７は甕形土器の口縁部である。口縁部は外反し端部は若干つまみあげる。胴部は内外面ともにハケ調整される。

SK401（図版23・50－８）

８は高杯形土器の脚部である。形状から屈折脚高杯の脚部と想定できる。

SK402（図版23・50－９～11）

９は壺形土器の口縁部である。口縁部は外傾し、端部はつまみあげる。10は高杯形土器の脚部である。残った屈折部の痕跡から屈折脚高杯と想定できる。11は鉢形土器である。底部から内湾して立ち上がり、口縁端部は横につまみ出す。輪積みの痕跡が明瞭に確認できる。

SK409（図版23・50－12）

12は高杯形土器の杯部である。杯部の見込み部分のみであり、詳細は不明である。

SK412（図版23・50－13～15）

13～15は甕形土器の口縁部である。13・14の端部は丸くおさめ、15の端部は薄くおさめる。調整は13・14の内外面および15の内面はハケ調整される。

SK414（図版23・50－16～20）

16～18は甕形土器である。３点ともに口縁部は外反する。調整は16が内外面ハケ調整、17が外面ハケ調整され、残りは不明である。19は鉢形土器と思われる。口縁部は残存しないため詳細は不明である。調整は内外面ともにハケ調整される。20は、椀形土器である。胴部から口縁部にかけて内湾し立ち上がる。調整は摩滅し不明である。

SK418（図版24・51－27）

27は甕形土器の口縁部である。口縁端部はつまみ上げ、折り曲げる。外面はハケ調整される。

SK419（図版23・50－21）

21は鉢形土器の口縁部である。口縁部は外反し端部を丸くおさめる。調整は摩滅し不明である。

SK420（図版24・51－24～26）

24は大型の甕形土器である。口縁部と胴部の境界が不鮮明であり、大型のため大きくゆがむ。調整は内外面ともにハケ調整され、内面に２次焼成の痕跡が残る。25は高杯形土器である。杯部は内湾して立ち上がり、湾曲する胴部をわずかに削り出すことによって段を作り出している。口縁部は頭部から外反する。脚部はあまり開脚せず、屈折して裾部にいたる。外面にハケ調整の痕跡が残る。26は鉢形土器である。口縁部は外反し端部をつまむ。強いヘラナデ調整の痕跡が残る。

SK421（図版24・51－28）

28は高杯形土器の杯部である。有段の杯部であり、口縁部は外反し端部を丸くおさめる。脚部には有段脚が付属する可能性が考えられる。

SK422（図版23・50－22）

22は鉢形土器である。口縁部は端部で外反する。調整は摩滅しており不明である。

SK423（図版23・50－23）

23は高杯形土器の脚部である。外面はミガキ調整、内面はユビナデで成形される。

SK425（図版24・51－29～32）

29・30は甕形土器である。口縁部は、29は外傾し端部は若干つまみ上げが見られ、30は外反する。調整は29は内外面ハケ調整される。31は高杯形土器である。杯部下部に段をもち内湾ぎみに立ち上がり、口縁部で外反する。32は鉢形土器である。胴部から口縁部にかけて内湾し口縁部でやや外反する。調整は不明である。

SK426（図版24・51－33）

33は甕形土器である。口縁部は若干外反し端部をつまみ上げる。外面はハケ調整され、内面はケズリ調整される。

SD403（図版24・51－34）

34は高杯形土器である。杯部のみ残存し口縁端部も欠損している。杯部の見込みは平らである。

SD411（図版24・51－35～37）

35は壺形土器の口縁部である。口縁部に有段を持つ。36・37は高杯形土器である。36の脚部は八の字に開き、37の脚部は屈折脚が付属する物と考えられる。

SD415（図版25・52－38～40）

38・39は甕形土器である。口縁部の立ち上がりは38が外傾し、端部に若干の面を持つのに対し、39は外反して端部を丸くおさめている。38のみハケ調整され、39は摩滅により不明である。40は壺形土器の口縁部である。外反し端部を丸くおさめる。

SD416（図版25・52－41）

41は壺形土器と思われる。肩部から頸部のみであり、そこから立ち上がる口縁部は残存していない。

SD417（図版25・52－42～49）

42・43は甕形土器である。口縁部の立ち上がりは42が外傾し、43は外反する。また、42の口縁端部は頂点を平たくする形で内側に肥高する。42についてはは外面の調整は不明であるものの、内面の調整がケズリ調整であることからも、布留傾向甕の様相を持つといえる。44は鉢形土器である。口縁部は外傾して立ち上がり、胴部は丸く、底部は尖り狭くなっている。外面下部はケズリ調整され、上部はハケ調整、内面はヘラナデ調整が残る。45・46は壺形土器の口縁部である。45の口縁部は内湾して立ち上がり、46の口縁部は有段の口縁部である。45は小型丸底壺・坩の可能性もある。47・48は高杯の脚部および裾部である。47の脚部は開脚し裾部で外反する。48の裾部は端部で外反し上に反り返る。48は高杯ではなく、他器種の脚部の可能性もある。49は椀形土器である。胴部は内湾し、口縁部で上に立ち上がる。調整は内面にヘラナデ調整の痕跡が残るのみである。

P404（図版25・52－50）

50は壺形土器の底部と思われる。底部のみ残存し詳細は不明である。

SX002（図版25・52－51～54）

51・52は甕形土器である。51の口縁部は外傾して立ち上がり、端部は丸くおさめる。調整は内外面ともにハケ調整される。52の口縁部は外反して立ち上がり、端部は若干の面を持つ。調整は外面ハケ調整後ケズリ調整、内面はケズリ調整される。底部のみが残存しておらず、甑などへの転用も考えられる。53は、鉢形土器の底部と思われる。内面がナデ調整される。54は椀形土器である。胴部から口縁部にかけて内湾して立ち上がる。外面はハケ調整され、内面は摩滅し不明である。

SX016（図版25・52－55～58）

55～58は甕形土器である。４点ともに口縁部は外反して立ち上がる。調整は、55の外面はハケ調整、内面はヘラナデ調整され、58は内外面ともにハケ調整される。

SX022（図版26・53－59・60）

59は甕形土器である。口縁部は外反して立ち上がる。調整は内外面ともに不明である。60は、高杯形土器である。段を持ち、口縁部は外反して立ち上がる。調整は内外面ともに不明である。

SX424（図版26・53－61）

61は、鉢形土器である。口縁部は外反し立ち上がる。調整は内外面ともに不明である。

SX301（図版26・53－62～76、27・54－77～79）

62～70は甕形土器である。58・64は大型甕になる。口縁部の形体は62が外傾して立ち上がり、69が有段口縁を持つ、それ以外は外反して立ち上がる。65・67は口縁端部に若干の面を持つ。調整は不明のものが多く、62が内外面ともにハケ調整、65が外面ハケ調整、内面ケズリ調整、67が外面ハケ調整、内面ナデ調整、68が内面ハケ調整、70が内外面ハケ調整、一部頸部内面にケズリ調整される。71～76は高杯形土器である。71・72が杯部のみ、73～76が脚部のみ残る。71・72ともに段を持ち、口縁部は71が外反し、72がやや内湾して立ち上がる。73～76の脚部では、73が開脚する脚部に対して、74～76が屈折脚を持つ脚部である。調整では、74・76の外面にミガキ調整が残る。77が鉢形土器、78が椀形土器である。77のほうが78よりやや身深い。77・78ともに、胴部から口縁部にかけて内湾して立ち上がる。77は口縁部を強くナデ調整し稜を作る。79はミニチュア土器である。胴部から口縁部にかけてやや内湾して立ち上がる。調整は内外面ともにハケ調整される。

SX302（図版27・54－80・81）

80は高杯形土器である。段を持ち口縁部は外反して立ち上がる。調整は内外面ともに摩滅する。81は鉢形土器である。扁平で浅い造りである。外面底部に若干赤彩が残る。

SX410（図版27・54－82～99）

83～85は甕形土器である。口縁部は82が外傾し端部をつまみ上げ、83～85は外反して立ち上がる。84のみ端部下部をナデ、稜を作る。調整は82・85が内外面共にハケ調整され、後の２点は不明である。86～88は壺形土器である。３点ともに有段口縁を持つ。89～92は高杯形土器である。89～91は杯部のみ、92は脚部のみ残存する。89・90は段をもち、口縁部にかけて外傾して立ち上がり、90は端部で外反する。91は口縁部にかけて内湾して立ち上がり、口縁部で外反する。調整は不明なものが多く、91の内面のみナデ調整が見られる。92は開脚する脚部で、裾部で外反し反り返る。高杯形土器以外の脚部の可能性もある。93～96および99は鉢形土器である。口縁部は93～95の３点は外反して立ち上がり、特に93が大きく外に屈折するのに対して、95は胴部から口縁部にかけて内傾し口縁部で外反する形となる。96・99は口縁部がやや外反する程度である。96の口縁部外面の一部にミガキ調整の痕跡が残る。97・98が鉢形土器である。ともに胴部から口縁部にかけて内湾する。

SX413（図版27・54－100～103、28・55－104～109）

100～103は甕形土器である。口縁部はすべて外反して立ち上がり、102・103には端部に若干の面を持つ。調整は101・102の外面にハケ調整、103の内面にハケ調整の痕跡が残る。104～106は壺形土器である。口縁部は104が段を持ち、105がやや受け口状をなし、106が口縁端部で折り返し外側に肥高する形となる。107・108は高杯形土器である。杯部のみ残存する。２点ともに段を持ち、口縁部は外反する。109

は椀形土器である。大型の椀形土器と考えられる。胴部から口縁部にかけて内湾する。

**遺構外出土土器**

**開渠工事・試掘**（図版28・55－110～114）

110・111は甕形土器である。口縁部は外反し立ち上がり、胴部は長胴である。調整は内外面ともにハケ調整される。111は胴部から底部のみ残存する。胴部は球胴で平底である。調整は内外面ともにハケ調整される。

112・113・114は壺形土器である。112・114の口縁部は段を持ち外傾し、113の口縁部は外反し端部を丸くおさめる。調整は３点ともに不明である。

## 2）古代の遺物

**ＳＢ336－Ｐ313**（図版28・55－115）

115は土師器の椀である。口縁部端部は欠損している。ロクロ成形され比較的身深く、底径も長い。底部は摩滅し不明瞭であるが回転ヘラ切りされると思われる。

**SD312**（図版28・55－116～127）

116は土師器の椀である。口縁部のみ残る。ロクロ成形される。117～122は須恵器の無台杯である。117～118は口縁部片、119～122は底部片である。いずれも胴部から口縁部にかけて内湾気味に立ち上がる。119～122の底部は回転ヘラ切りされる。123は須恵器の壺である。頸部から口縁部は欠損している。胴部はロクロ成形され、底部と胴部の接続時の格子状のタタキ目の痕跡が若干残っており、タタキの後ロクロ成形されたと考えられる。高台は台形状を呈する貼り付け高台で、外端で接地する。118～123の胎土は、すべてＢ群であった。124～127は土師器の甕である。125～127は口縁部のみ残存する。口縁部の形体はそれぞれ特徴があり、124は口縁部が外反し、明確な稜を形作り、面を持つ。125は口縁部が外傾し端部をなでることで、面を作る。126は口縁部が外傾し端部で内側に入り受け口状にする。127は口縁部で大きく外反して屈曲し端部をつまみ上げる。４点ともに調整は摩滅しており不明である。

**SK216**（図版29・56－128）

128は須恵器の無台杯である。口縁部のみ残存する。内面にススが付着する。胎土はＣ１群である。

**SD005**（図版29・56－129）

129は土師器の鍋である。口縁部のみ残存する。胴部から口縁部にかけて内湾し一旦外反して、再び内湾する。調整は摩滅し不明である。

**SD101**（図版29・56－130～134）

130～133は須恵器の無台杯である。底部の残る131～133は回転ヘラ切りが見られる。胎土は130・132がＣ１群、133がＢ群である。134は須恵器の有台杯である。底部は回転ヘラ切りが見られる。高台は外端で接地する。胎土はＢ群である。

**SD103**（図版29・56－135）

135は須恵器の無台杯である。口縁部片のみ残存する。胎土はＣ２群である。

**SD104**（図版29・56－136・137）

136は須恵器の無台杯である。口縁部片のみ残存し、小片のため口径は出なかった。口縁部内面に折り返しの痕跡が見られる。胎土はＢ群である。137は土師器の甕である。胴部のみ残存する。内外面の調整は上部がロクロナデ調整、外面下部はタタキ調整、内面下部はタタキ調整後にナデ調整がみられる。

SD105（図版29・56－138）

138は須恵器の無台杯である。口縁部片のみ残存し底部は不明である。胎土はＣ１群である。

SD107（図版29・56－139）

139は土師器の椀である。器厚は薄く非常にもろい状態である。内外面の調整は不明である。

SD109（図版29・56－140）

140は須恵器の無台杯である。底部も残存するが切り離しの痕跡は不明である。胎土はＢ群である。

SD212（図版29・56－141～147）

141は須恵器の杯蓋である。端部は長く垂下する。切り離しは回転ヘラ切りしケズリ調整を行う。142・143は須恵器の無台杯である。２点ともに、底部は回転ヘラ切りがみられる。胎土は141～143はＣ１群である。144～147は土師器の椀である。４点ともに特徴があり、146・147の２点は小型の杯となる。144は底径が長く、145は底径が短い。また、146は底部も厚く、口縁部も比較的緩やかに立ち上がり、147は底部も薄く、口縁部も内湾垂直気味に立ち上がる。146・147口縁端部にはススが付着し灯明皿として使われた可能性がある。

SD321（図版29・56－148～150）

148・149は須恵器の無台杯である。２点ともに、口縁部は欠損している。底部は回転ヘラ切りが見られる。胎土は148がＣ１群、149がＢ群である。150は須恵器の甕である。口縁部のみ残存する。口縁部は外反して立ち上がり、端部で外側につまみ出す。

P013（図版29・56－151）

151は土師器の甕である。口縁部のみ残存する。口縁部は外傾し立ち上がる。

P211（図版29・56－152）

152は須恵器の有台杯である。底部のみ残存する。底部は回転ヘラ切りで、高台は内端接地である。胎土はＢ群である。

### 遺構外出土土器

検出面等（図版29・56－153～166）

153・154は須恵器の杯蓋である。153の端部は長く垂下し、154は短い。153は不明であるが、154の切り離しは回転ヘラ切りし、ケズリ調整を行う。胎土は153がＣ１群、154がＢ群である。155～164は須恵器の杯である。155～160は底部を欠損し、161～164は有台杯で口縁部を欠損する。156は比較的身深く作られ、157は底部径が長めである。高台の形状は162のみ内側に傾斜し、他は垂下する。接地は161～163が外端接地であるが、164のみ内端接地である。胎土は156・162・163がＢ群、155・159・160・164がＣ１群、157がＣ２群である。165・166は須恵器の壺である。165が口縁部から肩部にかけて、166が底部のみ残存する。165の口縁部は外反して立ち上がり、端部で平坦面を作る。ロクロ成形され、頸部から下部は内面に同心円の蔵さ当て具痕が残る。外面のタタキ目はナデ消される。166の高台は台形状を呈し、外端接地する。胎土は165がＣ１群、166がＢ群である。

### ３）その他の遺物（図版29・56－167）

167は唐津焼の椀である。釉薬は見込みから口縁部にかけて掛けられる。見込みに胎土目の目跡が残る。

# 第Ⅵ章　自然科学分析

## 1　放射性炭素年代測定

### A　はじめに

放射性炭素年代測定は、光合成や食物摂取などにより生物体内に取り込まれた放射性炭素（14C）の濃度が、放射性崩壊により時間とともに減少することを利用した年代測定法である。樹木や種実などの植物遺体、骨、貝殻、土壌、土器付着炭化物などが測定対象となり、約６万年前までの年代測定が可能である。

ここでは、道東遺跡の遺構構築年代を明らかにする目的で、加速器質量分析法による放射性炭素年代測定を行った。

### B．試料と方法

測定試料は、道東遺跡のSD107より土した木材、SX410より出土した炭化材およびSD417より出土した土器に付着した炭化物の３点である。測定試料の情報、調製データは第２表のとおりである。試料は調製後、加速器質量分析計（パレオ・ラボ、コンパクトAMS：NEC製 1.5SDH）で測定した。得られた14C濃度について同位体分別効果の補正を行った後、14C年代、暦年代を算出した。

| 試料名 | 試料の詳細 | 種類 | 前処理・調整 | 測定法 |
|---|---|---|---|---|
| No.1 | SD107　1層 | 木材 | 超音波洗浄，酸―アルカリ―酸洗浄 | AMS |
| No.2 | SX410 K26-21 | 炭化材 | 超音波洗浄，酸―アルカリ―酸洗浄 | AMS |
| No.3 | SD417 | 土器付着物 | 超音波洗浄，酸―アルカリ―酸洗浄 | AMS |

※AMS（Accelerator Mass Spectrometry）は加速器質量分析法

**第２表　測定資料及び処理**

### C　測定結果

第３表に、同位体分別効果の補正に用いる炭素同位体比（δ13C）、同位体分別効果の補正を行って暦年較正に用いた年代値、慣用に従って年代値、誤差を丸めて表示した14C年代、14C年代を暦年代に較正した年代範囲を示す。また、第９図には暦年較正結果を示す。暦年較正に用いた年代値は年代値、誤差を丸めていない値であり、今後暦年較正曲線が更新された際にこの年代値を用いて暦年較正を行うために記載した。14C年代はAD1950年を基点にして何年前かを示した年代である。14C年代（年BP）の算出には、14Cの半減期としてLibbyの半減期5568年を使用した。また、付記した14C年代誤差（±1σ）は、測定の統計誤差、標準偏差等に基づいて算出され、試料の14C年代がその14C年代誤差内に入る確率が68.2%であることを示すものである。なお、暦年較正の詳細は以下のとおりである。

暦年較正とは、大気中の14C濃度が一定で半減期が5568年として算出された14C年代に対し、過去の宇宙線強度や地球磁場の変動による大気中の14C濃度の変動、及び半減期の違い（14Cの半減期5730±40年）を較正して、より実際の年代値に近いものを算出することである。

14C 年代の暦年較正には OxCal4.2（較正曲線データ：IntCal13）を使用した。なお、1σ 暦年代範囲は、OxCal の確率法を使用して算出された 14C 年代誤差に相当する 68.2%信頼限界の暦年代範囲であり、同様に 2σ 暦年代範囲は 95.4%信頼限界の暦年代範囲である。カッコ内の百分率の値は、その範囲内に暦年代が入る確率を意味する。グラフ中の縦軸上の曲線は 14C 年代の確率分布を示し、二重曲線は暦年較正曲線を示す。

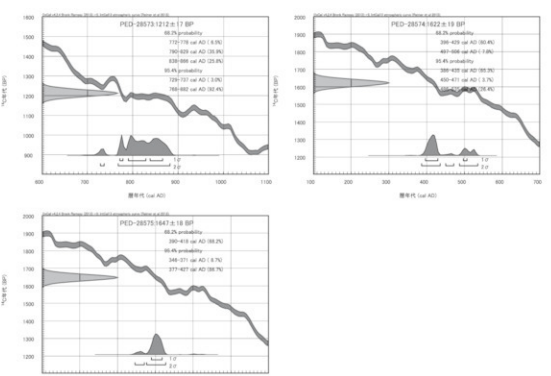
| 試料名 | 測定№<br>(αED－) | $\delta^{13}C$<br>(‰) | 暦年較正用年代<br>(年Ba) | $^{14}C$年代<br>(年Ba) | 暦年代（西暦）<br>1σ（68.2%確率） | <br>2σ（95.4%確率） |
|---|---|---|---|---|---|---|
| № 1 | 28573 | −28.73±0.16 | 1212±17 | 1210±15 | cal AD772−778（6.5%）<br>cal AD790−829（35.9%）<br>cal AD838−866（25.8%） | cal AD729−737（3.0%）<br>cal AD768−882（92.4%） |
| № 2 | 28574 | −30.04±0.18 | 1622±19 | 1620±20 | cal AD396−429（60.4%）<br>cal AD497−506（7.8%） | cal AD386−435（65.3%）<br>cal AD450−471（3.7%）<br>cal AD486−535（26.4%） |
| № 3 | 28575 | −25.30±0.21 | 1647±18 | 1645±20 | cal AD390−418（68.2%） | cal AD346−371（8.7%）<br>cal AD377−427（86.7%） |

BP：Before Physics（Present），AD：紀元

第３表　測定結果

## D　所　　見

道東遺跡の遺構構築年代を明らかにする目的で、加速器質量分析法（AMS 法）により放射性炭素年代測定を行った。その結果、SD107 の１層より出土した木材は、1210±15 年 BP（２σ の暦年代で AD729 ～ AD737 年、AD768 ～ AD882 年）、SX410 より出土した炭化材は、1620±20 年 BP（２σ の暦年代で AD386 ～ AD435 年、AD450 ～ AD471 年、AD486 ～ AD535 年）、SD417 より出土した土器付着炭化物は、1645±20 年 BP（２σ の暦年代で AD346 ～ AD371 年、AD377 ～ AD427 年）の年代値であった。




第９図　暦年較正結果

## 2　植物珪酸体分析

### A　はじめに

植物珪酸体は、植物の細胞内に珪酸（Si0 2）が蓄積したもので、植物が枯れたあともガラス質の微化石（プラント・オパール）となって土壌中に半永久的に残っている。植物珪酸体分析は、この微化石を遺跡土壌などから検出して同定・定量する方法であり、イネをはじめとするイネ科栽培植物の同定および古植生・古環境の推定などに応用されている［杉山 2000・2009］。

### B　試　　料

分析試料は、大原遺跡のSX007（古代の窪み）の３層上から採取された１点、道東遺跡のSD107（古代の溝状遺構）の１層から採取された１点の計２点である。

### C　分　析　法

植物珪酸体の抽出と定量は、ガラスビーズ法［藤原 1976］を用いて、次の手順で行った。

1）試料を 105℃で 24 時間乾燥（絶乾）
2）試料約１g に対し直径約 40 μ m のガラスビーズを約 0.02g 添加（0.1mg の精度で秤量）
3）電気炉灰化法（550℃・６時間）による脱有機物処理
4）超音波水中照射（300W・42KHz・10 分間）による分散
5）沈底法による 20 μ m 以下の微粒子除去
6）封入剤（オイキット）中に分散してプレパラート作成
7）検鏡・計数

同定は、400 倍の偏光顕微鏡下で、おもにイネ科植物の機動細胞に由来する植物珪酸体を対象として行った。計数は、ガラスビーズ個数が 400 以上になるまで行った。これはほぼプレパラート１枚分の精査に相当する。試料１g あたりのガラスビーズ個数に、計数された植物珪酸体とガラスビーズ個数の比率をかけて、試料１g 中の植物珪酸体個数を求めた。　また、おもな分類群についてはこの値に試料の仮比重（1.0 と仮定）と各植物の換算係数（機動細胞珪酸体１個あたりの植物体乾重）をかけて、単位面積で層厚１cm あたりの植物体生産量を算出した。これにより、各植物の繁茂状況や植物間の占有割合などを具体的にとらえることができる［杉山 2000］。タケ亜科については、植物体生産量の推定値から各分類群の比率を求めた。

### D　分　析　結　果

#### 1）分　類　群

検出された植物珪酸体の分類群は以下のとおりである。これらの分類群について定量を行い、その結果を第４表および第 10 図に示した。主要な分類群について顕微鏡写真を示す（第 13 図）。

［イネ科］
イネ

〔イネ科－タケ亜科〕

ネザサ節型（おもにメダケ属ネザサ節）、チマキザサ節型（ササ属チマキザサ節・チシマザサ節など）、ミヤコザサ節型（ササ属ミヤコザサ節など）、未分類等

〔イネ科－その他〕

表皮毛起源、棒状珪酸体（おもに結合組織細胞由来）、未分類等

〔樹木〕

モクレン属型

検出密度（単位：×100個/g）

| 分類群 | 学名 | 地点・試料 1区SX007 3層中部 | 4区SD107 1層 |
|---|---|---|---|
| イネ科 | Gramineae | | |
| イネ | *Oryza sativa* | 15 | 12 |
| タケ亜科 | Bambusoideae | | |
| ネザサ節型 | *Pleioblastus* sect. Nezasa | 7 | 12 |
| チマキザサ節型 | *Sasa* sect. Sasa etc. | 22 | 12 |
| ミヤコザサ節型 | *Sasa* sect. Crassinodi | 7 | 6 |
| 未分類等 | Others | 7 | 6 |
| その他のイネ科 | Others | | |
| 表皮毛起源 | Husk hair origin | 7 | 6 |
| 棒状珪酸体 | Rodshaped | 22 | 43 |
| 未分類等 | Others | 36 | 37 |
| 樹木起源 | Arboreal | | |
| モクレン属型 | *Magnolia* type | | 6 |
| （海綿骨針） | Sponge spicules | 15 | 25 |
| 植物珪酸体総数 | Total | 124 | 141 |

おもな分類群の推定生産量（単位：kg/㎡･cm）：試料の仮比重を1.0と仮定

| | | |
|---|---|---|
| イネ | *Oryza sativa* | 0.43 | 0.36 |
| ネザサ節型 | *Pleioblastus* sect. Nezasa | 0.04 | 0.06 |
| チマキザサ節型 | *Sasa* sect. Sasa etc. | 0.16 | 0.09 |
| ミヤコザサ節型 | *Sasa* sect. Crassinodi | 0.02 | 0.02 |
| タケ亜科の比率（%） | | | |
| ネザサ節型 | *Pleioblastus* sect. Nezasa | 16 | 35 |
| チマキザサ節型 | *Sasa* sect. Sasa etc. | 74 | 54 |
| ミヤコザサ節型 | *Sasa* sect. Crassinodi | 10 | 11 |
| メダケ率 | Medake ratio | 16 | 35 |

**第４表　大原遺跡・道東遺跡における植物珪酸体分析結果**

### ２）植物珪酸体の検出状況

#### 大　原　遺　跡

SX007（古代の窪み）の３層上では、イネ、ネザサ節型、チマキザサ節型、ミヤコザサ節型などが検出されたが、いずれも少量である。イネの密度は1,500個/gと低い値であり、稲作跡の検証や探査を行う場合の判断基準としている5,000個/g（状況により3,000個/gとする場合もある）を下回っている。タケ亜科の比率では、チマキザサ節型が優勢となっている。

#### 道　東　遺　跡

SD107（古代の溝状遺構）の１層では、イネ、ネザサ節型、チマキザサ節型、ミヤコザサ節型、および樹木起源のモクレン属型などが検出されたが、いずれも少量である。イネの密度は1,200個/gと低い値である。タケ亜科の比率では、チマキザサ節型が優勢となっている。

## E　植物珪酸体分析から推定される植生と環境

### １）大　原　遺　跡

SX007（古代の窪み）の３層上では、少量ながらイネが検出され、調査地点もしくはその近辺で稲作が行われていた可能性が認められた。イネの密度が低い原因としては、稲作が行われていた期間が短かったこと、土層の堆積速度が速かったこと、採取地点が畦畔など耕作面以外であったこと、および上層や他所からの混入などが考えられる。

また、当時の調査区周辺にはササ属（チマキザサ節やミヤコザサ節）やメダケ属（ネザサ節）などの竹笹類が生育していたと推定される。ササ属のうち、ミヤコザサ節は太平洋側の積雪の少ないところに分布しており冬季の乾燥に適応しているが、チシマザサ節やチマキザサ節は日本海側の多雪地帯に分布しており冬季の乾燥に弱い［室井1960；鈴木1978］。ここでは、後者が優勢であることから、当時は積雪量が比較的多かった可能性が考えられる。

### 2）道　東　遺　跡

SD107（古代の溝状遺構）の１層では、少量ながらイネが検出され、調査地点もしくはその近辺で稲作が行われていた可能性が認められた。イネの密度が低い原因としては、前述のようなことが考えられる。また、当時の調査区周辺にはササ属（チマキザサ節やミヤコザサ節）やメダケ属（ネザサ節）などの竹笹類が生育し、遺跡周辺にはモクレン属などの樹木が生育していたと推定される。ササ属のうちチマキザサ節型が優勢であることから、前述と同様に当時は積雪量が比較的多かった可能性が考えられる。

## 3　花　粉　分　析

### A　は　じ　め　に

花粉分析は、一般に低湿地の堆積物を対象とした比較的広域な植生・環境の復原に応用されており、遺跡調査においては遺構内の堆積物などを対象とした局地的な植生の推定も試みられている。しかし花粉などの植物遺体は、水成堆積物では保存状況が良好であるが、乾燥的な環境下の堆積物では分解されて残存していない場合もある。

### B　試　　料

分析試料は、大原遺跡のSX007（古代の窪み）の３層上から採取された１点、道東遺跡のSD107（古代の溝状遺構）の１層から採取された１点の計２点である。試料採取箇所を分析結果の模式柱状図に示す。

### C　方　　法

花粉の分離抽出は、中村（1967）の方法をもとに、以下の手順で行った。

1）試料から１cm3を採量
2）0.5%リン酸三ナトリウム（12水）溶液を加え15分間湯煎
3）水洗処理の後、0.25mmの篩で礫などの大きな粒子を取り除き、沈澱法で砂粒を除去
4）25%フッ化水素酸溶液を加えて30分放置
5）水洗処理の後、氷酢酸によって脱水し、アセトリシス処理（無水酢酸９：濃硫酸１のエルドマン氏液を加え１分間湯煎）を施す
6）再び氷酢酸を加えて水洗処理
7）沈渣に石炭酸フクシンを加えて染色し、グリセリンゼリーで封入してプレパラート作製
8）検鏡・計数

検鏡は、生物顕微鏡によって300～1000倍で行った。花粉の分類は同定レベルによって、科、亜科、属、亜属、節および種の階級で分類し、複数の分類群にまたがるものはハイフン（－）で結んで示した。同定分類には所有の現生花粉標本、島倉(1973)、中村(1980)を参照して行った。イネ属については、中村(1974, 1977)を参考にして、現生標本の表面模様・大きさ・孔・表層断面の特徴と対比して同定しているが、個体変化や類似種もあることからイネ属型とする。

## D 結　　果

### 1）分　類　群

### 大 原 遺 跡

出現した分類群は、樹木花粉20、樹木花粉と草本花粉を含むもの4、草本花粉18、シダ植物胞子2形態の計44である。これらの学名と和名および粒数を第5表に示し、周辺の植生を復原するために花粉総数を基数とする花粉ダイアグラムを第11図に示す。主要な分類群は顕微鏡写真に示した（第14図）。また、寄生虫卵についても観察したが検出されなかった。以下に出現した分類群を記載する。

〔樹木花粉〕

マツ属複維管束亜属、スギ、イチイ科ーイヌガヤ科ーヒノキ科、ヤナギ属、クルミ属、サワグルミ、ハンノキ属、カバノキ属、クマシデ属ーアサダ、クリ、ブナ属、コナラ属コナラ亜属、コナラ属アカガシ亜属、ニレ属ーケヤキ、エノキ属ームクノキ、ウルシ属、モチノキ属、トチノキ、ツツジ科、トネリコ属

〔樹木花粉と草本花粉を含むもの〕

クワ科ーイラクサ科、バラ科、マメ科、ニワトコ属ーガマズミ属

〔草本花粉〕

ガマ属ーミクリ属、オモダカ属、イネ科、カヤツリグサ科、ミズアオイ属、ネギ属、タデ属サナエタデ節、アカザ科ーヒユ科、ナデシコ科、コウホネ属、アブラナ科、ツリフネソウ属、ナス科、ゴキヅル、タンポポ亜科、キク亜科、オナモミ属、ヨモギ属

〔シダ植物胞子〕

単条溝胞子、三条溝胞子

| 分類群 | | 1区-SX007 | 4区SD107 |
|---|---|---|---|
| 学名 | 和名 | 3層中部 | 1層 |
| Arboreal pollen | 樹木花粉 | | |
| *Abies* | モミ属 | | 2 |
| *Picea* | トウヒ属 | | 1 |
| *Tsuga* | ツガ属 | | 1 |
| *Pinus* subgen. *Diploxylon* | マツ属複維管束亜属 | 3 | 7 |
| *Cryptomeria japonica* | スギ | 9 | 27 |
| Taxaceae-Cephalotaxaxeae-Cupressaceae | イチイ科-イヌガヤ科-ヒノキ科 | 3 | 2 |
| *Salix* | ヤナギ属 | 3 | 2 |
| *Juglans* | クルミ属 | 2 | 1 |
| *Pterocarya rhoifolia* | サワグルミ | 6 | 2 |
| *Alnus* | ハンノキ属 | 51 | 32 |
| *Betula* | カバノキ属 | 4 | 2 |
| *Carpinus-Ostrya japonica* | クマシデ属-アサダ | 1 | 3 |
| *Castanea crenata* | クリ | 11 | 4 |
| *Castanopsis* | シイ属 | | 5 |
| *Fagus* | ブナ属 | 21 | 21 |
| *Quercus* subgen. *Lepidobalanus* | コナラ属コナラ亜属 | 11 | 24 |
| *Quercus* subgen. *Cyclobalanopsis* | コナラ属アカガシ亜属 | 1 | 2 |
| *Ulmus-Zelkova serrata* | ニレ属-ケヤキ | 4 | 7 |
| *Celtis-Aphananthe aspera* | エノキ属-ムクノキ | 1 | 3 |
| *Rhus* | ウルシ属 | 1 | 1 |
| *Acer* | カエデ属 | | 1 |
| *Ilex* | モチノキ属 | 2 | |
| *Aesculus turbinata* | トチノキ | 5 | 2 |
| *Ampelopsis brevipedunculata* | ノブドウ | | 1 |
| *Tilia* | シナノキ属 | | 1 |
| Ericaceae | ツツジ科 | 1 | |
| *Fraxinus* | トネリコ属 | 1 | |
| Arboreal・Nonarboreal pollen | 樹木・草本花粉 | | |
| Moraceae-Urticaceae | クワ科-イラクサ科 | 70 | 7 |
| Rosaceae | バラ科 | 1 | |
| Leguminosae | マメ科 | 1 | |
| *Sambucus-Viburnum* | ニワトコ属-ガマズミ属 | 7 | 1 |
| Nonarboreal pollen | 草本花粉 | | |
| *Typha-Sparganium* | ガマ属-ミクリ属 | 1 | 1 |
| *Alisma* | サジオモダカ属 | | 1 |
| *Sagittaria* | オモダカ属 | 2 | 6 |
| Gramineae | イネ科 | 42 * | 176 |
| *Oryza* type | イネ属型 | | 45 |
| Cyperaceae | カヤツリグサ科 | 8 | 67 |
| *Monochoria* | ミズアオイ属 | 1 | 4 |
| *Allium* | ネギ属 | 1 | |
| *Polygonum* sect. *Persicaria* | タデ属サナエタデ節 | 1 | 2 |
| Chenopodiaceae-Amaranthaceae | アカザ科-ヒユ科 | 5 | |
| *Rumex* | ギシギシ属 | | 1 |
| Caryophyllaceae | ナデシコ科 | 2 | 1 |
| *Thalictrum* | カラマツソウ属 | | 1 |
| *Nuphar* | コウホネ属 | 1 | |
| Cruciferae | アブラナ科 | 6 | 1 |
| *Impatiens* | ツリフネソウ属 | 6 | 1 |
| *Haloragis-Myriophyllum* | アリノトウグサ属-フサモ属 | | 1 |
| Hydrocotyloideae | チドメグサ亜科 | | 1 |
| Solanaceae | ナス科 | 1 | |
| *Actinostemma lobatum* | ゴキヅル | 4 | |
| Apioideae | セリ亜科 | | 1 |
| Lactucoideae | タンポポ亜科 | 2 | 1 |
| Asteroideae | キク亜科 | 1 | 5 |
| *Xanthium* | オナモミ属 | 1 | 1 |
| *Artemisia* | ヨモギ属 | 51 | 30 |
| Fern spore | シダ植物胞子 | | |
| Monolate type spore | 単条溝胞子 | 9 | 14 |
| Trilate type spore | 三条溝胞子 | 1 | 7 |
| Arboreal pollen | 樹木花粉 | 141 | 154 |
| Arboreal・Nonarboreal pollen | 樹木・草本花粉 | 79 | 8 |
| Nonarboreal pollen | 草本花粉 | 136 | 347 |
| Total pollen | 花粉総数 | 356 | 509 |
| Pollen frequencies of $1cm^3$ | 試料1$cm^3$中の花粉密度 | $0.6\times10^{4}$ | $0.5\times10^{3}$ |
| Unknown pollen | 未同定花粉 | 11 | 6 |
| Fern spore | シダ植物胞子 | 10 | 21 |
| Helminth eggs | 寄生虫卵 | (-) | (-) |
| Stone cell | 石細胞 | (-) | (-) |
| Digestion rimeins | 明らかな消化残渣 | (-) | (-) |
| Charcoal・woods fragments | 微細炭化物・微細木片 | (+) | (+) |

第５表　大原遺跡・道東遺跡における花粉分析結果

### 道 東 遺 跡

出現した分類群は、樹木花粉24、樹木花粉と草本花粉を含むもの2、草本花粉20、シダ植

物胞子２形態の計 48 である。これらの学名と和名および粒数を第５表に示し、花粉数が 200 個以上計数できた試料は、周辺の植生を復原するために花粉総数を基数とする花粉ダイアグラムを第 12 図に示し、主要な分類群は顕微鏡写真に示した。また、寄生虫卵についても観察したが検出されなかった。以下に出現した分類群を記載する。

〔樹木花粉〕

マキ属、モミ属、ツガ属、マツ属複維管束亜属、スギ、コウヤマキ、イチイ科－イヌガヤ科－ヒノキ科、ヤナギ属、クルミ属、サワグルミ、ハンノキ属、カバノキ属、ハシバミ属、クマシデ属－アサダ、クリ、シイ属、シイ属－マテバシイ属、ブナ属、コナラ属コナラ亜属、コナラ属アカガシ亜属、ニレ属－ケヤキ、エノキ属－ムクノキ、ウルシ属、モチノキ属、トチノキ、ブドウ属、モクセイ科、トネリコ属

〔樹木花粉と草本花粉を含むもの〕

クワ科－イラクサ科、ニワトコ属－ガマズミ属

〔草本花粉〕

ガマ属－ミクリ属、サジオモダカ属、オモダカ属、イネ科、イネ属型、カヤツリグサ科、ミズアオイ属、タデ属サナエタデ節、ギシギシ属、ナデシコ科、カラマツソウ属、アブラナ科、ツリフネソウ属、アリノトウグサ属－フサモ属、チドメグサ亜科、セリ亜科、タンポポ亜科、キク亜科、オナモミ属、ヨモギ属

〔シダ植物胞子〕

単条溝胞子、三条溝胞子

### ２）花粉群集の特徴

#### 大　原　遺　跡

樹木花粉が 39%、草本花粉が 37%とほぼ同じ割合を占め、樹木・草本花粉が 20%以上を占める。樹木花粉では、ハイノキ属を主にブナ属、コナラ属コナラ亜属、クリ、スギ、サワグルミ、トチノキが出現する。草本花粉では、ヨモギ属、イネ科（集塊あり）が比較的多く、カヤツリグサ科、アブラナ科、アカザ科－ヒユ科、ツリフネソウ属、ゴキヅル、オモダカ属、ミズアオイ属が低率に出現する。樹木・草本花粉では、クワ科－イラクサ科が優占する。

#### 道　東　遺　跡

樹木花粉が 29%、草本花粉が 65%を占め、密度は高い。草本花粉では、イネ科（イネ属型を含む）が高率に出現し、カヤツリグサ科、ヨモギ属が伴われ、オモダカ属、キク亜科、ミズアオイ属が出現する。樹木花粉では、スギ、ハンノキ属、ブナ属、コナラ属コナラ亜属などが出現する。

## Ｅ　花粉分析から推定される植生と環境

### １）大　原　遺　跡

周辺はイネ科、ヨモギ属、カヤツリグサ科、アブラナ科、アカザ科－ヒユ科、ゴキヅルの草本とクワ科－イラクサ科の生育する草本の多い環境であった。花粉生産数が少なく散布性の低いオモダカ属、ミズアオイ属、ツリフネソウ属の水生植物ないし水辺の草本が SX007 土坑内ないし周囲に生育し、湿地状であっ

たとみられる。また、周辺にはハンノキ属を主にサワグルミ、トチノキの湿性の樹木が生育する低湿な箇所も分布していた。周辺地域にはブナ属、コナラ属コナラ亜属の落葉広葉樹林やはスギ林が分布していた。

2）道 東 遺 跡

周辺はイネ科を中心にカヤツリグサ科、ヨモギ属の草本が分布し、イネ属型の検出から水田の分布が示唆される。SD107（1層）の溝内には、オモダカ属、ミズアオイ属、ツリフネソウ属の水生植物ないし水辺の草本が生育し、滞水ないし湿地状であった。また、周辺地域にはハンノキ属、ブナ属、コナラ属コナラ亜属の落葉広葉樹林やスギ林が分布していた。

# 4 珪 藻 分 析

## A は じ め に

珪藻は、珪酸質の被殻を有する単細胞植物であり、海水域や淡水域などの水域をはじめ、湿った土壌、岩石、コケの表面にまで生息している。珪藻の各分類群は、塩分濃度、酸性度、流水性などの環境要因に応じて、それぞれ特定の生息場所を持っている。珪藻化石群集の組成は、当時の堆積環境を反映しており、水域を主とする古環境復原の指標として利用されている。

## B 試 料

分析試料は、大原遺跡のSX007（古代の窪み）の3層上から採取された1点、道東遺跡のSD107（古代の溝状遺構）の1層から採取された1点の計2点である。試料採取箇所を分析結果の模式柱状図に示す。

## C 方 法

以下の手順で、珪藻の抽出と同定を行った。

1）試料から1cm3を採量
2）10%過酸化水素水を加え、加温反応させながら1晩放置
3）上澄みを捨て、細粒のコロイドを水洗（5～6回）
4）残渣をマイクロピペットでカバーグラスに滴下して乾燥
5）マウントメディアによって封入し、プレパラート作製
6）検鏡、計数

検鏡は、生物顕微鏡によって600～1500倍で行った。計数は珪藻被殻が200個体以上になるまで行い、少ない試料についてはプレパラート全面について精査を行った。

## D 結 果

### 1）分 類 群

**大 原 遺 跡**

出現した珪藻は、真塩性種（海水生種）1分類群、中塩性種（汽水生種）2分類群、貧塩性種（淡水生

種）９分類群である。破片の計数は基本的に中心域を有するものと、中心域がない種については両端２個につき１個と数えた。第６表に分析結果を示す。密度が低いことから珪藻ダイアグラムは作成できなかった（第15図）。

〔真塩性種〕

Thalassiosira nitzschoides

〔中塩性種〕

Achnanthes brevipes v. intermedia、Melosira sp. n.

〔貧塩性種〕

Amphora copulata、Aulacoseira canadensis、Cymbella aspera、Cymbella tumida、Eunotia minor、Gomphonema angustatum、Gomphonema clevei、Gomphonema parvulum、Pinnularia borealis

| 分類群 | 15C-SX007 | 4JKSD107 |
|---|---|---|
| | 3層中部 | 1層 |
| 貧塩性種（淡水生種） | | |
| *Amphora copulata* | 1 | |
| *Aulacoseira ambigua* | | 4 |
| *Aulacoseira canadensis* | 1 | 2 |
| *Cymbella aspera* | 1 | |
| *Cymbella tumida* | 1 | |
| *Eunotia bilunaris* | | 1 |
| *Eunotia minor* | 1 | 3 |
| *Eunotia paludosa-rhomboidea* | | 1 |
| *Hantzschia amphioxys* | | 1 |
| *Navicula cuspidata* | | 1 |
| *Gomphonema angustatum* | 1 | |
| *Gomphonema clevei* | 1 | |
| *Gomphonema parvulum* | 1 | |
| *Pinnularia braunii* | | 1 |
| *Pinnularia borealis* | 1 | |
| *Tabellaria fenestrata-flocculosa* | | 1 |
| 中塩性種（汽水生種） | | |
| *Achnanthes brevipes v. intermedia* | 2 | 1 |
| *Melosira sp. n.* | 1 | |
| 真塩性種（海水生種） | | |
| *Plagiogramma sp.* | | 1 |
| *Thalassiosira nitzschoides* | 1 | 1 |
| 合　計 | 13 | 18 |
| 未同定 | 2 | 2 |
| 破片 | 39 | 44 |
| 試料１cm³中の殻数密度 | 0.3 ×10⁴ | 0.4 ×10⁴ |
| 完形殻保存率（%） | 27.8 | 31.3 |

**第６表　大原遺跡・道東遺跡における珪藻分析結果**

## 道　東　遺　跡

出現した珪藻は、真塩性種（海水生種）２分類群、中塩性種（汽水生種）１分類群、貧塩性種（淡水生種）９分類群である。破片の計数は基本的に中心域を有するものと、中心域がない種については両端２個につき１個と数えた。第６表に分析結果を示す。密度が低かったため珪藻ダイアグラムは作成できなかった。（第15図）

〔真塩性種〕

Plagiogramma sp. 、Thalassionema nitzschioides

〔中塩性種〕

Achnanthes brevipes v. intermedia

〔貧塩性種〕

Aulacoseira ambigua、Aulacoseira canadensis、Eunotia bilunaris、Eunotia minor、Eunotia paludosa-rhomboidea、Hantzschia amphioxys、Navicula cuspidata、Pinnularia braunii、Tabellaria fenestrata-flocculosa

## ２）珪藻群集の特徴

### 大　原　遺　跡

珪藻密度が極めて低く、ほとんど検出されないが、貧塩性種（淡水生種）がほとんどでわずかに真塩性種（海水生種）、中塩性種（汽水生種）が出現する。貧塩性種（淡水生種）では、真・好止水性種で沼沢湿地付着生種のAulacoseira canadensis、Eunotia minor、流水不定性種で沼沢湿地付着生種のCymbella aspera、真・好流水性種のGomphonema clevei、Gomphonema parvulumなどがわずかに出現する。

### 道 東 遺 跡

珪藻密度が極めて低く、ほとんど検出されないが、貧塩性種（淡水生種）がほとんどでわずかに真塩性種（海水生種）、中塩性種（汽水生種）が出現する。貧塩性種（淡水生種）では、 Aulacoseira ambigua、Aulacoseira canadensis、Eunotia bilunaris、Eunotia minor、Pinnularia braunii、Tabellaria fenestrata-flocculosa などの真・好止水性種で占められる。

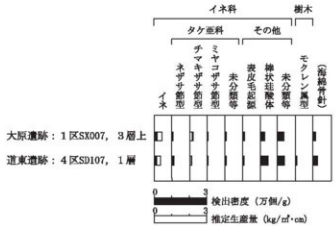
## E 珪藻分析から推定される堆積環境

### 1）大 原 遺 跡

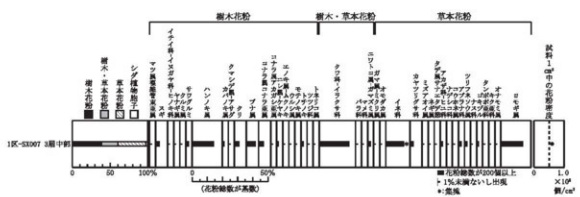
1区 SX007 の土坑（3層）は、珪藻密度が極めて低く、珪藻の生育しにくい、不安定な堆積環境であった。貧塩性種（淡水生種）の真・好止水性種ないし流水不定性種の沼沢湿地付着生種、真・好流水性種、陸生珪藻がわずかに多様に出現することから、珪藻の付着基質となる水生植物が生育する不安定な湿地状の環境でったと推定される。また、わずかではあるが真塩性種（海水生種）、中塩性種（汽水生種）が出現し、塩分濃度のある生活排水が流れ込んでいた。

### 2）道 東 遺 跡

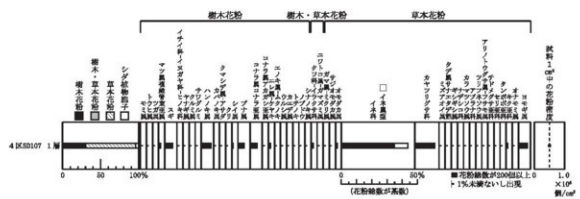
4区 SD107（1層）の溝内は、珪藻密度が極めて低いことから、珪藻の生育しにくい不安定な堆積環境であったと示唆される。貧塩性種（淡水生種）の真・好止水性種で沼沢湿地付着生種が最も多いことから、出現することから、珪藻の付着基質となる水生植物が生育する不安定な止水性の滞水の環境であったと推定される。また、わずかではあるが真塩性種（海水生種）、中塩性種（汽水生種）が出現し、塩分濃度のある生活排水が流れ込んでいたとみなされる。以上から、SD107 の溝は一時期的に流水し、普段は不安定な滞水域となる環境であった。




**第10図　大原遺跡・道東遺跡における植物珪酸体分析結果**

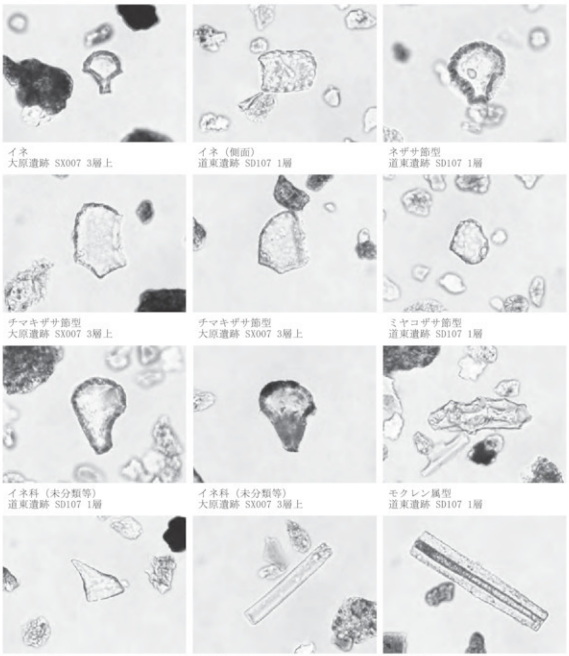



**第11図　大原遺跡における花粉ダイアグラム**

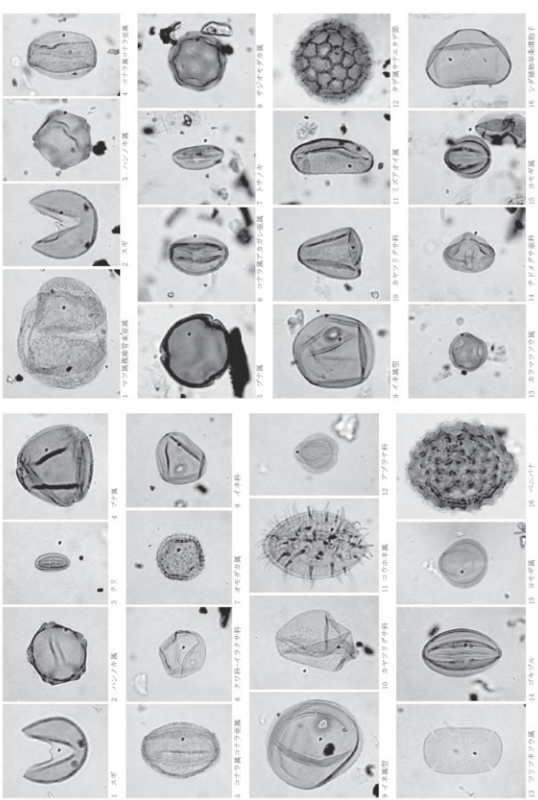



**第12図　道東遺跡における花粉ダイアグラム**

大原遺跡・道東遺跡の植物珪酸体（プラント・オパール）



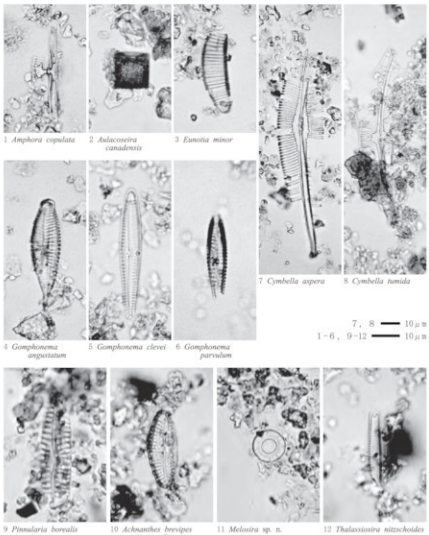

第 13 図　大原遺跡・道東遺跡の植物珪酸体（プラントオパール）



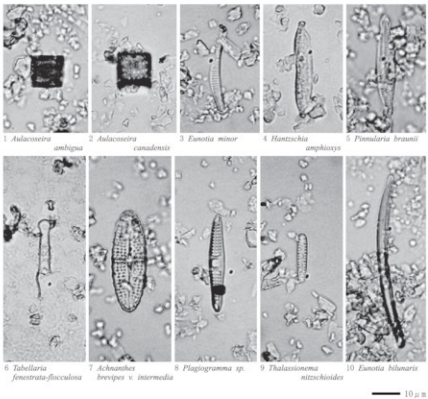

第 14 図　大原遺跡・道東遺跡の花粉

第15図　大原遺跡・道東遺跡の珪藻

大原遺跡の珪藻




道東遺跡の珪藻



# 第Ⅶ章　ま　と　め

## 1　遺物について

### A　古墳時代の遺物について

道東遺跡では下層から古墳時代中期の土器がまとまって出土している。しかし、圃場整備や農道造成による攪乱が著しく、良好な遺構一括資料に恵まれなかったため、器種の変化やセット関係から遺跡全体の時期を概観したい。今回使用する編年については、基本的に田嶋氏による漆町編年に依拠していくこととする。ただし、本県の古墳時代中期の様相については滝沢規朗氏による精力的な論考によってまとめられており、大枠の編年観が示されている［滝沢 2014］。本来であれば滝沢氏の編年に依るべきであるが、各器種の変遷については今後明示される予定であり、全体が本報告書刊行までに明らかにされていない。したがって、今回は漆町編年に依拠することとし、滝沢氏の編年で時期が求められる部分についてはで対応関係を示すこととする。

今回の調査では最も遺物が集中して出土したSX410・SX413は、廃棄された後のくぼみに遺物や炭化物が混じるような埋土であったことから、全体の形態を復元できる個体がそれ程多くなかった。一方で、SX002・SK201・SK420などのある程度個体の復元ができた土器は土坑から単独で出土であった。比較的変化の追いやすい高杯を中心に見ていくと口径が大きく漆町編年12群並行（滝沢氏による編年の様相8）と考えられる資料もあるが、甕、鉢や椀などを中心としたその他の器種については漆町編年13群並行（滝沢氏による編年の様相9・10）が中心となっている。壺に関しては滝沢氏の器種分類［滝沢前掲］のA類はほとんど見られずD類とされる資料が大半を占める。道東遺跡の詳細な時期については、漆町編年の13群がいくつかの時期に分かれるため、滝沢氏の個別器種の変遷も発表された段階で、改めて検討する必要がある。また、道東遺跡では県内では漆町編年13群並行から出土が確認される古墳時代の須恵器は発見されていない。またの椀等の内面黒色処理はほとんどみられないため漆町編年14群並行以降になる土器はほとんど含まれないと考えられる［品田　1999・川村 2000］。新潟県内での鉢椀類のあり方は、滝沢氏の阿賀北の遺跡で椀（A類）が多く、魚沼地方で鉢（C類）が多いとする指摘がある［滝沢前掲］。道東遺跡でどちらかに偏ることがない点は、両地域の中間に立地するという阿賀野川以南の平野部での組成とみることができる。

SD417から出土した42の甕について、口縁端部が内側に肥高し、内面はケズリがなされる布留系の要素をもち、表面にススが良く残るなど条件が良かったため、付着していた炭化物について放射性炭素年代測定法の年代測定を実施した。測定結果は1645±20年BP（2σの暦年代でAD346～AD371年、AD377～AD427年）であった。今後の土器の年代観についての検討材料として提示したい。

### B　古代の遺物について

春日真実氏の年代観によれば、大原遺跡SD007はⅣ－1・2期の8世紀後半代の一括資料であり、SD002、SD003についても同様の時期の遺物が出土している。SD004については小ぶりな須恵器の無台杯が

含まれておりⅣ－３期頃と考えられる。その後、SD001 はⅤ－２期頃の遺構であり、遺構の切り合い関係とも大きな矛盾はない。以上、大原遺跡は８世紀後半を中心に９世紀前半まで継続する集落であったと考えられる。須恵器の胎土については在地と考えられるＣ１群が優勢であり、比較的近くに立地する新津市から五泉市にかけて分布する新津（丘陵）窯跡群、長岡市東部の東山（丘陵）窯跡群などからの製品の供給が想定される［春日 2005］。

今回の調査からは墨書土器が４点、転用硯が３点、底部に墨痕がある土器が２点出土している。10 は「大」と読め、周辺では吉野屋白山Ｂ遺跡から 10 点程度出土している［大橋 1996］。「大」の意味としては大面荘の「大」とも考えられるが、「大」の墨書土器については東日本で広く出土事例のある文字の一つであり［平川 2000］、短絡的に結論づけることはできない。50 は蓋のツマミの部分に暗文の模倣か草花文に類似する記号が墨で書かれており、細い筆で丁寧に書いているため、何らかの意図をもっていると考えられる。土器の焼成についても、やや軟質で還元が不完全であるが、意図的に色調の明るい土器を選んで墨書している可能性もある。県内で須恵器の蓋ツマミ部に墨書される例は『新潟県内出土古代文字資料集成』や近年報告された墨書土器を加えても数例にとどまっている。文様について類似の事例は、柏崎市山﨑遺跡から９世紀代の須恵器の底部に一筆書きで書かれており草花文として報告されている［石川ほか 2012］。本資料は浅井勝利氏のご教示によれば墨が細く一筆書きで書かれている可能性もあるが二筆以上の可能性もある。文様の描かれ方は不明瞭で判読しにくいが、上から左、下、右下、右上ののち上にも円を描く筆づかいで中央を縦断する形で縦線がやや左はらいになる形で書かれている。表採資料ではあるが大原遺跡から１kmほど離れた岩淵地内の畑から底部に類似した文様が墨書された無台杯が出土している［大橋 1995］（第 16 図）。以上の３点は、反時計回りで円を連ね最後に中央に縦に線がくる筆順であり、最後がハライとハネの違いはあるが類似している印象を受ける。また、山形県からは古志田東遺跡や太夫小屋１遺跡から丸をいくつか組み合わせた類似した文様を持つ土器が発見されており、文様の意味について検討していきたい。56 は筆使いから上下の二文字が書かれており、上の文字は割れて一画の一部のみ残存しているため不明であり、下の文字についても廾（廿）の可能性があるが断定はできない。86 は下側の脚は「木」であり判読しやすいが、上側の冠は墨が薄く読みにくい。中央の長い縦の一画が上に突き抜けているか判断が難しいが、平川南氏も言及しているとおり［平川 2000］、「桑」の異体字と考えられる（第 16 図）。転用硯については９、31、52 の３点が墨をすった痕跡があり面の磨耗が著しい。58、59 は無台杯の底部に

大原遺跡須恵器杯蓋部墨書（等倍）

岩淵地内出土墨書土器（等倍）

大原遺跡 86

「桑」異体字［奈文研 2013］

第 16 図　大原遺跡出土墨書土器墨書比較図

墨痕があり、墨を磨ることが難しいため磨耗はほとんどしていないが、明らかに意図的に墨を付着させている。また、２点出土していることから、今後、用途や使用状況について考察していく必要がある。

## ２　遺構について

まずは、大原遺跡と道東遺跡の立地について述べていく。大原遺跡は、圃場整備前の畑の位置などの旧地形や航空写真及び現況から分かる地理的条件を勘案すると、南北方向を軸に現況の遺跡中央部を流れる水路周辺が最も高く、西側のＪＲ信越線の線路方向に向かって低く傾斜している。また、東側については市道安代２号線方向に向かって遺構遺物の分布が希薄になり一度遺跡が途切れ、自然流路を挟んで再び道東遺跡となる。道東遺跡は南北方向に伸びる安代・道西・大原遺跡とは異なる、安代から茅原方向に向かって伸びる自然堤防上に立地している。

道東遺跡の古墳時代中期の遺構は、２地点に分布する。１箇所目はＭ31～32グリッドであり、本来であれば南側のＮ30～31にも遺構は存在していたと考えられるが、圃場整備や農道造成時の破壊が著しく、遺構が残存している可能性も考慮して攪乱下の確認をしたが残存している遺構は無かった。攪乱土中からは遺構埋土の２次堆積と考えられる土中から遺物が若干発見されている。２箇所目はＩ20からＭ27グリッドにかけて遺構が断続的に広がっており、特にＫ25～Ｍ27では遺構が切り合って集中している。新しい遺構はSK414・SX410・413であり、埋土中には炭化物とともに漆町編年13群を中心とした時期の土器が廃棄された状況で発見されている。SK414・SX410・413に切られる遺構は若干古い可能性がある。SX410より出土した炭化材は、放射性炭素年代測定法の年代測定を実施した所、1620±20年BP（２σの暦年代でAD386～AD435年、AD450～AD471年、AD486～AD535年）の年代が与えられており、遺構の出土遺物の年代とおおむね合致する。

道東遺跡の古代の遺構はＳＢ336１棟の掘立柱建物を取り囲む形で、主軸方向が建物と一致する方向に耕作痕が発見され９世紀段階の土地利用の様相が明らかになった。建物の規模は周囲の攪乱が著しく不明な点もあるが長軸４間以上、短軸３間で春日氏の分類の多柱梁間型建物であり［春日2009］、現状の床面積48.25㎡、推定面積は約80㎡以上の規模となる大型の掘立柱建物である。ＳＢ336を構成するＰ313からはⅥ期の土師器の無台椀が出土し、隣接するSD312からもⅥ期の遺物を中心に発見されており、同時期に並存していた可能性がある。また、調査区最も東側に南東から北西方向に伸びる古代の等間隔の溝跡を検出している。グリッドではＮ31～Ｐ34にあたり、すぐ西側の古墳時代の遺構から約20㎝低くなっており、古墳時代の活動痕跡は発見されていない。自然科学分析の植物珪酸体分析、花粉分析から稲作の用水路の可能性がある。また、道東遺跡の東側は確認調査の結果、ガツボ層が堆積し旧地形が東に向かって低くなり、湿地状態になっていくことが判明している。道東遺跡の古代の時期は８世紀後半から９世紀前半であり、大原遺跡に比べると若干９世紀代の資料が多く、明確な時期差はとらえられないものの大原遺跡に若干遅れて営まれた可能性を指摘しておきたい。調査区の最も西側の大原遺跡に近い側からは、Ⅲ～Ⅳ期頃と考えられる、１条の古代の溝が検出されており（SD212）、意図的に溝に投げ込まれたと見られる灯明皿として使用された痕跡のある土師器が発見された。

大原遺跡は集落の中心と考えられる自然堤防の一番高い位置から遺構および遺物がほとんど発見されなかった。その理由として、近世以降の耕作の影響を受けてもともと地盤の高い部分が徐々に削平されていった可能性がある。もう一つの可能性として、平成３年の圃場整備に関わる水路の調査に際して、今回の調査区周辺では遺構が途切れていることから、元々遺構の無い空白地帯であった可能性も否定できない。今

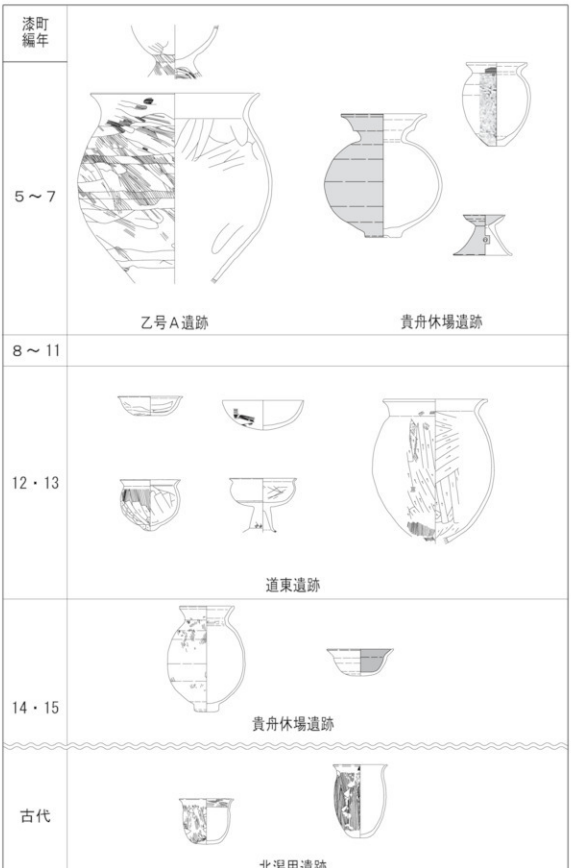
回発見された遺構としては、8 世紀後半の最も古い時期にまず SD007、SD003 があり、その後切り合い関係から SD002 が掘られたことが分かる。その後、SD002 を切る形で SD004 があり、9 世紀に入り SD002 に並行する SD001 が最終的に掘削された遺構となる。集落遺跡出土の墨書土器については、文字を使用していたというよりは、文字を半ば記号化してある種の標識的記号であったり、あるいは祭祀・儀礼行為の際の招福除災疆のための呪術的・魔力的な記号としての色彩がかなり強固であったりするという見解［高島 2000］や、一定の祭祀や儀礼行為等の際に土器にながば記号として意識された文字を記したとする意見があり［平川 2000］、祭祀的意味合いを強調する論調がある。こうした傾向が大面荘内でも言えるかについては今後の検討課題である。

## 3 ま と め

古墳時代の調査成果として道東遺跡では漆町編年 13 群並行を中心とした時期の遺構の調査を実施した。見附市の北側から栄地区の前谷地、帯織、安代、茅原に展開する神積地の自然堤防上には古墳時代の遺跡が断続的に展開する。破片のため詳細な時期は不明であるが古式土師器が出土した遺跡は、北側から石塚遺跡（茅原）、道西遺跡（安代）、安代遺跡（安代）などがある。また、古墳時代前期の資料として、乙号 A 遺跡（帯織）と貴舟休場遺跡（見附市指出町）、が漆町編年 5 ～ 7 群並行期にあたる。8 群から 11 群までの遺跡は明確でないが、古墳時代中期である漆町編年 12 ～ 13 群並行で道東遺跡が今回発見されたことにより、古墳時代後期の貴舟休場遺跡、前田遺跡（見附市指出町）に若干の断続はあるものの比較的スムーズに大面荘内における集落の展開を描くことができるようになった。以上の古墳時代の遺跡は、東山丘陵上ではなく、見附市の指出町方向から大面地区の神積地に展開する自然堤防上に立地している。細かく見ていくと乙号 A 遺跡、見附市北部の貴舟休場遺跡、前田遺跡のグループと、安代遺跡、道西遺跡、道東遺跡、石塚遺跡のグループに分かれると考えられる。当該自然堤防上に立地すると考えられる遺跡については、これまで、古墳時代前期と後期の遺跡は知られていたが、中期の遺跡が発見されたことにより、継続的な当地での活動の可能性が高まっている。今後も表面採集や試掘確認調査を通じ、残る時期の空白を埋めていく必要がある。また、残された問題として、遺跡の断絶が意味する畿内と関連した政治動向とどう関連しているか、また、東山丘陵における、山崎遺跡以外の古墳の存在の有無については今後の課題であろう。畿内地域における大型前方後円墳の推移は地方の首長墳の消長とも連動しており、盟主権の移動は各地に影響を及ぼす政治構造全体の変動を意味していると解釈され［鈴木 2014］、こうした点も考慮しながら古墳時代の大面集団の動向を明らかにしていきたい。

東山丘陵沿いで古墳時代中期の遺跡はあまり知られていない。三条市内、嵐北側の藤ノ木遺跡からは甕、高杯、鉢のセットが一括で出土している以外は［三条市歴史民俗産業資料館 2004］、加茂市の鬼倉遺跡では河川跡から、古墳時代前期後半および中期の土師器が発見されている程度である［伊藤 2001］。大面荘内では、古墳時代後期以降、7 世紀代の遺跡として北潟甲遺跡が発見されている。古代大面荘の遺跡は 8 世紀後半以降の遺跡が多いが、北潟甲遺跡の発見、研究の進展により 7 世紀の空白についても埋められることになった［春日 2007］。古代の遺跡については道東遺跡では大型の掘立柱建物が発見され集落の様相が一部判明したが、大原遺跡で発見された遺構は溝跡が中心であり、建物や集落の土地利用について具体的な様相については不明な点が多く残った。

今後、弥生時代から古墳時代にかけての大面集団から古代大面荘の成立と展開について、文献からは伺うことができない実態について明らかにしていきたい。




第 17 図　道東遺跡出土土器の位置付け

# 要　約

1　大原遺跡は新潟県三条市安代 923―1 番地先～ 990 番地先に、道東遺跡は新潟県三条市安代 956 番～963 番地先に所在する。

2　本発掘調査は、市道矢田中曽根新田線道路改良事業に伴い、平成 26 年度に実施した。現地調査は平成 26 年 7 月～ 11 月にかけて行った。調査範囲は大原遺跡 1,483 ㎡、道東遺跡上層が 673 ㎡、下層が 1,999 ㎡である。

3　遺跡は新潟平野東南部を南北に流れる信濃川右岸の自然堤防上に立地する。

4　検出した遺構は、大原遺跡は土坑 3 基、溝 10 条、ピット 3 基、性格不明遺構 1 基、道東遺跡は、掘立柱建物 1 棟、土坑 27 基、溝 32 基、井戸 1 基、ピット 85 基、性格不明遺構（SX）8 基である。

5　出土した遺物は大原遺跡で須恵器・土師器コンテナ 25 箱、道東遺跡で須恵器・土師器コンテナ 12 箱、古式土師器コンテナ 49 箱である。

6　古代の遺物は、大原遺跡では須恵器・土師器・土製品があり 8 世紀後半を主体とし、道東遺跡では須恵器・土師器があり 9 世紀前半を主体とする。

7　古墳時代の遺物は、道東遺跡で土師器があり、漆町編年で 12 群から 13 群を主体とする。

8　放射性炭素年代測定では、道東遺跡の古代の遺構では 8 世紀後半の年代値が、古墳時代の遺構では 5 世紀中葉、古墳時代の土器からは 4 世紀後半から 5 世紀前半の年代値を得られた。

9　植物珪酸体分析では、少量ながらイネが検出され、近辺での稲作の可能性が認められた。

10　花粉分析では、大原遺跡・道東遺跡ともに湿地状の地形であったことが確認された。

11　珪藻分析では、大原遺跡・道東遺跡ともに不安定な滞水域であったことが確認された。

12　遺構の時期は大原遺跡が 8 世紀後半から 9 世紀である。道東遺跡の古墳時代の面では、古墳時代中期が主体となり、古代の面では 8 世紀後半から 9 世紀であるが、やや大原遺跡よりも新しい傾向が見られた。

13　大原遺跡・道東遺跡、両遺跡の発掘調査は、当地域に所在した古代大面荘の成立と展開を読み解く上での一助となり得る。

# 引用・参考文献


相沢央・小林昌二　2004『新潟県内出土古代文字資料集成』新潟大学大域プロジェクト研究資料叢刊Ⅰ　新潟大学

荒川隆史ほか　2004『青田遺跡』新潟県埋蔵文化財調査報告書第133集　新潟県教育委員会

安藤正美　2004『貴舟休場遺跡Ⅰ　前田遺跡　堂ノ前遺跡』見附市埋蔵文化財報告第19　見附市教育委員会

安藤正美　2006『貴舟休場遺跡Ⅱ』見附市埋蔵文化財報告第26　見附市教育委員会

石川智紀ほか　2012『山崎遺跡』新潟県埋蔵文化財調査報告書第241集　新潟県教育委員会

伊藤秀和　2001『鬼倉遺跡』加茂市文化財調査報告（13）　加茂市教育委員会

伊藤秀和　2005a「信濃川右岸」『新潟県における高地性集落の解体と古墳の出現』新潟県考古学会

伊藤秀和　2005b「白米田遺跡」『新潟県における高地性集落の解体と古墳の出現』新潟県考古学会

伊藤秀和　2010『馬越遺跡』Ⅲ　加茂市教育委員会

家田順一郎ほか1985『東光寺閏根D遺跡』栄町教育委員会

家田順一郎ほか1984『東光寺寺畑遺跡』栄町教育委員会

大橋信彦　1991『石塚遺跡発掘調査報告書』栄町文化財調査報告書第5輯　栄町教育委員会

大橋信彦　1992『安代・道西・大原遺跡発掘調査報告書』栄町文化財調査報告書第6輯　栄町教育委員会

大橋信彦　1994『乙号A遺跡発掘調査報告書』栄町文化財調査報告書第7輯　栄町教育委員会

大橋信彦　1995「栄町岩淵」『新潟県内出土の墨書土器（稿一）』新潟県墨書土器検討会

大橋信彦　1996「栄町白山A・B遺跡の概略について」『越左補遺些』創刊号　越左補遺些の会

大橋信彦・武田賢一　1995『江派遺跡』栄町文化財調査報告書第11輯　栄町教育委員会

大橋信彦・武田賢一　2002『岩淵A遺跡』栄町文化財調査報告書第9輯　栄町教育委員会

春日真実　1995「古代集落の展開」『研究紀要』財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団

春日真実　1999「土器編年と地域性」『新潟県の考古学』新潟県考古学会　高志書院

春日真実　2005「越後における奈良・平安時代土器編年の対応関係について　－「今池編年」・「下ノ西編年」・「山三賀編年」の検討を中心に－」『新潟考古』第16号　新潟県考古学会

春日真実　2007「越後における古代の煮炊具について」『新潟考古』第18号　新潟県考古学会

春日真実　2009「越後における古代掘立柱建物」『新潟県の考古学』Ⅱ　新潟県考古学会

川村浩司　2000「上越市の古墳時代の土器様相　－関川右岸下流域を中心に－」『上越市史研究』第5号　上越市

金子拓男ほか　1991『山崎A遺跡発掘調査報告書』見附市埋蔵文化財報告第8　見附市教育委員会

金子拓男　1981「狐崎遺跡」『三条市史　資料編第1巻　考古・文化』三条市

北村一樹・高野晶文　2013『新堀遺跡』三条市文化財調査報告書　三条市教育委員会

小林昌二・戸根与八郎　1995『新潟県内出土の墨書土器（稿一）』新潟墨書土器検討会

小松徳一ほか　1966『大面村誌』新潟県南蒲原郡栄村公民館大面支館

栄村誌編さん委員会　1981『栄村誌』栄村教育委員会

三条市歴史民俗産業資料館　2004『遺跡発掘調査速報展2004』パンフレット　三条市歴史民俗産業資料館

品田高志　1999「柏崎平野の土器編年」『新潟県の考古学』新潟県考古学会　高志書院

鈴木一有　2014「古墳時代の政権構造とは」『考古学研究会60周年記念誌　考古学研究60の論点』考古学研究会

鈴木俊成ほか　2012『上道下西遺跡』新潟県埋蔵文化財調査報告書第231集　新潟県教育委員会

高野晶文・長沼吉嗣　2012『村下遺跡』三条市文化財調査報告書　三条市教育委員会

高島英之　2000『古代出土文字資料の研究』東京堂出版

高島英之　2006『古代東国地域と出土文字資料』東京堂出版

滝沢規朗　2005「土器の分類と編年　－いわゆる北陸系を中心に－」『新潟県における高地性集落の解体と古墳の出現』新潟県考古学会

滝沢規朗　2012『越後における古墳時代中期の土器編年』新潟考古学談話会発表要旨

滝沢規朗　2014「新潟県における古墳時代中期の土器について（上）－器種分類と基準資料の提示－」『三面川流域の考古学』第12号　奥三面を考える会

武田賢一　2004a『北割甲遺跡』栄町教育委員会

武田賢一　2004b『居掛遺跡』栄町教育委員会

武田賢一　2006a『大面町浦遺跡発掘調査報告書』三条市文化財調査報告書第16号　三条市教育委員会

武田賢一　2006b『新堀遺跡』三条市文化財調査報告書第17号　三条市教育委員会
武田賢一　2007『帯織甲号遺跡』三条市教育委員会
田嶋明人　1986「漆町遺跡出土土器の編年的考察」『漆町遺跡』Ⅰ　石川県埋蔵文化財センター
独立行政法人国立文化財機構奈良文化財研究所　2013『改訂新版　日本古代木簡字典』八木書店
中島栄一　1981「館遺跡」『三条市史　資料編第1巻　考古・文化』三条市
中島栄一　1981a「館遺跡」『三条市史　資料編第1巻　考古・文化』三条市
中島栄一　1981b「半軒屋敷遺跡」『三条市史　資料編第1巻　考古・文化』三条市
平川　南　2000『墨書土器の研究』吉川弘文館

## 自然科学分析引用・参考文献

安藤一男　1990「淡水産珪藻による環境指標種群の設定と古環境復原への応用」『東北地理 42』p. 73-88.
伊藤良永・堀内誠示　1991「陸生珪藻の現在に於ける分布と古環境解析への応用」『珪藻学会誌 6』p. 23-45.
金原正明　1993『花粉分析法による古環境復原．新版古代の日本第10巻古代資料研究の方法』角川書店 p. 248-262.
金原正明・金原正子　2013「植生と農耕における土壌層分析の実証的研究」
『日本文化財科学会第30回大会研究発表会要旨集』p. 112-113.
小杉正人　1986「陸生珪藻による古環境解析とその意義－わが国への導入とその展望－」
『植生史研究　第1号』植生史研究会 p. 29-44.
小杉正人　1988「珪藻の環境指標種群の設定と古環境復原への応用」『第四紀研究 27』p.　1-20.
島倉巳三郎　1973「日本植物の花粉形態」『大阪市立自然科学博物館収蔵目録第5集』60p.
杉山真二・藤原宏志　1986「機動細胞珪酸体の形態によるタケ亜科植物の同定－古環境推定の基礎資料として－」
『考古学と自然科学19』p. 69-84.
杉山真二　2000「植物珪酸体（プラント・オパール）」『考古学と植物学』同成社 p. 189-213.
杉山真二　2009「植物珪酸体と古生態．人と植物の関わりあい④．大地と森の中で－縄文時代の古生態系－」
『縄文の考古学Ⅲ』同成社 p. 105-114.
鈴木貞雄　1996「タケ科植物の概説」『日本タケ科植物図鑑』聚海書林 p. 8-27.
中村　純　1967『花粉分析』古今書院 p. 82-102.
中村　純　1974「イネ科花粉について、とくにイネ（Oryza sativa）を中心として」『第四紀研究 13』p. 187-193.
中村　純　1980「日本産花粉の標徴」『大阪自然史博物館収蔵目録第13集』91p.
中村俊夫　2000「放射性炭素年代測定法の基礎」
『日本先史時代の14C年代編集委員会編「日本先史時代の14C年代」』p. 3-20，日本第四紀学会．
藤原宏志　1976「プラント・オパール分析法の基礎的研究（1）－数種イネ科植物の珪酸体標本と定量分析法－」
『考古学と自然科学9』p. 15-29.
室井　綽　1960「竹笹の生態を中心とした分布」『富士竹類植物園報告 5』p. 103-121.
Bronk Ramsey, C. (2001) Development of the Radiocarbon Program OxCal. Radiocarbon, 43, p. 355-363.
Hustedt, F. (1937－1938) Systematische und ologishe Untersuchungen uber die DiatomeenFlora von Java, Bali und Sumatra nach dem Material der Deutschen Limnologischen Sunda-Expedition. Arch. Hydrobiol, Suppl. 15, p. 131－506.
K. Krammer・H. Lange-Bertalot (1986－1991) Bacillariophyceae・1－4.
Asai, K. &, Watanabe, T. (1995) Statistic Classification of Epilithic Diatom Species into Three Ecological Groups relaiting to Organic Water Pollution（2）Saprophilous and saproxenous taxa. Diatom, 10, p. 35-47.
Lowe, R. L. (1974) Environmental Requirements and pollution tolerance of fresh－water diatoms. 333p., National Environmental Reserch. Center.
Reimer, P. J., Bard, E., Bayliss, A., Beck, J. W., Blackwell, P. G., Bronk Ramsey, C., Buck, C. E., Cheng, H., Edwards, R. L., Friedrich, M., Grootes, P. M., Guilderson, T. P., Haflidason, H., Hajdas, I., Hatte, C., Heaton, T. J., Hoffmann, D. L., Hogg, A. G., Hughen, K. A., Kaiser, K. F., Kromer, B., Manning, S. W., Niu, M., Reimer, R. W., Richards, D. A., Scott, E. M., Southon, J. R., Staff, R. A., Turney, C. S. M., and van der Plicht, J. (2013) IntCal13 and Marine13 Radiocarbon Age Calibration Curves 0-50,000 Years cal BP. Radiocarbon, 55(4), 1869-1887.

## 遺構観察表1

### 大原遺跡

| | 遺構番号 | 調査区 | 位置 | 断面形 | 長さ(m) | 幅(m) | 深さ(m) | 方位(南偏又は西偏から) | 底面標高(m) | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 溝 | SD001 | 1区 | B2・B3・C3・C4・D4 | 弧状 | (26.52) | 1.63 | 0.17 | N-45° -W<br>N-29° -W | 12.94 | SD003・SX007・SD010を切る |
| | SD002 | 1区 | B3・C3・C4・D4 | 弧状 | (16.54) | 2.35 | 0.33 | N-46° -W | 12.75 | SD003・SX007・P012を切り、SD004・SK014 に切られる |
| | SD003 | 1区 | C2・B3・C3 | 弧状 | (8.50) | 2.92 | 0.25 | E-30° -N | 12.71 | SD007を切り、SD001・SD002に切られる |
| | SD004 | 1区 | C4・C5 | 弧状 | (11.62) | 2.42 | 0.13 | N-12° -E | 12.81 | SD002を切る |
| | SD005 | 1区 | C5・D5・E5 | 弧状 | (15.24) | 4.87 | 0.22 | 0° | 12.99 | |
| | SD009 | 1区 | D6・E5・I16 | 弧状 | (14.26) | 1.88 | 0.13 | N-35° -E | 13.01 | |
| | SD010 | 1区 | C2・C3 | 弧状 | (10.36) | 1.26 | 0.11 | E-39° -N<br>E-3° -N | 12.89 | SX007を切り、SD001に切られる |
| | SD011 | 1区 | C2・D2 | 弧状 | (5.47) | 1.05 | 0.13 | E-2° -S<br>E-35° -S | 12.85 | SD010・SX007を切る |
| | SD101 | 2区 | E9・F9・F10・G10 | 弧状 | (17.91) | 2.72 | 0.24 | E-42° -S<br>N-48° -W | 13.03 | |

| | 遺構番号 | 調査区 | 位置 | 平面形 | 断面形 | 長径(m) | 短径(m) | 深さ(m) | 底面標高(m) | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 土坑 | SK006 | 1区 | D6-2-3 | (円形) | 弧状 | (1.60) | (0.55) | 0.10 | 13.08 | |
| | SK014 | 1区 | C3-3・4 | 楕円形 | 弧状 | 1.07 | 0.89 | 0.07 | 12.98 | SD002を切る |
| | SK015 | 1区 | C4-12 | 円形 | 弧状 | 0.76 | 0.71 | 0.09 | 12.96 | |

| | 遺構番号 | 調査区 | 位置 | 平面形 | 断面形 | 長径(m) | 短径(m) | 深さ(m) | 底面標高(m) | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| ピット | P008 | 1区 | E7-5・10 | 円形 | 台形状 | 0.38 | 0.35 | 0.26 | 12.98 | |
| | P012 | 1区 | C3-14・15 | (円形) | 台形状 | 0.59 | (0.35) | 0.05 | 13.05 | SD002に切られる |
| | P013 | 1区 | C3-14 | 円形 | 弧状 | 0.46 | 0.46 | 0.05 | 13.03 | |

| | 遺構番号 | 調査区 | 位置 | 平面形 | 断面形 | 長径(m) | 短径(m) | 深さ(m) | 底面標高(m) | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 遺構不明 | SX007 | 1区 | C2・C3・C4・D2・D3 | 不正形 | 弧状 | (15.53) | (9.42) | 0.52 | 12.54 | SD001・SD002・SD003・SD010に切られる |

### 道東遺跡

| | 遺構番号 | 調査区 | 位置 | 断面形 | 長さ(m) | 幅(m) | 深さ(m) | 方位(南偏又は西偏から) | 底面標高(m) | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 溝 | SD005 | 1区 | K23 | 弧状 | (3.77) | 1.51 | 0.10 | E-25° -S | 13.00 | SK026に切られる |
| | SD025 | 1区 | K24 | 弧状 | 2.64 | 0.78 | 0.11 | E-26° -S | 12.94 | |
| | SD101 | 2区 | M31・N31 | 弧状 | (5.77) | 0.68 | 0.18 | N-11° -W | 12.76 | |
| | SD102 | 2区 | M31・N31・N32 | 弧状 | (6.53) | 0.65 | 0.06 | N-34° -W | 12.85 | SD104に切られる |
| | SD102 | 4区 | N32・O32 | 弧状 | 10.65 | 0.36 | 0.18 | N-10° -W | 12.50 | |
| | SD103 | 2区 | N32・O32 | 弧状 | (13.51) | 0.62 | 0.15 | N-10° -W | 12.75 | SD115を切る |
| | SD103 | 4区 | N32・O32 | 半円状 | 9.67 | 0.45 | 0.18 | N-10° -W | 12.50 | |
| | SD104 | 2区 | M31・N31 | 弧状 | (5.05) | 0.63 | 0.32 | N-9° -E | 12.68 | SD102を切る |
| | SD104 | 4区 | M31・N31・O31 | U字状 | (13.59) | 0.49 | 0.23 | N-10° -W | 12.46 | |
| | SD105 | 2区 | N32・O32 | 弧状 | (13.00) | 0.55 | 0.25 | N-6° -W | 12.61 | SD115を切る |
| | SD105 | 4区 | N32・O32 | 台形状 | (9.01) | 0.80 | 0.22 | N-10° -W | 12.48 | |
| | SD107 | 2区 | N33・O33 | 弧状 | (9.70) | 0.82 | 0.20 | N-13° -W<br>N-22° -E | 12.76 | |
| | SD107 | 4区 | N33・O33 | 半円状 | (9.85) | 0.52 | 0.27 | N-5° -W | 12.48 | |
| | SD109 | 2区 | N32・N33・O32・O33 | 階段状 | (9.89) | 0.54 | 0.17 | N-13° -W<br>N-1° -W | 12.67 | |
| | SD109 | 4区 | N32・N33・O32・O33 | 半円状 | (10.37) | 0.48 | 0.33 | N-8° -W | | |
| | SD115 | 2区 | N32・O32 | 弧状 | (2.18) | 0.35 | 0.12 | E-20° -S | 12.43 | SD103とSD105に切られる |
| | SD212 | 3区 | I18・I19 | 弧状 | (5.74) | 1.63 | 0.35 | E-20° -N | 12.59 | NR215を切る？ |
| | SD305 | 4区 | M31・N31・N32 | 弧状 | (3.65) | 0.72 | 0.20 | N-41° -W<br>N-4° -E | 12.50 | |
| | SD306 | 4区 | N31 | 台形状 | 1.73 | 0.42 | 0.20 | E-18° -N | 12.84 | |
| | SD308 | 4区 | M30 | 半円状 | (1.06) | 0.50 | 0.21 | N-13° -W | 12.71 | |
| | SD309 | 4区 | M29・M30 | 擂鉢状 | (3.71) | 0.54 | 0.35 | N-21° -W | 12.51 | |
| | SD312 | 4区 | L28・M28・N28・N29 | 弧状 | (15.00) | 2.93 | 0.71 | N-3° -W<br>N-15° -W<br>N-20° -E | 12.75 | SD314を切る |
| | SD314 | 4区 | L28 | 半円状 | (1.54) | 0.35 | 0.18 | N-39° -E | 12.81 | SD312に切られる |
| | SD316 | 4区 | L27・L28・M27・M28 | 弧状 | 9.54 | 0.53 | 0.20 | E-19° -N | 12.75 | |
| | SD317 | 4区 | L28 | 弧状 | (3.43) | 0.31 | 0.12 | N-17° -W | 12.83 | |
| | SD318 | 4区 | L28 | 弧状 | (5.30) | 0.63 | 0.13 | N-14° -W | 12.77 | SD316につながる |
| | SD319 | 4区 | L27 | 半円状 | (1.85) | 0.23 | 0.13 | N-8° -W | 12.83 | |
| | SD320 | 4区 | L27 | 弧状 | (4.78) | 0.34 | 0.15 | N-17° -W | 12.80 | |
| | SD321 | 4区 | N29 | 弧状 | (0.44) | 0.67 | 0.06 | N-20° -E | 12.84 | |
| | SD322 | 4区 | N33 | 階段状 | (3.01) | 0.52 | 0.13 | E-12° -N | 12.46 | |
| | SD327 | 4区 | L27 | 弧状 | (1.56) | 0.25 | 0.14 | N-11° -W | 12.78 | |
| | SD330 | 4区 | L27 | 弧状 | (1.01) | 0.15 | 0.08 | N-19° -W | 12.69 | |
| | SD333 | 4区 | M30 | 階段状 | (4.52) | 0.31 | 0.26 | E-39° -N<br>N-20° -E<br>N-13° -W | 12.52 | SX302・SK303の下 |
| | SD403 | 4区 | K24・K25 | 弧状 | 9.44 | 1.06 | 0.14 | E-3° -N | 12.76 | SK402を切り、SK416に切られる |
| | SD411 | 4区 | L25 | 弧状 | (4.07) | 4.85 | 0.29 | N-19° -E | 12.68 | |
| | SD415 | 4区 | K26・L26 | 弧状 | (9.66) | 1.12 | 0.19 | N-7° -E<br>N-25° -W<br>N-7° -E<br>N-19° -W | 12.56 | SX424を切り、SX413・SD416に切られる |
| | SD416 | 4区 | L26 | 弧状 | (6.50) | 1.03 | 0.17 | N-35° -E<br>E-6° -N | 12.69 | SD415を切り、SK418に切られる |
| | SD417 | 4区 | L26 | 弧状 | (5.14) | 2.05 | 0.14 | E-5° -S | 12.63 | SX413に切られる |

## 遺構観察表2

### 道東遺跡

| | 遺構番号 | 調査区 | 位置 | 平面形 | 断面形 | 長径(m) | 短径(m) | 深さ(m) | 底面標高(m) | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 土坑 | SK012 | 1区 | K23-20 | 楕円形 | 台形状 | 1.20 | 1.06 | 0.12 | 13.00 | |
| | SK018 | 1区 | K24-11・16 | 楕円形 | 弧状 | 1.63 | 1.17 | 0.10 | 13.02 | P019を切る |
| | SK026 | 1区 | K23-14・15・19・20 | 楕円形 | 弧状 | 1.62 | 0.78 | 0.15 | 12.99 | SD005を切る |
| | SK077 | 1区 | K24-2・3・8 | 楕円形 | 弧状 | 1.14 | 0.68 | 0.11 | 12.96 | |
| | SK201 | 3区 | I21-21・22・J21-1・2 | (楕円形) | 弧状 | 1.91 | 1.76 | 0.17 | 12.99 | |
| | SK206 | 3区 | J20-3 | 楕円形 | 階段状 | 1.20 | 0.69 | 0.23 | 13.02 | |
| | SK207 | 3区 | I20-22・J20-2 | 楕円形 | 弧状 | 1.30 | 0.43 | 0.07 | 13.22 | |
| | SK210 | 3区 | I20-23・24 | 楕円形 | 階段状 | 1.32 | 0.66 | 0.25 | 13.00 | |
| | SK216 | 3区 | I18-4・5 | 楕円形 | 弧状 | 1.21 | 0.74 | 0.25 | 12.80 | |
| | SK303 | 4区 | M30-7・8・11~15・17~20・23・24 | (不整形) | 台形状 | 6.78 | (3.27) | 0.17 | 12.63 | |
| | SK334 | 4区 | M27-11~14・18~20 | 不明 | 不明 | (6.67) | (0.76) | 0.18 | 12.71 | |
| | SK401 | 4区 | J22-11・12・16 | 円形 | 弧状 | (1.61) | (1.06) | 0.26 | 12.85 | |
| | SK402 | 4区 | K24-25・K25-21・22・L24-6・L25-1・2・7 | (楕円形) | 弧状 | (4.25) | 3.80 | 0.32 | 12.60 | |
| | SK405 | 4区 | K21-23・24 | 不明 | 弧状 | (1.49) | (0.57) | 0.15 | 13.01 | |
| | SK407 | 4区 | K24-22・23・L24-2~4 | (楕円形) | (弧状) | 5.61 | (1.21) | 0.20 | 12.66 | |
| | SK408 | 4区 | L24-14・15 | 不明 | 階段状 | 2.15 | (0.57) | 0.19 | 12.75 | |
| | SK409 | 4区 | L24-15・20・L25-11・16 | 不明 | 階段状 | 2.21 | (0.54) | 0.25 | 12.73 | |
| | SK412 | 4区 | K25-6・7・11~13・17・18 | (楕円形) | 弧状 | 4.55 | (2.07) | 0.14 | 12.83 | |
| | SK414 | 4区 | K25-13~15・18~20・23・24 | 楕円形 | 弧状 | 4.03 | 3.23 | 0.19 | 12.74 | SK412・SD403・SX410を切る |
| | SK418 | 4区 | L26-2・6~8・12・13 | 不整形 | 弧状 | (3.09) | (2.64) | 0.20 | 12.71 | SD416を切る・SX410に切られる |
| | SK419 | 4区 | L26-18・19・23~25 | 不整形 | 弧状 | (2.73) | (0.89) | 0.19 | 12.62 | SX413の下 |
| | SK420 | 4区 | K23-13・14・18・19・24 | (楕円形) | 弧状 | 3.33 | (2.11) | 0.34 | 12.59 | |
| | SK421 | 4区 | K23-1・2 | 楕円形 | 弧状 | 1.71 | 1.08 | 0.15 | 12.68 | |
| | SK422 | 4区 | L26-21・M26-1・2 | 不明 | 弧状 | (2.28) | (0.62) | 0.11 | 12.75 | |
| | SK423 | 4区 | M26-9・10 | (楕円形) | 弧状 | 1.34 | (0.86) | 0.15 | 12.58 | |
| | SK425 | 4区 | L27-1・2・6・7 | (楕円形) | 弧状 | (3.84) | (1.85) | 0.10 | 12.72 | SX413に切られる |
| | SK426 | 4区 | M26-2・3・8 | 不明 | 弧状 | (2.58) | (0.63) | 0.22 | 12.61 | |

| | 遺構番号 | 調査区 | 位置 | 平面形 | 断面形 | 長径(m) | 短径(m) | 深さ(m) | 底面標高(m) | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 性格不明土坑状遺構 | SX002 | 4区 | K23 | 円形 | 弧状 | 4.59 | (4.42) | 0.39 | 12.54 | SX016を切る |
| | SX016 | 4区 | J23・J24・K23・K24 | (円形) | 弧状 | 4.92 | (2.82) | 0.45 | 12.58 | |
| | SX022 | 4区 | J23 | (円形) | 階段状 | (2.37) | (2.02) | 0.86 | 12.64 | |
| | SX424 | 4区 | K26・L26 | (楕円形) | 弧状 | 3.69 | 3.50 | 0.09 | 12.72 | SX410・SD415に切られる |

| | 遺構番号 | 調査区 | 位置 | 断面形 | 長さ(m) | 幅(m) | 深さ(m) | 方位(南側又は西側から) | 底面標高(m) | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 性格不明溝状遺構 | SX301 | 4区 | M30・M31・N30・N31 | 弧状 | (6.67) | 6.67 | 0.32 | E-27°-N | 12.43 | SK303を切る |
| | SX302 | 4区 | M29・30 | 弧状 | (5.91) | 4.74 | 0.14 | N-38°-E | 12.80 | SK303に切られる |
| | SX410 | 4区 | K25・K26・L25・L26 | 弧状 | (6.22) | 8.34 | 0.23 | N-34°-E | 12.63 | SK414に切られる<br>SK418・SX424を切る |
| | SX413 | 4区 | L26・L27・M26・M27 | 弧状 | (10.60) | 9.93 | 0.17 | N-37°-E | 12.73 | SD415・SD417・SK425を切る<br>SK419の上 |

| | 遺構番号 | 調査区 | 位置 | 平面形 | 断面形 | 長径(m) | 短径(m) | 深さ(m) | 底面標高(m) | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| ピット | P001 | 1区 | K23-6・7・11・12 | 円形 | 箱状 | 0.79 | 0.70 | 0.26 | 12.92 | |
| | P003 | 1区 | K23-8・9・13・14 | 円形 | 箱状 | 0.49 | 0.48 | 0.14 | 12.90 | |
| | P006 | 1区 | K23-17 | 円形 | 弧状 | 0.72 | 0.60 | 0.06 | 12.99 | |
| | P007 | 1区 | K23-18 | 楕円形 | 弧状 | 0.59 | 0.44 | 0.09 | 12.96 | |
| | P008 | 1区 | K23-18・19 | 楕円形 | 弧状 | 0.59 | 0.47 | 0.13 | 12.96 | |
| | P009 | 1区 | K23-14・15 | 楕円形 | 弧状 | 0.82 | 0.49 | 0.09 | 12.99 | |
| | P010 | 1区 | K23-24・25 | 円形 | 弧状 | 0.70 | 0.58 | 0.14 | 12.97 | |
| | P011 | 1区 | K23-16・20 | (楕円形) | 弧状 | (0.44) | 0.45 | 0.09 | 12.98 | 南半が削平されている |
| | P013 | 1区 | K23-15・20 | 楕円形 | 弧状 | 0.80 | 0.60 | 0.08 | 13.00 | |
| | P014 | 1区 | K23-15・K24-11 | 円形 | 弧状 | 0.50 | 0.49 | 0.07 | 13.04 | |
| | P015 | 1区 | K24-11・12 | 楕円形 | 弧状 | 0.65 | 0.58 | 0.12 | 13.03 | |
| | P017 | 1区 | K24-12 | 楕円形 | 弧状 | 0.64 | 0.44 | 0.11 | 12.99 | |
| | P019 | 1区 | K24-16 | 楕円形 | (弧状) | 0.75 | (0.41) | 0.06 | 13.02 | SK018に切られる |
| | P020 | 1区 | K24-16・21 | 円形 | 弧状 | 0.51 | (0.45) | 0.05 | 13.04 | |
| | P021 | 1区 | K24-21 | 円形 | 弧状 | 0.50 | 0.49 | 0.09 | 12.99 | |
| | P023 | 1区 | K24-21 | 円形 | 弧状 | 0.78 | 0.75 | 0.09 | 12.98 | |
| | P024 | 1区 | K24-21 | 円形 | 弧状 | 0.52 | 0.51 | 0.07 | 13.01 | |
| | P027 | 1区 | K24-1 | 楕円形 | 弧状 | 0.49 | 0.35 | 0.09 | 13.02 | |
| | P028 | 1区 | K24-17・18 | 円形 | 弧状 | 0.62 | 0.56 | 0.12 | 13.00 | |
| | P029 | 1区 | K24-22 | 円形 | 弧状 | 0.63 | 0.59 | 0.10 | 13.08 | |
| | P030 | 1区 | K24-9 | 円形 | 箱状 | 0.53 | 0.51 | 0.19 | 12.92 | |
| | P031 | 1区 | K24-22・L24-2 | (円形) | 弧状 | 0.96 | 0.87 | 0.07 | 13.01 | |
| | P034 | 1区 | K24-13・18 | 円形 | 半円状 | 0.40 | 0.40 | 0.13 | 12.99 | |
| | P035 | 1区 | K24-19 | 楕円形 | 弧状 | 0.58 | 0.48 | 0.10 | 13.02 | |
| | P036 | 1区 | K24-18 | 楕円形 | 台形状 | 0.72 | (0.37) | 0.13 | 13.00 | P037に切られる |
| | P037 | 1区 | K24-18 | 楕円形 | 台形状 | 0.65 | 0.43 | 0.13 | 13.00 | P036を切る |
| | P038 | 1区 | K24-18 | 円形 | 弧状 | 0.91 | 0.70 | 0.15 | 12.97 | |
| | P039 | 1区 | K24-4・9 | 円形 | 箱状 | 0.53 | 0.51 | 0.14 | 12.92 | |
| | P040 | 1区 | K24-18・23 | 楕円形 | 台形状 | 0.54 | 0.46 | 0.11 | 12.98 | |

## 遺構観察表3

### 遺構遺跡

| | 遺構番号 | 調査区 | 位置 | 平面形 | 断面形 | 長径(m) | 短径(m) | 深さ(m) | 底面標高(m) | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| ピット | P041 | 1区 | K24-10 | 円形 | 台形状 | 0.49 | 0.42 | 0.12 | 12.95 | |
| | P042 | 1区 | K24-9 | 円形 | 半円状 | 0.38 | 0.31 | 0.13 | 12.92 | |
| | P043 | 1区 | K24-10 | 楕円形 | 半円状 | 0.47 | 0.36 | 0.14 | 12.93 | |
| | P044 | 1区 | K25-11 | 円形 | 台形状 | 0.41 | 0.39 | 0.15 | 12.92 | |
| | P045 | 1区 | K25-11・12 | 円形 | 半円状 | 0.43 | 0.40 | 0.18 | 12.86 | |
| | P046 | 1区 | L24-3 | 楕円形 | 弧状 | 0.70 | 0.58 | 0.09 | 13.00 | |
| | P047 | 1区 | K24・14・15・19・20 | 円形 | (台形状) | 0.67 | 0.66 | 0.18 | 12.93 | |
| | P048 | 1区 | K24-20 | 円形 | 弧状 | 0.70 | 0.69 | 0.07 | 13.03 | |
| | P049 | 1区 | K24-19 | 円形 | 弧状 | 0.52 | 0.51 | 0.10 | 13.03 | |
| | P050 | 1区 | K24-19 | 円形 | 弧状 | 0.52 | 0.48 | 0.09 | 13.03 | |
| | P051 | 1区 | K24-18・19 | 円形 | 弧状 | 0.53 | 0.48 | 0.08 | 13.04 | |
| | P052 | 1区 | K24-19・24 | 円形 | 弧状 | 0.38 | 0.37 | 0.08 | 13.03 | |
| | P053 | 1区 | K24-19・24 | 円形 | 弧状 | 0.37 | 0.35 | 0.09 | 13.00 | |
| | P054 | 1区 | K24-24 | 楕円形 | 台形状 | 0.69 | 0.65 | 0.11 | 12.97 | |
| | P055 | 1区 | K25-12 | 楕円形 | 弧状 | 0.77 | 0.60 | 0.10 | 12.98 | |
| | P057 | 1区 | K25-21 | 円形 | 弧状 | 0.53 | 0.47 | 0.07 | 13.03 | |
| | P058 | 1区 | K25-21 | 円形 | 弧状 | 0.45 | 0.41 | 0.18 | 13.03 | |
| | P059 | 1区 | L24-3 | 円形 | 弧状 | 0.40 | 0.41 | 0.10 | 12.99 | |
| | P060 | 1区 | K24-20 | 円形 | 弧状 | 0.61 | 0.50 | 0.07 | 13.01 | |
| | P061 | 1区 | K24-20・K25-16 | 円形 | 弧状 | 0.51 | 0.44 | 0.07 | 13.03 | |
| | P062 | 1区 | K24-20・K25-16 | 円形 | 弧状 | 0.88 | 0.77 | 0.08 | 13.03 | |
| | P063 | 1区 | K24-20・25 | 円形 | 弧状 | 0.92 | 0.77 | 0.09 | 13.01 | |
| | P064 | 1区 | K24-25 | 円形 | 弧状 | 0.55 | 0.49 | 0.07 | 13.04 | |
| | P065 | 1区 | K24-25 | 円形 | 弧状 | 0.52 | 0.45 | 0.08 | 13.03 | |
| | P066 | 1区 | L24-25 | 円形 | 弧状 | 0.52 | 0.45 | 0.07 | 13.04 | |
| | P067 | 1区 | L24-4 | 楕円形 | 台形状 | 0.99 | 0.84 | 0.09 | 13.01 | |
| | P068 | 1区 | K25-21 | 円形 | 弧状 | 0.43 | 0.39 | 0.08 | 13.02 | |
| | P069 | 1区 | K25-16・17・21・22 | 楕円形 | 箱状 | 0.68 | 0.60 | 0.06 | 13.05 | P073に切られる |
| | P070 | 1区 | L24-10・L25-1・6 | 円形 | 箱状 | 0.72 | 0.72 | 0.18 | 12.93 | |
| | P071 | 1区 | L25-1・2 | 円形 | 台形状 | 0.94 | 0.86 | 0.26 | 12.85 | |
| | P072 | 1区 | L25-6 | 円形 | 台形状 | 0.96 | 0.85 | 0.12 | 12.96 | |
| | P073 | 1区 | K25-17 | 円形 | 弧状 | 0.39 | 0.33 | 0.09 | 13.03 | P069を切る |
| | P074 | 1区 | K25-22 | 楕円形 | 階段状 | 0.89 | 0.60 | 0.09 | 13.01 | |
| | P075 | 1区 | K25-21・22 | 円形 | 箱状 | 0.31 | 0.30 | 0.14 | 12.98 | |
| | P076 | 1区 | K25-22 | 円形 | 弧状 | 0.44 | 0.37 | 0.13 | 12.96 | |
| | P078 | 1区 | K24-1 | 円形 | 弧状 | 0.62 | 0.52 | 0.09 | 12.97 | |
| | P106 | 2区 | O32-10 | 円形 | 箱状 | 0.39 | 0.35 | 0.18 | 12.69 | |
| | P108 | 2区 | N32-11 | 楕円形 | 弧状 | 0.52 | 0.39 | 0.09 | 12.86 | |
| | P110 | 2区 | O32-5 | 円形 | V字状 | 0.43 | 0.42 | 0.17 | 12.71 | |
| | P112 | 2区 | N33-21・O33-1 | 楕円形 | 弧状 | 0.48 | 0.36 | 0.09 | 12.81 | |
| | P116 | 2区 | N32・19・24 | 楕円形 | 弧状 | 0.54 | 0.43 | 0.12 | 12.78 | |
| | P202 | 3区 | J21-1 | 円形 | 弧状 | 0.44 | 0.41 | 0.29 | 12.90 | |
| | P203 | 3区 | K20-5 | (楕円形) | 弧状 | 0.36 | (0.28) | 0.08 | 13.15 | P204に切られる |
| | P204 | 3区 | J20-25・K20-5 | 円形 | 弧状 | 0.52 | 0.51 | 0.13 | 13.09 | P203を切る |
| | P205 | 3区 | J20-11 | 楕円形 | 弧状 | 0.42 | 0.30 | 0.09 | 13.10 | |
| | P208 | 3区 | J20-5・10 | 楕円形 | 弧状 | 0.58 | 0.56 | 0.12 | 13.08 | |
| | P209 | 3区 | J20-5 | 楕円形 | 弧状 | 0.50 | 0.34 | 0.10 | 13.10 | |
| | P211 | 3区 | I20・19・20 | (円形) | 箱状 | (0.43) | (0.23) | 0.20 | 13.02 | 西半が削平されている |
| | P213 | 3区 | I19・8・13 | 不整形 | V字状 | 0.49 | 0.46 | 0.30 | 12.69 | |
| | P214 | 3区 | I19・15・I19・11 | (楕円形) | 半円状 | (0.76) | (0.51) | 0.34 | 12.80 | 西半が削平されている |
| | P311 | 4区 | L28・25 | 円形 | 半円状 | 0.33 | 0.33 | 0.20 | 12.73 | |
| | P332 | 4区 | M29・15 | (楕円形) | U字状 | 0.61 | 0.29 | 0.27 | 12.68 | |
| | P335 | 4区 | O32-6 | (楕円形) | U字状 | 0.64 | 0.36 | (0.46) | 12.24 | |
| | P404 | 4区 | J21・25 | 円形 | 弧状 | 0.61 | 0.73 | 0.11 | 13.03 | |
| | P406 | 4区 | J21・8・9・13・14 | 円形 | 弧状 | 0.92 | 0.91 | 0.11 | 12.95 | |

| | 遺構番号 | 位置 | 方位 | | 間数 | 面積(㎡) | 長軸(m) | 短軸(m) | 備考 | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | N-14°-W | | | 4間以上×3間 | 48.25 | (11.20) | 7.98 | | |
| 掘立柱建物 | | 柱穴 | 柱痕 | 平面形 | 平面規模(m) | 断面形 | 深さ(m) | 底面標高(m) | 柱間(m) | 備考 |
| | SB336 | P329 | 無 | 楕円形 | 0.89 | 階段状 | 0.78 | 11.95 | P326 4.60 | |
| | | P326 | 無 | 楕円形 | 0.74 | 階段状 | 0.45 | 12.27 | P324 2.39 | |
| | | P324 | 無 | 円形 | 0.53 | 階段状 | 0.51 | 12.42 | P325 2.34 | |
| | | P325 | 無 | 円形 | 0.79 | 階段状 | 0.51 | 12.34 | P315 2.65 | |
| | | P315 | 無 | 円形 | 1.18 | 偏斗状 | 0.75 | 12.19 | P323 2.36 | |
| | | P323 | 無 | 不整形 | 0.78 | 階段状 | 0.60 | 12.22 | P313 2.34 | |
| | | P313 | 無 | 楕円形 | 0.75 | 階段状 | 0.97 | 12.00 | P328 4.55 | |
| | | P328 | 無 | 円形 | 0.72 | 階段状 | 0.80 | 11.98 | – – | |

| | 遺構番号 | 調査区 | 位置 | 平面形 | 断面形 | 長径(m) | 短径(m) | 深さ(m) | 底面標高(m) | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 井戸 | SE310 | 4区 | M29-10・M30-6 | (楕円形) | 台形状 | 0.55 | (0.54) | 0.95 | 11.95 | |

| | 遺構番号 | 調査区 | 位置 | 断面形 | 巻き(m) | 幅(m) | 深さ(m) | 方位(南東又は西側から) | 底面標高(m) | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 自然流路 | NR215 | 3区 | I18・I19 | 弧状 | (10.71) | 4.60 | 0.17 | E-12°-N<br>E-61°-N | 12.98 | SD212・P213・P214の上 |

## 遺物観察表1

### 大原遺跡

（口：口縁部　胴：胴部　底：底部　天井：天井部　頸：頸部　杯：杯部　脚：脚部　摘：摘部　全：全体）
（チャー：チャート　長：長石　石：石英　雲：雲母　海：海綿骨針　白：白色粒子　黒：黒色粒子）

土器

| 番号 | 出土位置 | 種別 | 器種 | 残存部 | 時期 | 法量(cm) 口径 | 底径 | 器高 | 胎土（含有物） | 胎土分類 | 色調・断面 | 焼成 | 成形・調整 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 1K SD03 | 須恵器 | 有台杯 | 口～底 | V-2 | 14.5 | 8.2 | 7.3 | 石・長・白 | B | [illegible] | 良好 | 外：ロクロナデ 底 回転ヘラ切り 内：ロクロナデ | |
| 2 | 1K SD03 | 土師器 | 甕 | 口～胴 | 8C末 | (15.0) | - | (14.5) | 石・長・チャート・白・黒 | | [illegible] | やや不良 | 外：上部ハケ 下部ケズリ 内：上部カキメ 下部ハケ | |
| 3 | 1K SD03 | 須恵器 | 無台杯 | 口～底 | IV-1 | (12.6) | (8.0) | 3.7 | | C1 | [illegible] | 良好 | 外：ロクロナデ 底 回転ヘラ切り 内：ロクロナデ | |
| 4 | 1K SD03 | 須恵器 | 無台杯 | 口～底 | IV-1 | 13.6 | 9.8 | 3.4 | | | [illegible] | 良好 | 外：ロクロナデ 底 回転ヘラ切り 内：ロクロナデ | |
| 5 | 1K SD03 | 須恵器 | 有台杯 | 底 | IV-1 | - | (8.4) | (2.2) | 長・白・黒 | | [illegible] | 不良 | 外：ロクロナデ 内：ロクロナデ | |
| 6 | 1K SD03 | 須恵器 | 蓋 | 口 | | (8.6) | - | (2.0) | 石・白・黒 | C1 | [illegible] | 良好 | 外：ロクロナデ 内：ロクロナデ | |
| 7 | 1K SD03 | 須恵器 | 無台杯 | 口～底 | IV-1 | (13.0) | (8.4) | (4.4) | 石・長・石・黒 | C1 | [illegible] | やや不良 | 外：ロクロナデ 底 回転ヘラ切り 内：ロクロナデ | 還元焼成不完全 |
| 8 | 1K SD03 | 須恵器 | 無台杯 | 口～底 | IV-1 | 13.4 | 10.2 | 3.8 | 石・長・白・黒 | C1 | [illegible] | やや不良 | 外：ロクロナデ 内：ロクロナデ | 還元焼成不完全 |
| 9 | 1K SD03 | 須恵器 | 有台杯 | 口～底 | | (13.4) | (8.4) | 3.5 | | C2 | [illegible] | 良好 | 外：ロクロナデ 底 回転ヘラ切り後ナデ 内：ロクロナデ | [illegible] |
| 10 | 1K SD03 | 須恵器 | 有台杯 | 口～底 | IV-1 | 13.8 | 9.7 | 3.9 | 石・長・白 | C1 | [illegible] | 良好 | 外：ロクロナデ 底 回転ヘラ切り後高台付ナデ 内：ロクロナデ | 高台内に墨書「大」 |
| 11 | 1K SD03 | 須恵器 | 有台杯 | 口～底 | IV-2 | 13.8 | 7.8 | 4.0 | 石・白 | C1 | [illegible] | 良好 | 外：ロクロナデ 内：ロクロナデ | |
| 12 | 1K SD03 | 須恵器 | 有台杯 | 口～底 | IV-2 | 16.4 | 8.8 | 7.1 | 石・長・白 | C2 | [illegible] | 良好 | 外：ロクロナデ 底 回転ヘラ切り 内：ロクロナデ | |
| 13 | 1K SD03 | 須恵器 | 有台杯 | 底 | | - | (6.4) | (2.1) | 石・黒 | C1 | [illegible] | 良好 | 外：ロクロナデ 内：ロクロナデ | |
| 14 | 1K SD03 | 須恵器 | 杯 | 口 | | (14.8) | - | (4.6) | | B | [illegible] | 良好 | 外：ロクロナデ 内：ロクロナデ | |
| 15 | 1K SD03 | 須恵器 | 甕 | 口～胴 | | (23.6) | - | (5.3) | | C2 | [illegible] | 良好 | 外：ロクロナデ 内：ロクロナデ | |
| 16 | 1K SD03 | 須恵器 | 横瓶 | 胴 | | - | - | (7.7) | 石・黒 | C1 | [illegible] | 良好 | | |
| 17 | 1K SD03 | 土師器 | 鍋？ | 口～底 | | (10.6) | - | 4.8 | 石・長・雲・チャート・白・黒 | | [illegible] | 良好 | 外：ナデ 内：ナデ | |
| 18 | 1K SD03 | 土師器 | 甕 | 底 | 8C後半 | - | 9.1 | (4.6) | 石・チャート・白・黒 | | [illegible] | 不良 | 外：－ 内：－ | |
| 19 | 1K SD03 | 土師器 | 甕 | 口～胴 | | (12.6) | - | (4.1) | 石・長・雲・チャート・白・黒 | | [illegible] | やや良好 | 外：ハケ 内：ハケ | |
| 20 | 1K SD03 | 土師器 | 甕 | 口～胴 | | (14.0) | - | (3.7) | 石・長・白 | | [illegible] | 良好 | 外：－ 内：ナデ | |
| 21 | 1K SD03 | 土師器 | 甕 | 口～胴 | | (16.0) | - | (3.1) | 石・長・白・黒 | | [illegible] | やや良好 | 外：ロクロナデ 内：ロクロナデ | |
| 22 | 1K SD03 | 土師器 | 甕 | 口～胴 | | (16.8) | - | (3.7) | 石・長・白 | | [illegible] | やや不良 | 内：カキメ | |
| 23 | 1K SD03 | 土師器 | 甕 | 口～胴上半 | | (17.8) | - | (5.2) | 石・白・黒 | | [illegible] | やや良好 | 外：ハケ 内：ハケ カキメ | |
| 24 | 1K SD03 | 土師器 | 甕 | 口～胴 | | (9.8) | - | (5.6) | 石・白・黒 | | [illegible] | 良好 | 内：カキメ | |
| 25 | 1K SD03 | 土師器 | 甕 | 口～胴 | | (19.4) | - | (4.6) | 石・白・黒 | | [illegible] | やや不良 | 外：ハケ | |
| 26 | 1K SD03 | 土師器 | 甕 | 口～胴 | | (16.0) | - | (4.9) | 石・白・黒 | | [illegible] | やや不良 | 外：ナデ | |
| 27 | 1K SD03 | 土師器 | 甕 | 口～胴 | | (16.0) | - | (6.0) | 石・チャート・白・黒 | | [illegible] | やや良好 | | |
| 28 | 1K SD03 | 土師器 | 甕 | 口 | | (32.4) | - | (3.3) | 石・長・チャート・黒 | | [illegible] | 良好 | 外：ナデ 内：ナデ カキメ | |
| 29 | 1K SD03 | 土師器 | 甕 | 口～胴 | | (32.0) | - | (6.6) | 石・チャート・白・黒 | C1 | [illegible] | やや良 | 外：カキメ 内：カキメ | |
| 30 | 1K SD03 | 土師器 | 甕 | 口～胴 | 8C後半 | (39.4) | - | (8.6) | 石・長・チャート・白・黒 | | [illegible] | やや良 | 外：ハケ 内：ハケ | |
| 31 | 1K SD04 | 須恵器 | 無台杯 | 口～底 | | (14.0) | (11.0) | 3.5 | 石・白 | C1 | [illegible] | 良好 | 外：ロクロナデ 底 回転ヘラ切り後ナデ 内：ロクロナデ | [illegible] |
| 32 | 1K SD04 | 須恵器 | 無台杯 | 口～底 | IV-1 | 13.0 | 8.8 | 3.6 | 石・白 | C1 | [illegible] | 良好 | 外：ロクロナデ 底 回転ヘラ切り 内：ロクロナデ | 底部線刻 |
| 33 | 1K SD04 | 須恵器 | 無台杯 | 口～底 | IV-2 | 13.8 | 9.6 | 3.5 | 石・白 | C1 | [illegible] | 良好 | 外：ロクロナデ 底 回転ヘラ切り 内：ロクロナデ | 底部線刻 |
| 34 | 1K SD04 | 須恵器 | 無台杯 | 口～底 | IV-1 | (13.0) | (8.8) | 3.5 | 石・長・白 | C1 | [illegible] | 良好 | 外：ロクロナデ 底 回転ヘラ切り 内：ロクロナデ | 底部線刻 |
| 35 | 1K SD04 | 須恵器 | 無台杯 | 口～底 | IV-3 | (12.6) | 8.4 | 3.3 | 石・白 | C1 | [illegible] | 良好 | 外：ロクロナデ 底 回転ヘラ切り後ナデ 内：ロクロナデ | |
| 36 | 1K SD04 | 須恵器 | 無台杯 | 口～底 | IV-3 | (11.6) | (7.5) | 3.4 | 石・長・白 | C1 | [illegible] | やや不良 | 外：ロクロナデ 底 回転ヘラ切り 内：ロクロナデ | |
| 37 | 1K SD04 | 須恵器 | 無台杯 | 口～底 | IV-1 | (14.7) | (8.8) | 4.0 | 石・長・白 | C1 | [illegible] | やや不良 | 外：ロクロナデ 底 回転ヘラ切り後ナデ 内：ロクロナデ | |
| 38 | 1K SD04 | 須恵器 | 無台杯 | 口 | IV-1 | (11.8) | - | (2.9) | | C1 | [illegible] | 良好 | 外：ロクロナデ 内：ロクロナデ | |
| 39 | 1K SD04 | 須恵器 | 壺 | 肩 | III～IV | - | - | (3.5) | | C1 | [illegible] | 良好 | 外：ロクロナデ 内：ロクロナデ | |
| 41 | 1K SD05 | 須恵器 | 壺 | 底 | IV以降 | - | - | (4.3) | 石・白・黒 | A | [illegible] | 良好 | 外：ロクロナデ 内：ロクロナデ | |
| 42 | 1K SD09 | 須恵器 | 有台杯 | 底 | IV-2 | - | (8.0) | (2.7) | 石・白 | B | [illegible] | 良好 | 外：ロクロナデ 底 回転ヘラ切り 内：ロクロナデ | |
| 43 | 1K SD10 | 須恵器 | 無台杯 | 口～底 | | (12.3) | (7.8) | 3.0 | | B | [illegible] | 良好 | 外：ロクロナデ 底 回転ヘラ切り 内：ロクロナデ | |
| 44 | 1K SD10 | 土師器 | 甕 | 口～胴上半 | 8C | (13.4) | - | (5.4) | [illegible] | | [illegible] | 不良 | 外：不明 内：カキメ | |
| 45 | 1K SD10 ベルト3層 | 土師器 | 甕 | 口～胴 | 8C末 | (21.2) | - | (13.4) | 石・長・チャート・白・黒 | | [illegible] | 良好 | 外：ロクロナデ、ハケメ後カキメ 内：ロクロナデ | [illegible] |
| 46 | 1K SD11 | 須恵器 | 蓋 | 口 | V | (12.8) | - | (1.1) | 石・長・白 | C1 | [illegible] | 良好 | 外：ロクロナデ 内：ロクロナデ | |
| 47 | 1K SD11 | 須恵器 | 蓋 | 口 | | (16.0) | - | (1.2) | 石・黒 | B | [illegible] | 良好 | 外：ロクロナデ 内：ロクロナデ | |
| 48 | 1K SD11 | 須恵器 | 蓋 | 天井～口 | V | (16.7) | - | (1.6) | 石・白・黒 | B | [illegible] | 良好 | 外：ロクロナデ 内：ロクロナデ | |
| 49 | 1K SD11 | 須恵器 | 有台杯 | 底 | V-2 | - | 9.6 | (3.4) | 石・白・黒 | B | [illegible] | 良好 | 外：ロクロナデ 底 回転ヘラ切り 内：ロクロナデ | |
| 50 | 1K SI07 | 須恵器 | 蓋 | 摘み～天井 | IV-2 | | [illegible] | (2.0) | 石・長・白 | C1 | [illegible] | 良好 | 外：ロクロナデ 回転ヘラ切り後ケズリ 内：ロクロナデ | 摘み周に墨書有 |
| 51 | 1K SI07 | 須恵器 | 蓋 | 摘み～口 | | | [illegible] | (2.1) | 石・長 | C1 | [illegible] | 良好 | 外：ロクロナデ 内：ロクロナデ | |
| 52 | 1K SI07 | 須恵器 | 蓋 | 摘み～口 | IV-1 | 14.6 | [illegible] | 2.7 | 石・白・黒 | C2 | [illegible] | 良好 | 外：ロクロナデ 内：ロクロナデ | 転用硯 |
| 53 | 1K SI07 | 須恵器 | 蓋 | 天井～口 | | (16.8) | - | (1.8) | 石・長・白・黒 | C1 | [illegible] | 良好 | 外：ロクロナデ 内：ロクロナデ | |
| 54 | 1K SI07 | 須恵器 | 無台杯 | 口～底 | IV-2 | (12.4) | (8.2) | 3.7 | 石・長・白 | | [illegible] | 良好 | 外：ロクロナデ 底 回転ヘラ切り 内：ロクロナデ | |
| 55 | 1K SI07 | 須恵器 | 無台杯 | 口～底 | | (12.4) | (7.4) | 3.3 | 石・白 | C1 | [illegible] | 良好 | 外：ロクロナデ 底 回転ヘラ切り 内：ロクロナデ | |
| 56 | 1K SI07 | 須恵器 | 無台杯 | 口～底 | IV-1 | (15.0) | (7.8) | 4.2 | | C1 | [illegible] | 良好 | 外：ロクロナデ 底 回転ヘラ切り後ナデ 内：ロクロナデ | [illegible] |
| 57 | 1K SI07 | 須恵器 | 無台杯 | 口～底 | | 14.0 | 9.6 | 3.9 | 石・長・白 | C1 | [illegible] | 良好 | 外：ロクロナデ 底 回転ヘラ切り 内：ロクロナデ | |
| 58 | 1K SI07 | 須恵器 | 無台杯 | 口～底 | IV-1 | 13.4 | 9.9 | 4.1 | 石・長・チャート・白・黒 | A | [illegible] | 不良 | 外：ロクロナデ 底 回転ヘラ切り 内：ロクロナデ | 底部に墨痕 |
| 59 | 1K SI07 | 須恵器 | 無台杯 | 口～底 | | 13.6 | 8.6 | 4.1 | 石・白 | C1 | [illegible] | 良好 | 外：ロクロナデ 底 回転ヘラ切り後ナデ 内：ロクロナデ | 底部に墨痕 |
| 60 | 1K SI07 | 須恵器 | 無台杯 | 口～底 | IV-2? | (13.6) | (8.8) | 2.9 | 石・黒 | A | [illegible] | 良好 | 外：ロクロナデ 底 回転ヘラ切り 内：ロクロナデ | |
| 61 | 1K SI07 | 須恵器 | 無台杯 | 口～底 | | (17.3) | (13.6) | (3.6) | 石・黒 | | [illegible] | やや不良 | 外：ロクロナデ 底 回転ヘラ切り 内：ロクロナデ | |
| 62 | 1K SI07 | 須恵器 | 無台杯 | 口～底 | | (11.9) | - | (3.9) | 石・白・黒 | C1 | [illegible] | 良好 | 外：ロクロナデ 底 回転ヘラ切り 内：ロクロナデ | |
| 63 | 1K SI07 | 須恵器 | 有台杯 | 口～底 | | 16.8 | 8.0 | 6.8 | | C1 | [illegible] | 良好 | 外：ロクロナデ 底 回転ヘラ切り後高台付ナデ 内：ロクロナデ | |
| 64 | 1K SI07 | 須恵器 | 有台杯 | 口～底 | IV-1 | 13.0 | 8.4 | 3.7 | 石・長・白 | C1 | [illegible] | 良好 | 外：ロクロナデ 底 回転ヘラ切り 内：ロクロナデ | |
| 65 | 1K SI07 | 須恵器 | 有台杯 | 底 | | - | (8.9) | (2.7) | | | [illegible] | 不良 | 外：ロクロナデ 内：ロクロナデ | |
| 66 | 1K SI07 | 須恵器 | 有台杯 | 口 | | (13.6) | - | (5.0) | | B | [illegible] | 良好 | 外：ロクロナデ 内：ロクロナデ | |
| 67 | 1K SI07 | 須恵器 | 壺 | 口 | | (10.1) | - | (3.8) | 石・黒 | B | [illegible] | 良好 | 外：ロクロナデ 内：ロクロナデ | |
| 68 | 1K SI07 | 須恵器 | 甕 | 口～胴上半 | | (24.0) | - | (10.6) | 石・白・黒 | C1 | [illegible] | 良好 | 外：口 ロクロナデ 胴 タタキ 内：口 ロクロナデ 胴 [illegible] | |
| 69 | 1K SI07 | 土師器 | 無台杯 | 底 | | - | 9.3 | (3.6) | 石・長 | | [illegible] | やや不良 | 外：ロクロナデ 底 回転ヘラ切り 内：ロクロナデ | |
| 70 | 1K SI07 | 土師器 | 高杯 | 脚 | | - | - | (4.8) | 石・白・黒 | | [illegible] | 良好 | 内：ミガキ 黒色処理 | |
| 71 | 1K SI07 | 土師器 | 甕 | 口～胴 | | (16.0) | - | (3.1) | チャート・白・黒 | | [illegible] | やや不良 | | |
| 72 | 1K SI07 | 土師器 | 甕 | 口～胴 | | (18.4) | - | (4.4) | 石・雲・チャート・白・黒 | | [illegible] | 良好 | | |
| 73 | 1K SI07 | 土師器 | 甕 | 口～胴 | | (23.2) | - | (5.4) | 石・白・黒・雲母 | | [illegible] | 良好 | 外：ハケ 内：ハケ | |
| 74 | 1K SI07 | 土師器 | 甕 | 口～胴上半 | | | | | 石・長 | | [illegible] | やや不良 | | |
| 75 | 1K SI07 | 土師器 | 甕 | 口～胴上半 | | (26.0) | - | (5.7) | 石・チャート・白・黒 | | [illegible] | やや良好 | | |
| 76 | 1K SI07 | 土師器 | 甕 | 口～胴上半 | | (26.8) | - | (5.3) | 石・黒 | | [illegible] | やや良好 | | |
| 77 | 1K SK13 | 須恵器 | 無台杯 | 口～底 | V | (11.8) | (7.8) | 2.9 | 石・黒 | C1 | [illegible] | 良好 | 外：ロクロナデ 底 回転ヘラ切り 内：ロクロナデ | |
| 78 | 1K P08 | 須恵器 | 無台杯 | 底 | V | - | (8.2) | (1.4) | | B | [illegible] | 良好 | 外：ロクロナデ 底 回転ヘラ切り 内：ロクロナデ | |
| 79 | 1K P12 | 須恵器 | 無台杯 | 口～底 | IV-2 | 12.7 | 9.4 | 3.8 | 石・長・白 | C1 | [illegible] | 良好 | 外：ロクロナデ 底 回転ヘラ切り 内：ロクロナデ | [illegible] |

## 遺物観察表2

### 大原遺跡

| 番号 | 出土位置 | 種別 | 器種 | 残存位 | 時期 | 法量(cm) 口径 | 底径 | 器高 | 胎土（含有物） | 胎土分類 | 色調・胎質 | 焼成 | 成形・調整 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 80 | 1K [illegible] | 須恵器 | 蓋 | 天井〜口 | Ⅳ以降 | − | [illegible] | (4.6) | [illegible] | C2 | [illegible] | 良好 | 外：ロクロナデ 内：ロクロナデ | 外面に自然釉薄くかかる |
| 81 | 1K C4 | 須恵器 | 高台杯 | 口縁〜底部 | Ⅴ | 11.7 | 7.7 | 3.1 | [illegible] | B | [illegible] | 良好 | 外：ロクロナデ 底 回転ヘラ切り後ナデ 内：ロクロナデ | |
| 82 | 1K C3 | 須恵器 | 高台杯 | 口〜底 | Ⅳ-2 | (11.7) | (8.0) | 3.2 | [illegible] | C2 | [illegible] | やや不良 | 外：ロクロナデ 内：ロクロナデ | |
| 83 | [illegible] | 須恵器 | 高台杯 | 口〜底 | Ⅳ〜Ⅴ | 12.6 | 9.2 | 3.3 | [illegible] | A | [illegible] | 良好 | 外：ロクロナデ 内：ロクロナデ | |
| 84 | 1K 33-7 | 須恵器 | 高台杯 | 口〜底 | Ⅳ-2 | (13.4) | (7.2) | 3.2 | [illegible] | C2 | [illegible] | やや不良 | 外：ロクロナデ 底 回転ヘラ切り 内：ロクロナデ | 還元焼成不完全 |
| 85 | 1K C3 | 須恵器 | 高台杯 | 口〜底 | Ⅳ-2 | (13.4) | (8.6) | 3.6 | [illegible] | C1 | [illegible] | 良好 | 外：ロクロナデ 底 回転ヘラ切り 内：ロクロナデ | |
| 86 | 1K C4 | 須恵器 | 高台杯 | 口〜底 | Ⅳ〜Ⅴ | (11.7) | 7.6 | 3.6 | [illegible] | B | [illegible] | 良好 | 外：ロクロナデ 底 回転ヘラ切り 内：ロクロナデ | [illegible] |
| 87 | 2K [illegible] | 須恵器 | 杯 | 口 | Ⅳ〜Ⅴ | (14.6) | (11.0) | (3.4) | [illegible] | C1 | [illegible] | 良好 | 外：ロクロナデ 内：ロクロナデ | |
| 88 | [illegible] | 須恵器 | 高台杯 | 口〜底 | Ⅳ〜Ⅴ | 14.0 | 9.5 | 4.1 | [illegible] | C1 | [illegible] | 良好 | 外：ロクロナデ 底 回転ヘラ切り 内：ロクロナデ | [illegible] |
| 89 | 1K [illegible] | 須恵器 | 高台杯 | 口 | Ⅴ | (13.0) | - | (4.1) | [illegible] | C1 | [illegible] | 良好 | 外：ロクロナデ 内：ロクロナデ | |
| 90 | 1K [illegible] | 須恵器 | 高台杯 | 口 | Ⅴ〜Ⅵ | (16.0) | - | (3.9) | [illegible] | B | [illegible] | 良好 | 外：ロクロナデ 内：ロクロナデ | |
| 91 | [illegible] | 須恵器 | 高台杯 | 底 | Ⅴ | − | (8.0) | (3.8) | [illegible] | B | [illegible] | 良好 | 外：ロクロナデ 底 回転ヘラ切り 内：ロクロナデ | |
| 92 | [illegible] | 須恵器 | 高台杯 | 底 | Ⅴ | − | 7.6 | (2.0) | [illegible] | B | [illegible] | 良好 | 外：ロクロナデ 底 回転ヘラ切り 内：ロクロナデ | |
| 93 | [illegible] | 須恵器 | 高台杯 | 底 | Ⅳ-2 | − | (11.8) | (1.1) | [illegible] | C1 | [illegible] | 良好 | 外：ロクロナデ 底 回転ヘラ切り 内：ロクロナデ | |
| 94 | [illegible] | 須恵器 | 有台杯 | 口〜底 | Ⅴ-1 | 10.6 | 6.8 | 3.6 | [illegible] | C1 | [illegible] | 良好 | 外：ロクロナデ 底 回転ヘラ切り後ナデ 内：ロクロナデ | |
| 95 | 1K C3 | 須恵器 | 有台杯 | 底 | Ⅳ-1〜Ⅴ | − | (8.4) | (1.3) | [illegible] | C1 | [illegible] | 良好 | 外：ロクロナデ 内：ロクロナデ | [illegible] |
| 96 | [illegible] | 須恵器 | 有台杯 | 底 | Ⅳ-3 | − | (10.4) | (1.6) | [illegible] | C1 | [illegible] | 良好 | 外：ロクロナデ 内：ロクロナデ | |
| 97 | 1K [illegible] | 須恵器 | 有台杯 | 底 | Ⅳ-2以降 | - | (7.3) | (2.3) | [illegible] | C1 | [illegible] | 良好 | 外：ロクロナデ 内：ロクロナデ | |
| 98 | [illegible] | 須恵器 | 壺 | 底 | | − | (14.3) | (4.1) | [illegible] | D | [illegible] | 良好 | 外：ロクロナデ 内：ロクロナデ | |
| 99 | [illegible] | 須恵器 | 甕 | 口 | | (25.2) | − | (4.1) | [illegible] | D | [illegible] | 良好 | 外：ロクロナデ 内：ロクロナデ | |
| 100 | 1K C3 | 須恵器 | 甕 | 口 | | (36.0) | - | (6.6) | [illegible] | C2 | [illegible] | 良好 | 外：ロクロナデ 内：ロクロナデ | |
| 101 | 3K [illegible] | 須恵器 | 甕 | 口〜胴上半 | | (22.1) | - | (8.3) | [illegible] | C1 | [illegible] | 良好 | 外：口 ロクロナデ 胴 タタキ後ハケ 内：口 ロクロナデ 胴 [illegible] | |
| 102 | [illegible] | 須恵器 | 甕 | 口〜胴上 | | - | - | (8.8) | [illegible] | | [illegible] | 良好 | 外：口 ロクロナデ 胴 タタキ後ハケ 内：口 ロクロナデ 胴 [illegible] | |
| 103 | 1K C3 | 土師器 | 甕 | 口〜胴 | 8C末 | (9.9) | - | (8.1) | [illegible] | | [illegible] | やや不良 | 外：ロクロナデ 内：ロクロナデ | |
| 104 | [illegible] | 須恵器 | 高台杯 | 底 | | - | (7.3) | 2.7 | [illegible] | | [illegible] | 良好 | 外：ロクロナデ 内：ロクロナデ | |
| 105 | [illegible] | 須恵器 | 高台杯 | 口〜底 | | (11.4) | (7.6) | 2.8 | [illegible] | | [illegible] | 良好 | 外：ロクロナデ 内：ロクロナデ | |

#### 土製品

| 番号 | 出土位置 | 種別 | 器種 | 残存位 | 時期 | 口径 | 底径 | 器高 | 胎土（含有物） | 胎土分類 | 色調・胎質 | 焼成 | 成形・調整 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 40 | 1K [illegible] | 土製品 | 支脚 | | | 4.3 | - | (12.4) | [illegible] | | [illegible] | 良好 | [illegible] | |

### 道東遺跡

#### 古墳時代

| 番号 | 出土位置 | 種別 | 器種 | 残存位 | 時期 | 法量(cm) 口径 | 底径 | 器高 | 胎土（含有物） | 色調・胎質 | 焼成 | 成形・調整 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 3K SK201 | 土師器 | 甕 | 略完 | 中期 | 27.4 | 7.6 | (11.6) (21.6) | [illegible] | [illegible] | 良好 | 外：口 ヨコナデ 胴 ハケ 内：ハケ | |
| 2 | 3K SK201 | 土師器 | 鉢 | 全 | 中期 | 16.0 | 4.0 | 7.9 | [illegible] | [illegible] | やや不良 | | |
| 3 | 3K SK310 | 土師器 | 高杯 | 杯 | 中期？ | 15.6 | - | (2.2) | [illegible] | [illegible] | やや不良 | | |
| 4 | 4K SK303 | 土師器 | 甕 | 口 | 中期 | 18.0 | - | (3.3) | [illegible] | [illegible] | やや良好 | 外：ヨコナデ 内：ヨコナデ | |
| 5 | 4K SK303 | 土師器 | 高杯 | 杯 | 13 | (20.6) | - | (4.2) | [illegible] | [illegible] | 良好 | 外：ナデ 内：ナデ | C II 類 |
| 6 | 4K SK303 | 土師器 | 高杯 | 杯 | 12 | 16.6 | - | 4.5 | [illegible] | [illegible] | 良好 | 外：摩滅（ナデ） | |
| 7 | 4K SK304 | 土師器 | 甕 | 口〜頸 | 中期 | (16.4) | - | (4.6) | [illegible] | [illegible] | 良好 | 外：口 ヨコナデ 頸 ハケ 内：口 ヨコナデ 頸 ハケ | |
| 8 | 4K SK401 | 土師器 | 高杯 | 脚 | 中期 | - | - | (6.0) | [illegible] | [illegible] | 良好 | | |
| 9 | 4K SK402 | 土師器 | 壺 | 口 | 中期？ | (11.6) | - | (3.3) | [illegible] | [illegible] | 良好 | 外：ヨコナデ 内：ヨコナデ | |
| 10 | 4K SK402 | 土師器 | 高杯 | 脚 | 中期？ | - | - | (6.3) | [illegible] | [illegible] | 良好 | 外：ミガキ 内：ナデ | |
| 11 | 4K SK402 | 土師器 | 鉢 | 全 | 12〜13 | 13.6 | 3.0 | 6.5 | [illegible] | [illegible] | やや不良 | | |
| 12 | 4K SK409 | 土師器 | 高杯 | 杯 | 中期 | - | - | (1.3) | [illegible] | [illegible] | 良好 | | |
| 13 | 4K SK412 | 土師器 | 甕 | 口〜胴 | 中期？ | (18.6) | - | (7.6) | [illegible] | [illegible] | 良好 | 外：口 ヨコナデ 胴 ハケ 内：口 ヨコナデ 胴 ハケ | |
| 14 | 4K SK412 | 土師器 | 甕 | 口〜頸 | 中期？ | (20.2) | - | (4.6) | [illegible] | [illegible] | 良好 | 外：口 ヨコナデ 胴 ハケ 内：口 ヨコナデ 胴 ハケ | |
| 15 | 4K SK412 | 土師器 | 甕 | 口〜胴 | 中期 | (16.6) | - | (5.7) | [illegible] | [illegible] | やや不良 | 内：口 摩滅 胴 ハケ | |
| 16 | 4K SD403 | 土師器 | 甕 | 口〜胴 | 中期？ | 17.7 | - | 6.9 | [illegible] | [illegible] | やや不良 | 外：口 ヨコナデ 胴 ハケ 内：口 ヨコナデ 胴 ハケ | |
| 17 | 4K SD403 | 土師器 | 甕 | 口〜胴 | 中期？ | 17.6 | - | 8.2 | [illegible] | [illegible] | やや不良 | 外：口 ヨコナデ 胴 ハケ 内：口 ヨコナデ 胴 摩滅 ハケ | |
| 18 | 4K SD403 | 土師器 | 甕 | 口 | 中期？ | (19.0) | - | (3.1) | [illegible] | [illegible] | 良好 | 外：口 ヨコナデ 内：口 ヨコナデ | |
| 19 | 4K SD403 | 土師器 | 鉢 | 底 | 中期？ | - | 6.1 | 6.1 | [illegible] | [illegible] | やや不良 | 外：ハケ 内：ハケ | |
| 20 | 4K SD403 | 土師器 | 椀 | 全 | 11〜12 | 15.2 | 4.4 | 6.0 | [illegible] | [illegible] | やや不良 | | |
| 21 | 4K SK419 | 土師器 | 鉢 | 口 | 中期？ | 13.8 | - | 4.1 | [illegible] | [illegible] | 良好 | | |
| 22 | 4K SK422 [illegible] | 土師器 | 鉢 | 口 | 中期？ | (14.3) | - | (3.7) | [illegible] | [illegible] | 良好 | | |
| 23 | 4K SK423 | 土師器 | 高杯 | 脚 | 中期 | - | - | (5.2) | [illegible] | [illegible] | 良好 | 外：ミガキ 内：ユビナデ | |
| 24 | 4K SK420 | 土師器 | 甕 | 全 | 中期 | 25.7 | 6.2 | 43.3 | [illegible] | [illegible] | 良好 | 外：ハケ 内：ハケ | |
| 25 | 4K SK420 | 土師器 | 高杯 | 口〜脚 | 13 | 14.1 | - | (11.4) | [illegible] | [illegible] | 良好 | 外：口 ヨコナデ ハケ 内：杯 ハケ？ 脚 ハケ | F類 |
| 26 | 4K SK420 | 土師器 | 鉢 | 全 | 13 | 13.2 | 7.2 | 4.0 | [illegible] | [illegible] | 良好 | 外：口 ヨコナデ、ケズリ後ナデ 内：口 ヨコナデ、ケズリ後ナデ | |
| 27 | 4K SK418 | 土師器 | 甕 | 口 | 前期〜中期 | (20.8) | - | (3.6) | [illegible] | [illegible] | 良好 | 外：ハケ | |
| 28 | 4K SK421 | 土師器 | 高杯 | 杯 | 13 | 22.6 | - | (5.8) | [illegible] | [illegible] | やや不良 | | |
| 29 | 4K SK430 | 土師器 | 甕 | 口〜胴 | 中期 | 24.3 | - | (11.1) | [illegible] | [illegible] | やや不良 | 外：ハケ 内：ハケ | |
| 30 | 4K SK430 | 土師器 | 甕 | 口〜頸 | 中期？ | 16.6 | - | (4.4) | [illegible] | [illegible] | やや不良 | | |
| 31 | 4K SK430 | 土師器 | 高杯 | 杯 | 中期？ | 14.3 | - | (3.0) | [illegible] | [illegible] | 良好 | | |
| 32 | 4K SK430 | 土師器 | 鉢 | 口 | 中期？ | 11.9 | - | (3.4) | [illegible] | [illegible] | 良好 | | |
| 33 | 4K SK430 | 土師器 | 甕 | 略完 | 中期 | 30.6 | 3.0 | (7.8) (12.8) | [illegible] | [illegible] | 良好 | 外：ハケ 内：ケズリ | |
| 34 | 4K SD403 | 土師器 | 高杯 | 杯 | 中期 | - | - | (2.4) | [illegible] | [illegible] | やや不良 | 外：ヨコナデ 内：ヨコナデ | |
| 35 | 4K SD411 | 土師器 | 壺 | 口〜頸 | 13 | (17.6) | - | (5.6) | [illegible] | [illegible] | 良好 | | |
| 36 | 4K SD411 L25 | 土師器 | 高杯 | 杯〜脚 | 前期？ | - | - | (3.6) | [illegible] | [illegible] | 良好 | 外：ハケ | |
| 37 | 4K SD411 | 土師器 | 高杯 | 脚 | 中期 | - | - | (6.7) | [illegible] | [illegible] | 良好 | 外：ミガキ 内：ナデ | |
| 38 | 4K SD415 | 土師器 | 甕 | 口〜胴 | 中期？ | 22.4 | - | (9.6) | [illegible] | [illegible] | 良好 | 外：口 ヨコナデ 胴 ハケ 内：口 ヨコナデ 胴 ハケ | |
| 39 | 4K SD415 | 土師器 | 甕 | 口〜胴 | 中期 | (13.3) | - | (4.6) | [illegible] | [illegible] | 良好 | 外：口 ヨコナデ 胴 ハケ | |
| 40 | 4K SD415 | 土師器 | 壺 | 口 | 中期？ | 10.8 | - | (2.0) | [illegible] | [illegible] | やや不良 | 外：ヨコナデ 内：ヨコナデ | |
| 41 | 4K SD416 | 土師器 | 壺・甕 | 胴 | 中期？ | | - | | [illegible] | [illegible] | 良好 | | |
| 42 | 4K SD417 | 土師器 | 甕 | 口〜胴 | 12・13 | 18.0 | - | 8.9 | [illegible] | [illegible] | 良好 | 外：口 ヨコナデ 胴 摩滅 内：口 ヨコナデ 胴 ケズリ | 在地系 |
| 43 | 4K SD417 | 土師器 | 甕 | 口〜胴 | 中期 | 14.0 | - | (8.8) | [illegible] | [illegible] | 不良 | 外：ハケ | |
| 44 | 4K SD417 | 土師器 | 鉢 | 全 | 中期 | 12.6 | 2.0 | 10.8 | [illegible] | [illegible] | 良好 | 外：口 ヨコナデ 上部 ハケ 下部 ケズリ 内：口 ヨコナデ 胴 ヘラナデ | |
| 45 | 4K SD417 | 土師器 | 小型丸底？ | 口 | 12・13 | 14.9 | - | (3.0) | [illegible] | [illegible] | やや不良 | | |
| 46 | 4K SD417 | 土師器 | 壺 | 口 | 中期？ | (11.6) | - | (3.1) | [illegible] | [illegible] | 良好 | | |
| 47 | 4K SD417 | 土師器 | 高杯 | 脚 | 13 | - | 14.0 | (10.0) | [illegible] | [illegible] | 不良 | 外：摩滅 ハケ 内：摩滅 ハケ | A I か B II |
| 48 | 4K SD417 [illegible] | 土師器 | 高杯？ | 脚 | 中期 | - | 11.8 | (1.9) | [illegible] | [illegible] | やや不良 | | |

## 遺物観察表3

### 道東遺跡

| 報告No. | 出土位置 | 種別 | 器種 | 遺存位 | 時期 | 法量(cm) 口径 | 底径 | 器高 | 胎土（含有物） | 色調・胎調 | 焼成 | 成形・調整 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 49 | 4区 SD417 | 土師器 | 椀 | 底欠 | 中期 | 13.0 | - | (6.1) | [illegible] | [illegible] | 良好 | 内：ヘラナデ | |
| 50 | 4区 P404 | 土師器 | 不明 | 底 | 中期？ | - | 10.1 | (2.7) | [illegible] | [illegible] | やや不良 | 外：ナデ？ | 被熱痕？ |
| 51 | 4区 SD062 | 土師器 | 甕 | 口～胴 | 中期 | 17.0 | - | 6.0 | [illegible] | [illegible] | 良好 | 外：口 ヨコナデ 胴 ハケ<br>内：口 ヨコナデ 胴 ハケ | |
| 52 | 1区 SD062 | 土師器 | 甕 | 底欠 | 中期 | 23.0 | - | (30.7) | [illegible] | [illegible] | 良好 | 外：口 ヨコナデ 胴 ハケ後ケズリ<br>内：口 ヨコナデ 胴 ケズリ | |
| 53 | 4区 SD062 | 土師器 | 鉢 | 底 | 中期？ | - | (6.4) | (2.9) | [illegible] | [illegible] | 良好 | 外：ヨコナデ<br>内：ナデ | |
| 54 | 4区 SD062 | 土師器 | 椀 | 全 | 中期 | 17.1 | 7.0 | 6.3 | [illegible] | [illegible] | やや不良 | 外：ハケ | |
| 55 | 4区 SD016 | 土師器 | 甕 | 口～胴 | 中期？ | 16.3 | - | (6.3) | [illegible] | [illegible] | やや不良 | 外：口 ヨコナデ 胴 ハケ<br>内：口 ヨコナデ 胴 ナデ？ | |
| 56 | 4区 SD016 | 土師器 | 甕 | 口～胴 | 中期 | 17.8 | - | (4.0) | [illegible] | [illegible] | 不良 | | |
| 57 | 4区 SD016 | 土師器 | 甕 | 口～胴 | 中期？ | (19.6) | - | (3.9) | [illegible] | [illegible] | 良好 | 外：ナデ<br>内：ナデ | |
| 58 | 4区 SD016 | 土師器 | 甕 | 口～胴 | 中期 | 22.0 | - | (7.9) | [illegible] | [illegible] | 良好 | 外：口 ヨコナデ 胴 ハケ<br>内：口 ヨコナデ 胴 ハケ | |
| 59 | 4区 SD032 | 土師器 | 甕 | 口 | 中期？ | 18.0 | - | (3.7) | [illegible] | [illegible] | やや不良 | | |
| 60 | 4区 SD032 | 土師器 | 高杯 | 杯 | 中期 | 17.2 | - | (3.0) | [illegible] | [illegible] | 良好 | | |
| 61 | 4区 SD404 | 土師器 | 鉢 | 口～胴 | 中期？ | (9.4) | - | (3.2) | [illegible] | [illegible] | 良好 | | |
| 62 | 4区 SD301 | 土師器 | 壺 | 全 | 中期 | 29.0 | 7.0 | (21.7)<br>(14.3) | [illegible] | [illegible] | やや不良 | 外：口 ユビナデ 胴 ハケ<br>内：口 ユビナデ 胴 ハケ | |
| 63 | 4区 SD301 M31 | 土師器 | 壺 | 胴欠 | 中期 | 14.2 | 5.7 | (5.9)<br>(7.7) | [illegible] | [illegible] | やや不良 | 外：口 ヨコナデ 胴 ナデ<br>内：口 ヨコナデ 胴 ナデ | |
| 64 | 4区 SD301 | 土師器 | 甕 | 口～胴 | 中期 | (22.5) | - | (7.8) | [illegible] | [illegible] | やや不良 | 外：口 ヨコナデ<br>内：口 ヨコナデ | |
| 65 | 4区 SD301 | 土師器 | 甕 | 口～胴 | 中期 | 17.1 | - | (6.8) | [illegible] | [illegible] | やや不良 | 外：口 ヨコナデ 胴 ハケ 黒斑<br>内：口 ヨコナデ 胴 ケズリ | |
| 66 | 4区 SD301 | 土師器 | 甕 | 口 | 中期？ | (26.3) | - | (3.9) | [illegible] | [illegible] | 良好 | 外：口 ヨコナデ 胴 ハケ 黒斑<br>内：口 ヨコナデ | |
| 67 | 4区 SD301 | 土師器 | 甕 | 口～胴 | 中期？ | 16.8 | - | 8.5 | [illegible] | [illegible] | 良好 | 外：口 ヨコナデ 胴 ハケ 黒斑<br>内：口 ヨコナデ 胴 ナデ | |
| 68 | 4区 SD301 | 土師器 | 甕 | 口 | 中期 | 29.8 | - | (4.6) | [illegible] | [illegible] | 良好 | 外：口 ヨコナデ<br>内：口 ヨコナデ ハケ後下膨る | |
| 69 | 4区 SD301 | 土師器 | 甕 | 口 | 中期？ | (18.6) | - | (3.8) | [illegible] | [illegible] | やや不良 | 外：ヨコナデ<br>内：ヨコナデ | |
| 70 | 4区 SD301 | 土師器 | 甕 | 口～胴 | 中期 | 22.2 | - | (10.6) | [illegible] | [illegible] | 良好 | 内：ハケ | |
| 71 | 4区 SD301 | 土師器 | 高杯 | 杯 | 中期 | 17.0 | - | 2.7 | [illegible] | [illegible] | 良好 | 内：ナデ | |
| 72 | 4区 SD301 | 土師器 | 高杯 | 杯 | 中期 | 17.4 | - | (3.5) | [illegible] | [illegible] | やや不良 | | |
| 73 | 4区 SD301 | 土師器 | 高杯 | 脚 | 中期 | - | 10.6 | 5.9 | [illegible] | [illegible] | やや不良 | 外：ハケナデ 黒斑<br>内：ナデ | |
| 74 | 4区 SD301 | 土師器 | 高杯 | 脚 | 中期？ | - | 11.2 | 7.6 | [illegible] | [illegible] | やや不良 | 外：脚 ミガキ スソ 黒斑 | |
| 75 | 4区 SD301 | 土師器 | 高杯 | 脚 | 中期 | - | (11.2) | (6.8) | [illegible] | [illegible] | 良好 | | |
| 76 | 4区 SD301 | 土師器 | 高杯 | 脚 | 中期 | - | - | (7.0) | [illegible] | [illegible] | 良好 | 外：ミガキ<br>内：ナデ | |
| 77 | 4区 SD301 | 土師器 | 鉢 | 底欠 | 13古め | 14.3 | - | (6.8) | [illegible] | [illegible] | やや不良 | 外：口 ヨコナデ 胴 ナデ<br>内：口 ヨコナデ 胴 ナデ | |
| 78 | 4区 SD301 | 土師器 | 椀 | 全 | 中期 | 12.6 | 4.0 | 4.5 | [illegible] | [illegible] | やや不良 | 外：ハケナデ ナデ？<br>内：ハケナデ ナデ？ | |
| 79 | 4区 SD301 | 土師器 | ミニチュア土器 | 全 | 13 | 6.8 | 4.2 | 4.2 | [illegible] | [illegible] | 良好 | 外：ハケ<br>内：ハケ | |
| 80 | 4区 SD302 | 土師器 | 高杯 | 杯 | 中期 | 18.2 | - | 4.8 | [illegible] | [illegible] | やや不良 | | |
| 81 | 4区 SD302 | 土師器 | 鉢 | 全 | 中期 | 14.4 | 3.6 | 3.6 | [illegible] | [illegible] | 良好 | 外：ナデ<br>内：ナデ | 底部赤彩 |
| 82 | 4区 SX410 K26-16 | 土師器 | 甕 | 口 | 中期？ | (27.6) | - | (4.6) | [illegible] | [illegible] | やや不良 | 外：ハケ<br>内：ハケ | |
| 83 | 4区 SX410 L25-6 | 土師器 | 甕 | 口～胴 | 中期？ | 17.5 | - | (4.5) | [illegible] | [illegible] | やや不良 | 外：口 ヨコナデ 胴 黒斑 | |
| 84 | 4区 SX410 K26-16 | 土師器 | 甕 | 口 | 中期？ | (18.4) | - | (3.0) | [illegible] | [illegible] | やや不良 | 外：ヨコナデ<br>内：ヨコナデ | |
| 85 | 4区 SX410 K26-16 | 土師器 | 甕 | 口～胴 | 中期？ | (15.2) | - | (5.6) | [illegible] | [illegible] | 良好 | 外：口 ヨコナデ 胴 ハケ<br>内：口 ヨコナデ 胴 ハケ | |
| 86 | 4区 SX410 K26-16 | 土師器 | 壺 | 口 | 中期？ | (16.1) | - | (3.2) | [illegible] | [illegible] | やや不良 | 外：口 ヨコナデ | |
| 87 | 4区 SX410 K25-[illegible] | 土師器 | 壺 | 口 | 中期 | 14.6 | - | (4.9) | チャート・[illegible] | [illegible] | 良好 | | |
| 88 | 4区 SX410 K25-[illegible] | 土師器 | 壺 | 口 | 中期 | 12.8 | - | (4.0) | [illegible] | [illegible] | やや不良 | | |
| 89 | 4区 SX410 K26 | 土師器 | 高杯 | 杯 | 13 | - | - | (4.5) | [illegible] | [illegible] | 良好 | | |
| 90 | 4区 SX410 | 土師器 | 高杯 | 杯 | 13 | 16.8 | - | (4.8) | [illegible] | [illegible] | 良好 | | |
| 91 | 4区 SX410 L26-1 | 土師器 | 高杯 | 杯 | 中期？ | (16.1) | - | (3.8) | [illegible] | [illegible] | 良好 | 内：杯 ナデ | |
| 92 | 4区 SX410 L25-6 | 土師器 | 高杯 | 脚 | 中期？ | - | 9.6 | (4.3) | [illegible] | [illegible] | やや不良 | | |
| 93 | 4区 SX410 L26-1 | 土師器 | 鉢 | 口～胴 | 中期？ | (18.9) | - | (6.3) | [illegible] | [illegible] | やや不良 | 外：口 ヨコナデ 胴 ハケ | |
| 94 | 4区 SX410 K26-16 | 土師器 | 鉢 | 口 | 中期？ | 12.3 | - | (3.4) | [illegible] | [illegible] | やや不良 | 外：ヨコナデ | |
| 95 | 4区 SX410 K25-[illegible] | 土師器 | 鉢 | 口～胴 | 中期？ | 11.3 | - | (4.1) | [illegible] | [illegible] | やや不良 | 外：ハケ？<br>内：ハケ？ | |
| 96 | 4区 SX410 L26-7 | 土師器 | 鉢 | 口 | | (21.0) | - | (3.6) | [illegible] | [illegible] | 良好 | 外：ミガキ | |
| 97 | 4区 SX410 K25-[illegible] | 土師器 | 椀 | 口 | 中期？ | (16.6) | - | (3.5) | [illegible] | [illegible] | 良好 | 外：ナデ<br>内：ナデ | |
| 98 | 4区 SX410 K26 | 土師器 | 椀 | 全 | 中期 | (13.7) | | (4.8) | [illegible] | [illegible] | やや不良 | | |
| 99 | 4区 SX410 K25-[illegible] | 土師器 | 鉢 | 口 | 中期 | (11.0) | - | (2.5) | [illegible] | [illegible] | やや不良 | | |
| 100 | 4区 SX410 | 土師器 | 甕 | 口～胴 | 中期 | 21.8 | - | (9.5) | [illegible] | [illegible] | やや不良 | | |
| 101 | 4区 SX413 L27-12 | 土師器 | 甕 | 口～胴 | 中期 | 19.8 | - | (8.5) | [illegible] | [illegible] | 不良 | 外：口 ヨコナデ 胴 ハケ<br>内：口 ヨコナデ 胴 黒斑 | |
| 102 | 4区 SX413 L27-12 | 土師器 | 甕 | 口～胴 | 中期 | 16.8 | - | (7.8) | [illegible] | [illegible] | 良好 | 外：口 ヨコナデ 胴 ハケ | |
| 103 | 4区 SX413 L27-6 | 土師器 | 甕 | 口～胴 | 前期 | 11.9 | - | (4.7) | [illegible] | [illegible] | 良好 | | |
| 104 | 4区 SX413 L27-11 | 土師器 | 壺 | 口 | 中期 | (16.4) | - | (4.0) | [illegible] | [illegible] | 良好 | 外：ヨコナデ<br>内：口 ヨコナデ 胴 ハケ | 2個 |
| 105 | 4区 SX413 L27-21 | 土師器 | 壺 | 口 | 中期？ | (17.8) | - | (4.1) | [illegible] | [illegible] | 良好 | | |
| 106 | 4区 SX413 L26-15 | 土師器 | 壺 | 口 | 中期？ | 16.0 | - | (7.4) | [illegible] | [illegible] | 不良 | 外：ナデ | 在地系 |
| 107 | 4区 SX413 L27-[illegible] | 土師器 | 高杯 | 杯 | 中期？ | 18.0 | - | (3.1) | [illegible] | [illegible] | 良好 | 外：口 ヨコナデ 黒斑 | |
| 108 | 4区 SX413 K27-1 | 土師器 | 高杯 | 杯 | 中期 | 17.8 | - | (4.1) | [illegible] | [illegible] | やや不良 | | |
| 109 | 4区 SX413 L27-[illegible] | 土師器 | 椀 | 口 | 中期 | (18.6) | - | (3.4) | [illegible] | [illegible] | 良好 | | |
| 110 | [illegible] | 土師器 | 甕 | 口～胴 | 中期古め | 19.1 | - | (24.9) | [illegible] | [illegible] | やや不良 | 外：口 ヨコナデ 胴 ハケ<br>内：口 ヨコナデ 胴 ハケ | |
| 111 | [illegible] | 土師器 | 甕 | 胴～底 | 中期？ | - | 5.6 | (19.3) | [illegible] | [illegible] | やや不良 | 外：ハケ<br>内：ハケ | |
| 112 | 試掘 T-[illegible] | 土師器 | 壺 | 口 | 中期 | 14.6 | - | (2.9) | [illegible] | [illegible] | やや不良 | | |
| 113 | 試掘 T-[illegible] | 土師器 | 壺 | 口 | 中期 | (13.4) | - | (3.4) | [illegible] | [illegible] | 良好 | | |
| 114 | 試掘 T-[illegible] | 土師器 | 壺 | 口 | 12・13 | 17.2 | - | (4.9) | [illegible] | [illegible] | 良好 | | |

### 古代以降

| 報告No. | 出土位置 | 種別 | 器種 | 遺存位 | 時期 | 法量(cm) 口径 | 底径 | 器高 | 胎土（含有物） | 胎土分類 | 色調・釉調 | 焼成 | 成形・調整 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 115 | 4区 P313 | 土師器 | 椀 | 口欠 | VI | - | 6.2 | (4.1) | チャート・[illegible] | | [illegible] | 良好 | 外：ロクロナデ 底 回転ヘラ切り<br>内：ロクロナデ | |
| 116 | 4区 SD312 | 土師器 | 椀 | 口 | VI | 12.2 | - | (3.1) | [illegible] | | [illegible] | 良好 | 外：ロクロナデ<br>内：ロクロナデ | |
| 117 | 4区 SD312 | 須恵器 | 無台杯 | 口 | VI | 13.0 | - | (2.4) | [illegible] | B | [illegible] | 良好 | 外：ロクロナデ<br>内：ロクロナデ | |
| 118 | 4区 SD312 | 須恵器 | 無台杯 | 口 | VI | 11.6 | - | (2.1) | [illegible] | B | [illegible] | 良好 | 外：ロクロナデ<br>内：ロクロナデ | |
| 119 | 4区 SD312 | 須恵器 | 無台杯 | 口～底 | VI | 12.6 | 7.8 | 2.8 | [illegible] | B | [illegible] | 良好 | 外：ロクロナデ 底 回転ヘラ切り<br>内：ロクロナデ | 黒色噴出物 |
| 120 | 4区 SD312 | 須恵器 | 無台杯 | 底 | V | - | 8.0 | (2.0) | [illegible] | B | [illegible] | 良好 | 外：ロクロナデ 底 回転ヘラ切り<br>内：ロクロナデ | |
| 121 | 4区 SD312 | 須恵器 | 無台杯 | 底 | VI | - | 7.6 | (2.4) | [illegible] | B | [illegible] | 良好 | 外：ロクロナデ 底 回転ヘラ切り<br>内：ロクロナデ | |
| 122 | 4区 SD312 | 須恵器 | 無台杯 | 底 | VI | - | 6.6 | (1.3) | [illegible] | B | [illegible] | 良好 | 外：ロクロナデ 底 回転ヘラ切り<br>内：ロクロナデ | |
| 123 | 4区 SD312 | 須恵器 | 壺 | 口欠 | | - | 10.6 | (18.3) | [illegible] | B | [illegible] | 良好 | 外：ロクロナデ 一部タタキ後ナデ<br>内：ロクロナデ | 黒色噴出物 |
| 124 | 4区 SD312 | 土師器 | 甕 | 口～胴 | 古代 | 20.0 | - | (4.8) | [illegible] | | [illegible] | 良好 | | |
| 125 | 4区 SD312 | 土師器 | 甕 | 口 | 古代 | 27.5 | - | (3.8) | [illegible] | | [illegible] | 良好 | | |

## 遺物観察表4

### 道東遺跡

| 報告No | 出土位置 | 種別 | 器種 | 残存位 | 時期 | 法量(cm) 口径 | 底径 | 器高 | 胎土（含有物） | 胎土分類 | 色調・釉調 | 焼成 | 成形・調整 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 126 | 4区 SD312 | 土師器 | 甕 | 口 | 古代 | 33.4 | − | (3.8) | 石・長・白 密 | | 外：灰白 内：灰白 | 良好 | | |
| 127 | 4区 SD312 | 土師器 | 甕 | 口 | V〜VI | (44.8) | − | (3.6) | [illegible] | | [illegible] | 良好 | | |
| 128 | 2区 SX218 | 須恵器 | 無台杯 | 口 | 不明 | 14.0 | − | (2.4) | 白・黒 | C1 | 外：灰 内：灰白 | 良好 | 外：ロクロナデ 内：ロクロナデ | スス付着 |
| 129 | 1区 SK006 | 土師器 | 鍋 | 口 | 古代 | 42.6 | − | (6.1) | チャート・白・黒 | | 外：にぶい黄橙 内：にぶい黄橙 | 良好 | | |
| 130 | 2区 SE001 | 須恵器 | 無台杯 | 口 | V | 14.0 | − | (2.8) | [illegible] | C1 | 外：黄灰 内：灰 | 良好 | 外：ロクロナデ 内：ロクロナデ | |
| 131 | 2区 SE001 | 須恵器 | 無台杯 | 口〜底 | 不明 | (13.0) | (7.8) | 3.2 | 白・黒 | | 外：灰オリーブ 内：灰オリーブ | 良好 | 外：ロクロナデ 底 回転ヘラ切り 内：ロクロナデ | |
| 132 | 2区 SE001 | 須恵器 | 無台杯 | 口〜底 | VI | 12.0 | 7.0 | 2.9 | 白・黒・海 海綿骨針 | C1 | 外：黄灰 内：灰 | 良好 | 外：ロクロナデ 底 回転ヘラ切り 内：ロクロナデ | 底部に杯口縁部付着 |
| 133 | 2区 SE001 | 須恵器 | 無台杯 | 口〜底 | | 11.6 | 6.4 | 2.8 | 白・黒 | B | 外：オリーブ灰 内：オリーブ灰 | 良好 | 外：ロクロナデ 底 回転ヘラ切り 内：ロクロナデ | 黒色噴出物 |
| 134 | 2区 SE001 | 須恵器 | 有台杯 | 底 | V | − | 8.6 | (1.8) | 白・黒 海綿骨針 | B | 外：灰白 内：灰白 | 良好 | 外：ロクロナデ 底 回転ヘラ切り 内：ロクロナデ | |
| 135 | 2区 SE003 | 須恵器 | 無台杯 | 口 | IV〜V | 11.8 | − | (2.8) | 白・黒 | C2 | 外：灰 内：灰白 | 良好 | 外：ロクロナデ 内：ロクロナデ | 黒色噴出物 |
| 136 | 2区 SE004 | 須恵器 | 無台杯 | 口 | | − | − | − | [illegible] | B | 外：灰オリーブ 内：灰オリーブ | 良好 | 外：ロクロナデ 内：ロクロナデ | |
| 137 | 2区 SE004 | 土師器 | 甕 | 胴 | V〜VI | − | − | (9.5) | 石・白 | | 外：橙 内：にぶい橙 | 良好 | 外：上半 ロクロナデ 下半 タタキ 内：上半 ロクロナデ 下半 タタキ | |
| 138 | 4区 SE006 | 須恵器 | 無台杯 | 口 | III〜IV | 12.6 | − | (2.8) | 白・黒 | C1 | 外：灰白 内：灰白 | 良好 | 外：ロクロナデ 内：ロクロナデ | |
| 139 | 2区 SE007 | 土師器 | 椀 | 底 | V | − | 7.0 | (1.8) | チャート・白・黒 | | [illegible] | やや不良 | | |
| 140 | 4区 SE009 | 須恵器 | 無台杯 | 口〜底 | V | 12.0 | 8.8 | 3.2 | 白・黒 | B | 外：灰黄褐 内：灰黄褐 | 良好 | 外：ロクロナデ 内：ロクロナデ | |
| 141 | 2区 SE012 | 須恵器 | 杯蓋 | 天井〜口 | III | 14.7 | − | 2.0 | 白・黒 | C1 | 外：灰白 内：灰白 | 良好 | 外：ロクロナデ 回転ヘラ切り後ナデ 内：ロクロナデ | |
| 142 | 2区 SE012 | 須恵器 | 無台杯 | 口〜底 | 不明 | 14.4 | 8.0 | 3.8 | 白・黒 | C1 | 外：灰白 内：灰白 | やや不良 | 外：ロクロナデ 底 回転ヘラ切り 内：ロクロナデ | |
| 143 | 2区 SE012 | 須恵器 | 無台杯 | 口〜底 | IV-1 | 13.2 | 9.8 | 3.3 | [illegible] | C1 | 外：黄灰 内：灰黄褐 | 良好 | 外：ロクロナデ 底 回転ヘラ切り 内：ロクロナデ 見込みナデ | |
| 144 | 3区 SE012 | 土師器 | 椀 | 口〜底 | III〜IV | 14.8 | 8.0 | 3.4 | 黒・長 海綿骨針 | | [illegible] | やや不良 | 外：ロクロナデ 内：ロクロナデ | |
| 145 | 3区 SE012 | 土師器 | 椀 | 口〜底 | | 12.9 | 6.3 | 3.6 | 白・長・チャート・雲・黒 | | [illegible] | 不良 | 外：ロクロナデ 底 回転糸切り 内：ロクロナデ | |
| 146 | 3区 SE012 | 土師器 | 椀 | 全 | | 9.4 | 6.7 | 4.1 | チャート・黒 海綿骨針 | | [illegible] | やや不良 | [illegible] ロクロナデ | 灯明皿 |
| 147 | 3区 SE012 | 土師器 | 椀 | 全 | IV-1 | 7.5 | 6.1 | 2.8 | チャート・白・黒 | | [illegible] | やや不良 | [illegible] ナデ ロクロナデ | 灯明皿 |
| 148 | 4区 SE021 | 須恵器 | 無台杯 | 底 | V | − | 6.6 | (2.5) | 白・黒 | C1 | 外：灰白 内：灰白 | 良好 | 外：ロクロナデ 底 回転ヘラ切り 内：ロクロナデ | |
| 149 | 4区 SE021 | 須恵器 | 無台杯 | 底 | VI | − | 7.0 | (1.8) | 白・黒 | B | 外：灰オリーブ 内：灰白 | やや不良 | 外：ロクロナデ 底 回転ヘラ切り 内：ロクロナデ | |
| 150 | 4区 SE021 | 須恵器 | 甕 | 口 | | 28.0 | − | (3.8) | [illegible] | | [illegible] | 良好 | 外：ロクロナデ 内：ロクロナデ | 黒色噴出物 |
| 151 | 1区 P013 | 土師器 | 甕 | 口 | III〜IV | 27.2 | − | (3.2) | 石・チャート・白・黒 | | 外：にぶい黄橙 内：にぶい黄橙 | 良好 | | |
| 152 | 2区 P211 | 須恵器 | 有台杯 | 底 | V | − | 7.6 | (2.8) | 石・黒・白 | B | 外：灰 内：灰白 | 良好 | 外：ロクロナデ 底 回転ヘラ切り 内：ロクロナデ | |
| 153 | 1区 K24-6 | 須恵器 | 杯蓋 | 天井〜口 | IV-2以降 | 16.2 | − | 1.3 | [illegible] | C1 | [illegible] | 良好 | 外：ロクロナデ 内：ロクロナデ | |
| 154 | 1区 K24 | 須恵器 | 杯蓋 | 口 | V | 13.6 | − | (1.6) | [illegible] | B | [illegible] | 良好 | 外：ロクロナデ 回転ヘラ切り後ナデ 内：ロクロナデ | |
| 155 | 1区 SX003上 | 須恵器 | 無台杯 | 口 | 不明 | 13.4 | − | (2.7) | 白・黒 | C1 | 外：灰白 内：灰白 | 良好 | 外：ロクロナデ 内：ロクロナデ | |
| 156 | 3区 T19 | 須恵器 | 無台杯 | 口 | V | 14.5 | − | (4.8) | [illegible] | B | 外：灰 内：灰 | 良好 | 外：ロクロナデ 内：ロクロナデ | 口縁端部折り返す |
| 157 | 3区 T20 | 須恵器 | 無台杯 | 口 | IV-2以降 | 13.6 | − | 3.3 | 石・黒・白 | C2 | 外：灰 内：灰 | 良好 | 外：ロクロナデ 内：ロクロナデ | |
| 158 | 4区 N28 | 須恵器 | 無台杯 | 口 | VI | 12.2 | − | (2.9) | 石・白 | B | 外：灰白 内：灰白 | 良好 | 外：ロクロナデ 内：ロクロナデ | |
| 159 | 4区 N29 | 須恵器 | 無台杯 | 口 | V | (11.8) | − | (2.4) | 石・黒 | C1 | [illegible] | 良好 | 外：ロクロナデ 内：ロクロナデ | |
| 160 | 1区 J18-9 | 須恵器 | 無台杯 | 口 | IV-1 | (12.7) | − | (2.4) | 白・黒 | C1 | 外：灰オリーブ 内：灰オリーブ | 良好 | 外：ロクロナデ 内：ロクロナデ | |
| 161 | 4区 J31 | 須恵器 | 有台杯 | 底 | V | − | 7.8 | (2.4) | 白・黒 | | 外：灰黄褐 内：灰白 | 良好 | 外：ロクロナデ 内：ロクロナデ | |
| 162 | 1区 SX003上 | 須恵器 | 有台杯 | 底 | V | − | 8.8 | (2.1) | 白・黒 | B | 外：灰 内：灰白 | 良好 | 外：ロクロナデ 内：ロクロナデ | |
| 163 | 2区 N32-3 | 須恵器 | 有台杯 | 底 | IV-3 | − | 7.2 | (1.6) | 白・黒 海綿骨針 | B | 外：灰白 内：灰白 | やや不良 | 外：ロクロナデ 内：ロクロナデ | |
| 164 | 3区 J30 | 須恵器 | 有台杯 | 底 | V | − | 5.2 | (2.4) | 石・白・黒 | C1 | 外：灰白 内：灰白 | 良好 | 外：ロクロナデ 底 回転ヘラ切り後ナデ 内：ロクロナデ | |
| 165 | 4区 J21 | 須恵器 | 壺 | 口〜頸 | 不明 | 10.0 | − | (6.8) | 白、砂粒 | C1 | 外：灰白 内：灰 | 良好 | 外：口縁 ロクロナデ 頸 タタキ 内：口縁 ロクロナデ 頸 タタキ | 頸部 自然釉かかる |
| 166 | 1区 K24 | 須恵器 | 壺 | 底 | | − | 13.1 | (4.8) | 白・黒 | B | 外：灰オリーブ 内：灰オリーブ | 良好 | 外：ロクロナデ 内：ロクロナデ | 輪高台貼り付け |
| 167 | 2区 N31 | 磁器 | 碗 | 全 | 16c | 10.4 | 4.0 | 3.6 | [illegible] | | [illegible] | 良好 | 外：ロクロナデ 内：ロクロナデ | 見込みに重焼痕（トチン） |